

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第226集

千福南山Ⅲ西遺跡

第二東名No.148-2 地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市-6

2011

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第226集

千福南山Ⅲ西遺跡

第二東名No.148-2 地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市-6

2011

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

第二東名高速道路の建設に伴って静岡県内では多くの埋蔵文化財の発掘調査が行なわれました。本遺跡の所在する静岡県東部は、旧石器時代から縄文時代の遺跡が多数存在する地域として知られており、過去においても調査が行なわれ多くの成果が得られています。今回の第二東名高速道路の建設に伴う発掘調査では、今まで知られていなかった遺跡を含めて多数の成果が得られており、その中には静岡県を代表する遺跡となった調査成果もあります。

今回、報告する千福南山Ⅲ西遺跡（第二東名№148-2地点）は愛鷹山東麓に所在します。従来この地域は、南麓に比べて周知の遺跡はやや少なく、今回の第二東名高速道路の建設に伴い新たに発見された遺跡が数多くあります。千福南山Ⅲ西遺跡もその中の一つです。

千福南山Ⅲ西遺跡は調査範囲の大半がかなりの急傾斜地であり、周辺の調査事例から、調査成果に多大な期待を寄せることはできない、と当初は考えていました。しかし、調査が進行するにつれ、続々と検出される縄文時代の陥穴状土坑により、当初の予想は覆ることになりました。検出された土坑は最終的に約170基に達し、静岡県下で最多を誇ります。また、一遺跡からの検出数において、全国的にも屈指の遺跡になりました。また、僅かな量ではありますが、静岡県東部では類例の稀な縄文時代後期中葉の遺物が出土しているのも注意すべきであると考えます。

今回の報告書では、この地域における縄文時代の狩猟活動の一端を明らかにすべく、多くのデータを盛り込みました。この成果が地域の歴史を明らかにするための資料として有効に活用されることを期待します。

最後になりましたが、調査及び報告書の作成にあたり多大なる援助・協力を頂きました中日本高速道路株式会社東京支社沼津工事事務所、静岡県教育委員会をはじめ、多くの関係諸機関の方々に厚くお礼を申し上げます。また、危険な傾斜地の調査であるにもかかわらず、無事故で調査を完了させた調査参加者の苦勞をねぎらいたいと思います。

平成23年1月31日

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 石田 彰

例 言

1. 本書は静岡県裾野市葛山字ノ窪 148 他に所在する千福南山Ⅲ西遺跡 (No. 148-2 地点) の調査報告書である。
2. 調査は、第二東名高速道路施設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。
3. 千福南山Ⅲ西遺跡の確認調査、本調査および資料整理の期間は次のとおりである。

確認調査Ⅰ期	平成18年4月～5月
本調査Ⅰ期	平成18年6月～12月
確認調査Ⅱ期	平成21年2月～3月
確認調査Ⅲ期	平成21年4月
本調査Ⅱ期	平成21年4月～9月
資料整理・報告書作成	平成21年10月～平成22年3月
4. 本遺跡の調査・整理体制と、担当者は、以下のとおりである。

平成18年度 (確認調査Ⅰ期、本調査Ⅰ期)		
所長：斎藤 忠	常務理事兼総務部長：平松公夫	総務部次長兼総務課長：鈴木大二郎
調査研究部長：石川素久	調査研究部次長兼調査課長：及川 司	調査課係長：中鉢賢治
調査研究員：田中弘幸		
平成20年度 (確認調査Ⅱ期)		
所長兼常務理事：清水 哲	次長兼総務課長：大場正夫	次長兼調査課長：及川 司
調査課東部総括係長：中鉢賢治	調査研究員：木崎道昭	
平成21年度 (確認調査Ⅲ期、本調査Ⅱ期、資料整理)		
所長兼常務理事：天野 忍	次長兼総務課長：松村 享	次長兼調査課長：及川 司
次長兼東部総括係長：中鉢賢治	調査研究員：木崎道昭	
5. 本書の執筆は木崎道昭、大島秀俊 (株式会社シン技術コンサル) が行った。分担は下記のとおりである。なお、全体の監修は木崎道昭が行なった。

木崎道昭：第1章、第2章第1節、第2節、第4章第3節、附編の補註
大島秀俊：第2章第3節、第3章、第4章第1節、第2節、第4節、第5章、第6章
6. 出土遺物の接合・復元・実測・写真撮影および押印・表・写真図版の作成、報告書の版組編集作業は当研究所の監修・指導のもと株式会社シン技術コンサルが行った (附編は除く)。
7. 黒曜石の産地推定は、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦氏に依頼した。
8. 黒曜石以外の石材の同定は当研究所元整理技術員森嶋富士夫が行った。
9. 炭化物の年代測定・樹種同定については株式会社加速器分析研究所に委託した。
10. 調査で実施した委託事項および委託先は下記のとおりである。

平成18年度 (確認調査Ⅰ期、本調査Ⅰ期)	掘削業務 株式会社集組
測量業務	株式会社シン技術コンサル
平成20年度 (確認調査Ⅱ期)	掘削業務 セリザワ建設株式会社
測量業務	株式会社シン技術コンサル
平成21年度 (確認調査Ⅲ期、本調査Ⅱ期)	掘削業務 セリザワ建設株式会社

- 発掘調査および資料整理については以下の方にご指導・ご助言を賜った。厚く御礼申し上げます。
及川良彦 倉石広太 小林謙一 柴田 徹 長谷川 徹 福嶋正史 細野高伯（五十音順・敬称略）
- 発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管している。
- 本報告書における「文」・「紋」の使い分けに関しては、「縄文時代」・「縄文土器」については「文」を使用した。縄文土器の記述中においては「紋」を用いた。ただし「文様帯」については「文」を使用している。

凡 例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 本書で用いた遺物、遺構等の位置を表す国土座標値は、すべて旧日本測地系による。
- 調査区の方眼設定は旧日本測地系座標第Ⅲ系を使用し、X (-88980)、Y (35540) の南西角を原点とし、X軸（南北）はアルファベットのA～、Y軸（西東）はアラビア数字を1～から順次附番した。
- 出土遺物は、それぞれの遺物番号にX、Yの座標と標高を記録して取り上げている。
- 本文中または土器観察表に用いた色彩に関する用語、記号は『新版標準土色帖 1992年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修 1992）を使用した。
- 石器実測図、石器・剥片・礫観察表に使用した記号は以下の表の通りである。

岩石略号一覧

和 名	英 名	標準資料 略号
玄武岩	basalt	Ba
玄武岩(多孔質)	vesicular basalt	VBa
ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GAn
輝石安山岩	pyroxene andesite	An(Py)
ホルンフェルス	hornfels	Hor
安山岩(多孔質)	vesicular andesite	VAn
石英閃緑岩	quartz diorite	QD
緑色片岩	green schist	GS
緑色凝灰岩	green tuff	GT
黒曜石	obsidian	Ob

黒曜石産地略号一覧

略 号	産 地	
NDIY	和田(ND)	須山群
SNWD	諏訪	墨ヶ台群
HNKJ	稲垣	畑宿群
AGKT	天城	祐峰群
KZOB	神津島	恩地島群

- 石器実測図中で使用したスクリーントーンのうち  は磨面の範囲を、 は被熱の範囲、 は敲打痕、 は新規の破損部を表す。
- 出土遺物の縮尺は、土器 1/3、石器は剥片石器 4/5、打製石斧 1/2、磨石類・台石・礫器 1/3 として、それぞれスケールを付している。

目 次

序／例言／凡例

第Ⅰ章 調査に至る経緯と調査の経過

- 第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯……………1
- 第2節 調査の方法と経過……………1

第Ⅱ章 遺跡の概要

- 第1節 地理的環境……………6
- 第2節 歴史的背景……………9
- 第3節 基本層序……………11

第Ⅲ章 旧石器時代

- 第1節 旧石器時代の概要……………18
- 第2節 遺構……………18
- 第3節 石器……………18

第Ⅳ章 縄文時代

- 第1節 縄文時代の概要……………23
- 第2節 遺構……………23
- 第3節 土器……………69
- 第4節 石器……………82

第Ⅴ章 中世以降

- 第1節 中世以降の概要……………94
- 第2節 遺構……………94

第Ⅵ章 調査の成果

- 第1節 旧石器時代……………99
- 第2節 縄文時代……………99
- 第3節 中世以降……………105

附編 自然科学分析

- 第二東名千福南山Ⅲ西遺跡出土黒曜石産地推定結果……………109
- 千福南山Ⅲ西遺跡における放射性炭素測定（AMS測定）……………112
- 千福南山Ⅲ西遺跡出土炭化材の樹種……………119

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第 1 図	調査区とグリッド配置図	3	第 37 図	縄文時代土坑実測図 (25)	53
第 2 図	テストピット配置図	4	第 38 図	縄文時代土坑実測図 (26)	54
第 3 図	周辺の遺跡と地形図	7	第 39 図	縄文時代土坑実測図 (27)	55
第 4 図	路線内の遺跡と周辺の遺跡	8	第 40 図	縄文時代土坑実測図 (28)	56
第 5 図	柱状図 (1)	12	第 41 図	縄文時代土坑実測図 (29)	57
第 6 図	柱状図 (2)	14	第 42 図	縄文時代土坑実測図 (30)	58
第 7 図	本調査 I・II 期土層断面図	15, 16	第 43 図	縄文時代土坑実測図 (31)	59
第 8 図	旧石器時代遺構配置図	19	第 44 図	縄文時代土坑実測図 (32)	60
第 9 図	配石遺構 (HS 1) 実測図	19	第 45 図	縄文時代土坑実測図 (33)	61
第 10 図	旧石器時代石器・剥片・礫分布図	20	第 46 図	縄文時代土坑実測図 (34)・焼上遺構・ピット実測図	62
第 11 図	旧石器時代石器実測図	21	第 47 図	縄文時代炭化物集積中実測図	63
第 12 図	縄文時代遺構配置図	24	第 48 図	縄文土器・石器・剥片・礫分布図	70
第 13 図	縄文時代土坑実測図 (1)	29	第 49 図	縄文土器分布図 (前期)	71
第 14 図	縄文時代土坑実測図 (2)	30	第 50 図	縄文土器分布図 (中・後期)	72
第 15 図	縄文時代土坑実測図 (3)	31	第 51 図	縄文土器 (1)	74
第 16 図	縄文時代土坑実測図 (4)	32	第 52 図	縄文土器 (2)	75
第 17 図	縄文時代土坑実測図 (5)	33	第 53 図	縄文土器 (3)	76
第 18 図	縄文時代土坑実測図 (6)	34	第 54 図	縄文土器 (4)	77
第 19 図	縄文時代土坑実測図 (7)	35	第 55 図	縄文時代石器分布図	83
第 20 図	縄文時代土坑実測図 (8)	36	第 56 図	縄文時代石器実測図 (1)	84
第 21 図	縄文時代土坑実測図 (9)	37	第 57 図	縄文時代石器実測図 (2)	85
第 22 図	縄文時代土坑実測図 (10)	38	第 58 図	縄文時代石器実測図 (3)	87
第 23 図	縄文時代土坑実測図 (11)	39	第 59 図	縄文時代石器実測図 (4)	88
第 24 図	縄文時代土坑実測図 (12)	40	第 60 図	縄文時代石器実測図 (5)	89
第 25 図	縄文時代土坑実測図 (13)	41	第 61 図	縄文時代石器実測図 (6)	90
第 26 図	縄文時代土坑実測図 (14)	42	第 62 図	縄文時代石器実測図 (7)	91
第 27 図	縄文時代土坑実測図 (15)	43	第 63 図	縄文時代石器実測図 (8)	92
第 28 図	縄文時代土坑実測図 (16)	44	第 64 図	中世以降の遺構配置図	95
第 29 図	縄文時代土坑実測図 (17)	45	第 65 図	道路実測図	96
第 30 図	縄文時代土坑実測図 (18)	46	第 66 図	道路図	97
第 31 図	縄文時代土坑実測図 (19)	47	第 67 図	中世以降 土坑・ピット実測図	98
第 32 図	縄文時代土坑実測図 (20)	48	第 68 図	陥穴と周辺の地形図	101
第 33 図	縄文時代土坑実測図 (21)	49	第 69 図	棚返遺跡の打製石斧分布図	103
第 34 図	縄文時代土坑実測図 (22)	50	第 70 図	樺ノ木沢遺跡の打製石斧分布図	104
第 35 図	縄文時代土坑実測図 (23)	51			
第 36 図	縄文時代土坑実測図 (24)	52			

挿表目次

表 1 旧石器礫計測表 (1号配石遺構) ……18	表 5-4 遺構計測表 (土坑①~⑤) … 64~68
表 2 旧石器計測表 ……22	表 6 土器観察表①~③ …… 80~82
表 3 旧石器礫計測表 ……22	表 7 石器計測表 ……93
表 4 旧石器剥片計測表 ……22	表 8-1・2・3 遺構計測表 (土坑 / 近代道路 / ビット) ……98
表 5-1・2・3 遺構計測表 (焼土 / 炭化物 / ビット) ……63	

写真図版目次

図版 1 本調査Ⅱ期 縄文時代遺構検出状況 (合成写真)	図版 14 80~85.88.89号土坑完掘状況
図版 2 本調査Ⅰ期 縄文時代完掘状況 本調査Ⅱ期 調査区近景 (南から)	図版 15 90~97号土坑完掘状況
図版 3 本調査Ⅰ期土層断面 (Eライン北壁) 本調査Ⅰ期土層断面 (土層帯01) 本調査Ⅱ期土層断面 (a-bライン) TP9上層断面 (東から) 5号土坑上層断面 82号土坑土層断面 86号土坑完掘状況 87号土坑完掘状況	図版 16 98~105号土坑完掘状況 図版 17 106~113号土坑完掘状況 図版 18 114~121号土坑完掘状況 図版 19 122~129号土坑完掘状況 図版 20 130~137号土坑完掘状況 図版 21 138~145号土坑完掘状況 図版 22 146~153号土坑完掘状況 図版 23 154~161号土坑完掘状況 図版 24 162~169号土坑完掘状況 図版 25 1号焼土遺構完掘状況 2号焼土遺構検出状況 2号焼土遺構完掘状況 炭化物集中1 (北から) 炭化物集中1 (西から) 1号土坑完掘状況 8号土坑完掘状況 道路遺構完掘状況 (西から)
図版 4 本調査Ⅰ期KGP層遺物出土状況(南から) 本調査Ⅰ期KU層遺物出土状況(東から) 本調査Ⅱ期加曽利B式土器出土状況 本調査Ⅱ期打製石斧出土状況 1号配石遺構検出状況 (旧石器時代) 2~4号土坑完掘状況	図版 26 縄文土器 (1) 図版 27 縄文土器 (2) 図版 28 縄文土器 (3) 図版 29 縄文土器 (4) 図版 30 旧石器時代の石器 縄文時代の石器 (1) 図版 31 縄文時代の石器 (2) 図版 32 縄文時代の石器 (3) 図版 33 縄文時代の石器 (4)
図版 5 6~11号土坑完掘状況 12号土坑土層断面 12~13号土坑完掘状況	
図版 6 14~22号土坑完掘状況	
図版 7 23~30号土坑完掘状況	
図版 8 31~38号土坑完掘状況	
図版 9 39~46号土坑完掘状況	
図版 10 47~55号土坑完掘状況	
図版 11 56~63号土坑完掘状況	
図版 12 64~71号土坑完掘状況	
図版 13 72~79号土坑完掘状況	

第I章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

静岡県下における第二東名自動車道建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯については、平成19年3月刊行の『佛ヶ尾遺跡 第二東名№147地点』（静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第175集）に詳しく述べられている。ここでは裾野市内における第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて若干触れるに留めたい。

平成8年9月25日付けで締結された「第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」は長泉町～掛川市の遺跡を対象としたものであり、他地域の遺跡については、協定変更によって地点を追加するという形で調査対象となった。裾野市域の遺跡も同様であり、平成11年12月22日付けの第5回協定変更により、№144地点～№155地点の計12箇所が調査の対象となった。その後、平成13年度から平成16年度にかけての4度にわたる協定変更により、新たに9つの地点が追加され、合計21箇所の地点が当財団が調査を担当する遺跡となった。本書で報告する千福南山Ⅲ西遺跡（№148-2地点）は平成17年3月31日付けの第18回協定変更で、南山Ⅲ東遺跡（№148-3地点）とともに追加された遺跡である。裾野市内の遺跡については、その後の踏査及び確認調査の結果、№147・148・152・155の4つの地点が本調査の対象からは外れたため、当財団が本調査を実施したのは合計17箇所の遺跡である。

第2節 調査の方法と経過

1. 発掘調査の方法

遺跡全体に旧日本測地系座標第Ⅷ系原点の座標値（ $X = -88980$ 、 $Y = 35540$ ）を使用し、10m方眼を設定して調査を開始した（第1図）。確認調査Ⅰ期、本調査Ⅰ期、確認調査Ⅱ期では、遺構の実測と遺物の取り上げ記録についてはトータルステーションを使用し、土層図作成は全て手実測で行なった。確認調査Ⅲ期及び本調査Ⅱ期では、遺構実測、土層図作成、遺物の取り上げ記録は全てトータルステーションで行った。全ての調査において、現場での遺構・遺物の管理はパソコン内で行っている。

写真撮影には35mmサイズの小型カメラ、及び6×7サイズの中型カメラ、及びデジタルカメラを使用した。地区ごとの全景写真撮影にはローリングタワーを使用し、航空写真についてはラジコンヘリコプターにカメラを搭載して全景写真を撮影している。フィルムは35mmカラー、同リバーサル、ブローニー版の白黒フィルムを使用している。

2. 確認調査（第2図）

確認調査は、平成18年4月～5月（確認調査Ⅰ期）と、平成21年2月～3月（確認調査Ⅱ期）、平成21年4月（確認調査Ⅲ期）に実施した。確認調査Ⅰ期では、2,000㎡の面積を対象とし、6箇所（TP01～06）のテストピットを設定した。調査の結果、土坑1基、土器、石器、礫などが検出され、旧石器時代から縄文時代までの遺物包含層が存在することが確認された。その結果、1,343㎡が本調査の必要な箇所とされ、本調査Ⅰ期の調査区を設定した。

確認調査Ⅱ期では、調査対象面積は4,673㎡で、8箇所（TP07～14）のテストピットを設置した。

調査の結果、土坑3基、炭化物集中1基、土器を検出し、縄文時代の遺構と遺物包含層が存在することが確認された。確認調査Ⅲ期は、確認調査Ⅱ期で対象とした尾根頂部のさらに北側部分に2箇所（TP15・16）のテストピットを設置した。調査の結果、縄文時代の土坑1基を検出した。これにより、確認調査Ⅱ期及びⅢ期で遺構・遺物が確認されたテストピットを中心として本調査Ⅱ期の調査区を設定した。

3. 本調査

本調査は、平成18年6月～12月（本調査Ⅰ期）と平成21年4月～9月（本調査Ⅱ期）の2回に分けて実施した。

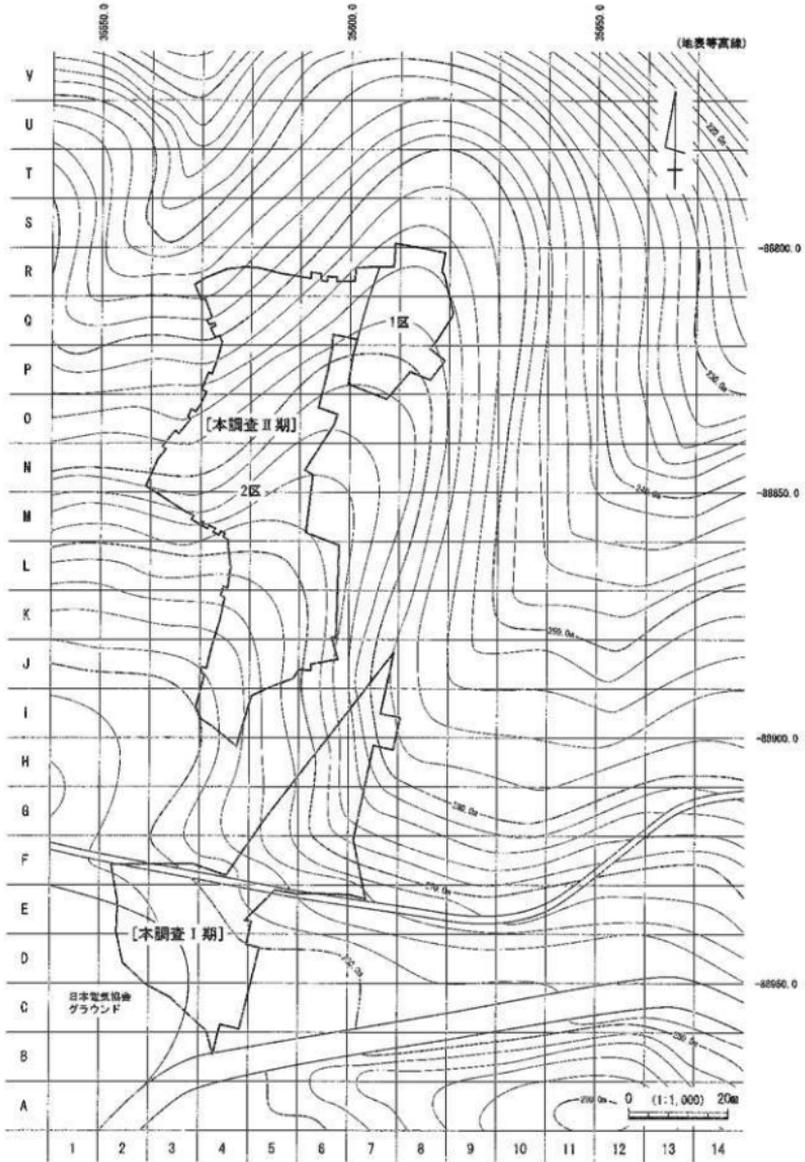
本調査Ⅰ期では、平成18年6月27日から重機で表土層及び上部層の除去を行い、7月7日より人力による縄文時代包含層の調査を開始した。縄文時代の遺物は各層から出ているが、平面的には調査区南側の丘陵平坦部と北端の斜面部に集中する傾向が見られた。10月からは遺構検出面での作業を行い、土坑、焼土遺構を検出、調査した。その後、10月19日に縄文遺構の空撮を行っている。10月20日からは旧石器時代調査のため、新たに7箇所のテストピット（深掘り区）（TPE3・4、TPF3・4、TPG6、TPH6、TPJ7）（第2図）を設定し、調査を開始した。この過程において旧石器時代の遺物を検出したことから、出土箇所の周囲約700㎡を対象に休場層相当層を掘削した。調査の結果、配石遺構1基と同時代の石器を検出した。近代の道路遺構の調査を含めて12月までに全体の調査を終了した。最終的に調査対象面積は1,447㎡となった。

本調査Ⅱ期は、平成21年4月6日から開始、北東側の尾根部を1区、西側の斜面部を2区とした。検討の結果、1区ではYLL層上面で遺構の検出作業を行うこととし、上部層除去と遺構調査を進めた。6月8日までにこの区の調査を終了した。2区は1区と同時平行で調査を進めた。TP14の周囲から調査を開始、確認調査時に周囲で縄文土器が出土していることから、包含層の人力掘削を行いKGP層～ZN層までの各層で遺物の検出作業を行ったが、遺物は極めて少なかった。また土坑以外の遺構はほとんど存在しないため、検討の結果、2区の範囲を拡張し、色調的に土坑を確実に検出できるYLM層上面まで重機で掘り下げて、土坑の検出と掘削作業を行うことにした。遺構の調査が終了した8月13日にラジコンヘリコプターによる空撮を行った。その後、2区として当初設定した調査範囲からさらに南側にも遺構が広がることが予想されたため、中日本高速道路株式会社と協議の上、南側へ調査区を広げて遺構検出作業を行った。9月10日までに遺構調査を全て終了し、拡張部分の空撮を行い、補足調査を含めた全ての作業を翌11日で終了した。本調査Ⅱ期では調査可能な範囲において、全ての遺構を調査することを前提としたため、数度にわたって調査範囲の拡張を行なった。その結果、最終的な調査対象面積は、2,730㎡となった。

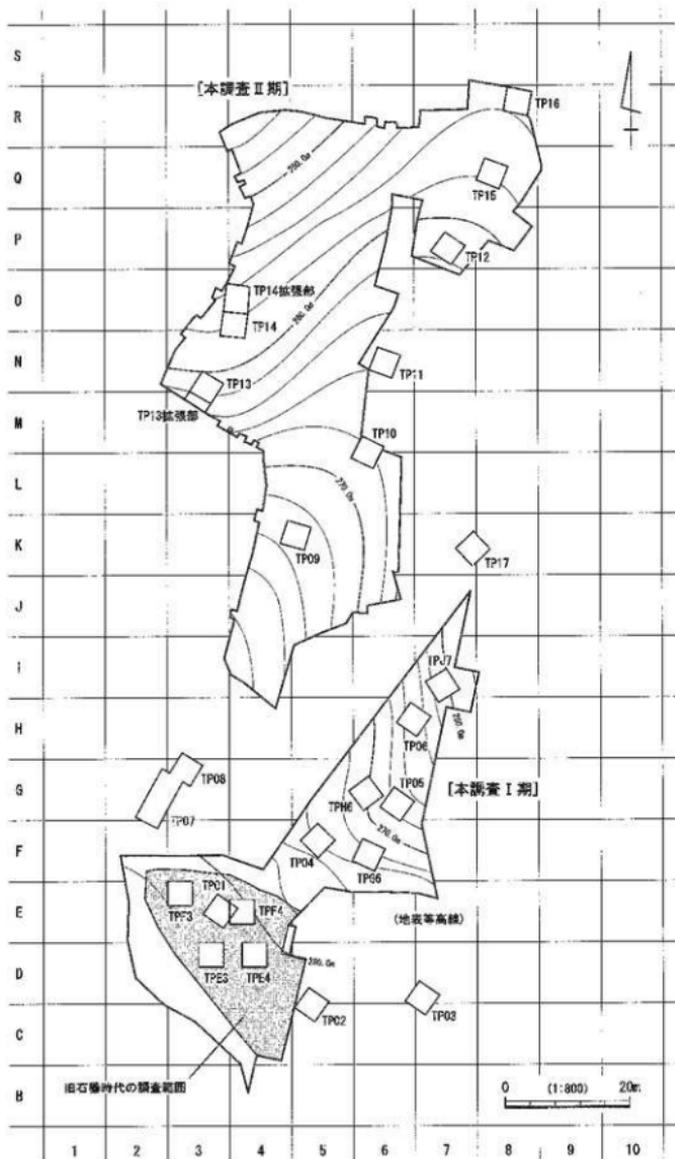
本調査Ⅱ期では、調査対象範囲では、確認調査及び本調査を通じて旧石器時代の遺構・遺物は全く見られなかった。そのために旧石器時代の調査は行っていない。なお、本調査Ⅱ期を行なっている間に、縄文時代の遺物の分布を調査する目的で、TP17の調査を行なった。本調査Ⅰ期の調査範囲のうち北端部の遺物集中部分に極めて近い箇所に、テストピットを設置し、縄文時代層及び休場層相当層の掘削を行なったが、遺構・遺物は全く検出されなかった。

4. 資料整理・報告書作成

資料整理・報告書の作成は平成21年10月～平成22年3月にかけて行った。整理・報告対象の遺構は旧石器時代の配石遺構1基、縄文時代の土坑167基、焼土遺構2基、炭化物集中1基、ピット1基、中世以降の土坑2基、ピット1基、近代の道路遺構1条である。出土した遺物は、旧石器時代の石器8点、剥片3点、礫23点、縄文時代の土器417点、石器51点、剥片23点、礫992点である。報告書には土器417点中73点、石器については全点を掲載した。剥片・礫のうち旧石器時代に属するものについては、計測表で掲載した。



第1図 調査区とグリッド配置図



第2図 テストピット配置図

本報告書の作成形態がデジタル製版であるため、遺構図及び挿図の編集作業は全てコンピューター上で行った。作図および版組は、現場で取得したデジタルデータを基に、株式会社シン技術コンサルのソフト『遺跡管理システム』を用いて補筆修正し、これをドローイングソフト（Adobe Illustrator Ver. CS2）でデジタルトレースし、DTPソフト（Adobe Indesign Ver. CS2）を使用して版組を行った。写真図版については、現場で撮影した6×7サイズフィルムをスキャナーで読み込みデジタル化した上で、同様に版組を行った。カラー写真の色調整はドラムスキャナーを用いて行っている。土器については、接合・復元作業の後、接合できない土器片についても、文様のあるものや口縁部・底部破片については可能な限り拓本・断面図を作成した。石器については、全点写真実測を行った。遺物実測図は全てデジタルトレースした後、DTPソフトにて版組を行った。トレースした断面図と拓本はスキャナーで読み込み、DTPソフトで編集し版組を行った。

遺構の事実記載については現場で取得した情報を基に検討を重ね、検出層位、遺構覆土、切り合い関係を再検討した上、事実関係に齟齬のないよう留意して記述を行った。また遺物については出土状況の記録と観察結果をまとめて分類と記述を行い、合わせて観察表を作成した。石器のうち黒曜石製のものについては、出土した全点を対象に産地推定を独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授望月明彦氏に依頼し、結果を掲載している。また検出された炭化木片については樹種同定と年代測定を、土器に付着した炭化物については年代測定を株式会社加速器分析研究所に依頼し、結果を掲載している（附編参照）。

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

愛鷹山麓は、静岡県東部、富士山の南麓～南東麓に接する場所に立地する。昨今の第二東名関連の発掘調査において、愛鷹山南麓～東麓にかけての丘陵上に、多くの旧石器・縄文時代の遺跡が確認されている。千福南山Ⅲ西遺跡もそれらの遺跡の一つである。

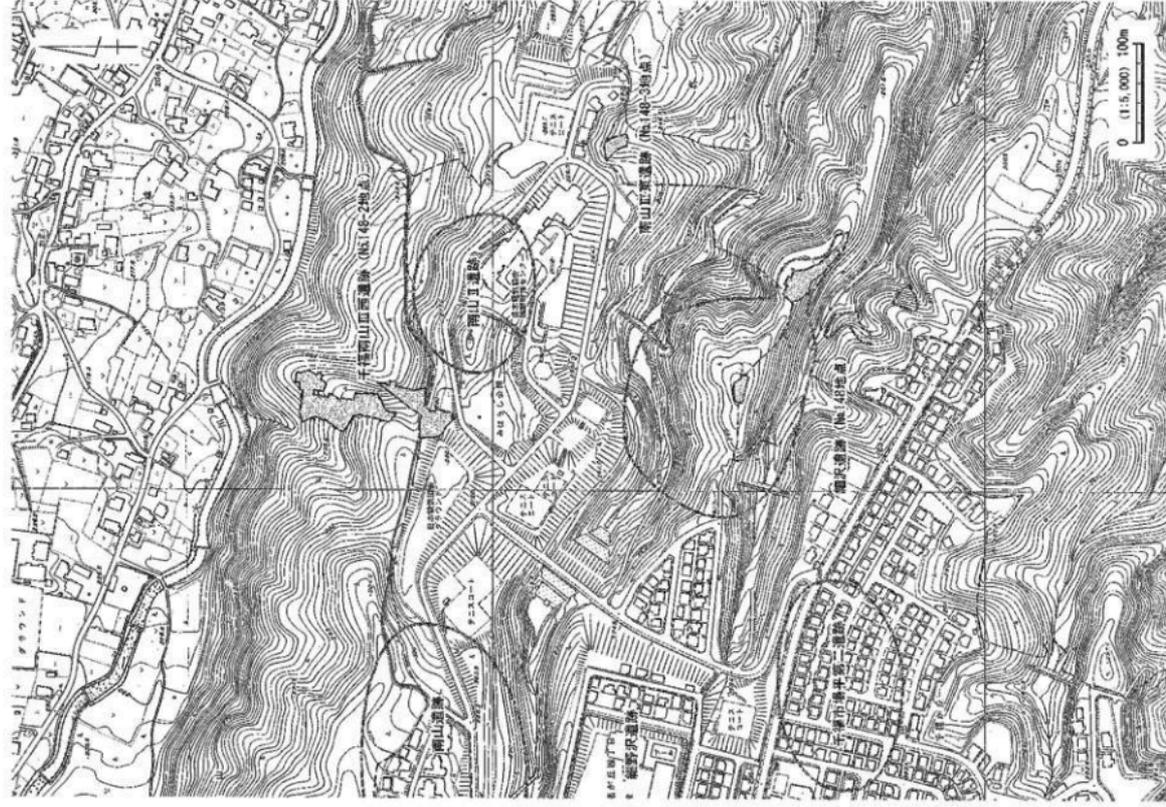
愛鷹山は約40万年前に活動を開始し、約10万年前に活動を停止した円錐形をした成層火山である。この活動は旧期から最新期の4段階に区分され、玄武岩質や凝灰角礫岩質と安山岩質の噴出物によって形成される。その後、これらの噴出物の上に古富士火山・新富士火山や箱根火山帯の噴出物を含んだ愛鷹ローム層と呼ばれている何層もの火山灰層が厚く堆積し、現在の愛鷹山麓が形成されている。中でも約8万年前に活動していた古富士火山及び約1万年前に活動していた新富士火山を供給源とする愛鷹ローム層は上・中・下の3層のローム層に分けられる。今までのところ、これらのうち上部ローム層以上においてのみ人類の遺跡が確認されている。

現在の愛鷹山麓は複数の峰に分岐しており、主峰は愛鷹岳で標高1,187.5m、最高峰である越前岳は標高1,504mを測る。複数の峰より生ずる水系は、浸食作用によって多数の入り組んだ開析谷を形成し、黄瀬川などの主流となる水系に合流する。広い丘陵地を擁し、南に駿河湾、南東に伊豆半島、東に箱根山麓を望む地形は、遺跡が主に営まれた狩猟・採集時代には適切な環境であったことが推察できる。本遺跡の存在する愛鷹山東麓も枝根根が深く入り込み、旧石器時代及び縄文時代の遺跡の多くが、尾根上の平坦な場所を選ぶようなかたちで存在している。

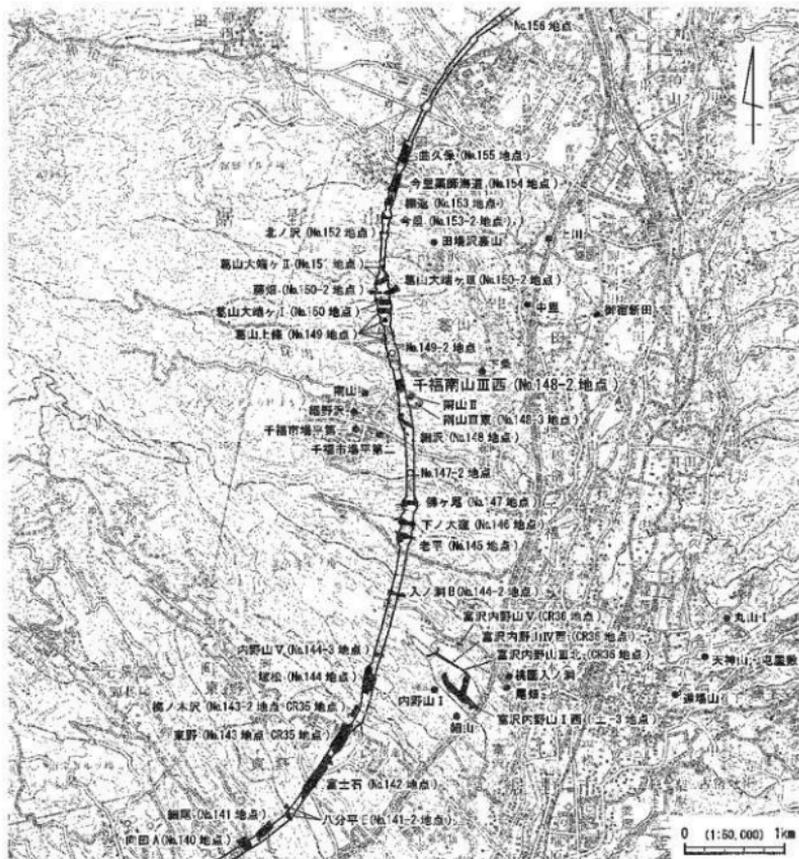
千福南山Ⅲ西遺跡は、愛鷹山麓東側を南北に流下する黄瀬川支流の大久保川南岸で、JR御殿場線岩波駅より南西方向約5kmの愛鷹山東麓の丘陵上、千福ニュータウンの北側に位置する。遺跡は大久保川が東流する谷部に面した丘陵斜面部に立地する(第3図)。

千福南山Ⅲ西遺跡は概ね3つの地形に分かれて立地している(第1図)。第一は東西方向に走る丘陵頂部に近い平坦部で、本調査Ⅰ期の南側部分である。調査範囲内の最高部であり、標高は282mをはかる。第二は、大久保川が東流する谷部に向かって北東方向に傾斜する丘陵端部の尾根上の箇所である。本調査Ⅱ期の1区及び2区南側拡張区が該当する。第三は第二の箇所の両脇にある斜面～谷部であり、本調査Ⅰ期の北側、本調査Ⅱ期の2区が該当する。なお、本調査を行なった部分で最も低い箇所は本調査Ⅱ期の2区の北西角で、標高246mであった。本調査実施箇所の最高所との比高は36mに及ぶ。平坦な箇所は少なく、急斜面をなす部分が多く、調査の進行上安全対策が必要であった。

本遺跡の存在する支丘陵の南側の谷部には南山Ⅲ東遺跡(第二東名〔以下略〕№148-3地点)(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所〔以下、静文研と略〕2006)が存在する。また、この支丘陵から東西方向の谷をはさんだ南側の丘陵頂部付近には細沢遺跡(№148地点)(静文研 2005)がある。何れも第二東名高速道路の建設に伴い、本研究所により調査された(本報告書は未刊行)。両遺跡ともに本遺跡と同様の陥穴状土坑が検出されている。また、細沢遺跡の西側、千福南山Ⅲ西遺跡から南西約500mの箇所には、縄文前期諸磯Ⅱ式期の集落である細野沢遺跡(井上他 1982)が存在する(現在掘野市立千福が丘小学校が所在)。また、本遺跡の南東に隣接した丘陵頂部(みはらし公園から日本電気協会掘野研修センター敷地にかけて)には南山Ⅱ遺跡が存在し、縄文時代の遺跡とされているが、詳細は不明である。さらに、本遺跡の西側の丘陵上は南山遺跡であり、弥生時代の遺跡とされている(第3図)。



第3圖 周辺の遷跡と地形図



第4図 路線内の遺跡と周辺の遺跡

千福南山III西遺跡の北側は大久保川の東流する低地であり、第二東名本線建設部分に関しては、No.149-2 地点として調査を行なったが、遺跡の存在は確認できなかった(袴田 2002)。従って、葛山の丘陵上に位置するNo.149～151 地点の諸遺跡(本研究所により調査済、本報告書は未刊行)が、千福南山III西遺跡の北側近接遺跡となる。何れも陥穴状土坑が検出されており、特に葛山上條遺跡 (No.149 地点)(静文研 2004・2005)からは、60 基以上発見された。本遺跡との関係で注目される(第4図)。

第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する裾野市域は、愛鷹山東麓及び箱根山西麓の丘陵と、その間に挟まれた緩やかな傾斜地によって形成されている。富上山・愛鷹山と箱根山麓とに挟まれた平地が南北に走り、古代以降関東甲信越地方との交通の要所として活用され、地形の持つ重要性から中世以降は各地に多くの城砦が設けられた。ここでは本遺跡の主要な遺構・遺物の該当時代である旧石器・縄文時代を中心に、ほぼ裾野市域に限定して主要遺跡を取り上げながら概観する（第4図参照）。

1. 旧石器時代

裾野市域の旧石器時代の遺跡は、南側の長泉町、三島市、沼津市に比べて発見例も少なく、不明確な状況が従来まで続いていた。然るに、第二東名高速道路の建設に伴って、多数の遺跡で大規模な調査が行なわれ、急速にデータが蓄積されつつある。ここでは本遺跡周辺の遺跡について、成果を簡単に述べる。先ず裾野市内では、本報告書が刊行された遺跡として、棚返遺跡（No.153地点）（壬生他 2008）、佛ヶ尾遺跡（No.147地点）（野田他 2007）、下ノ大塚遺跡（No.146地点）（阿部他 2008a）、老平遺跡（No.145地点）（阿部他 2008b）、入ノ洞B遺跡（No.144-2地点）（三好他 2008）、内野山V遺跡（No.144-2地点）（三好他 2008）、塚松遺跡（No.144地点）（三好他 2008）等がある。大半が複数の文化層が検出された重層遺跡である。このうち、塚松遺跡からは第Ⅲ黒色帯から26基の土坑が検出されている。箱根・愛鷹山麓で近年多く発見されている旧石器時代の陥穴状土坑検出遺跡のうち、最も北に位置する例である。また、入ノ洞B遺跡からは、第Ⅳ黒色帯より局部磨製石斧が出土している。

本遺跡近隣の旧石器時代の遺跡としては、本報告書未刊行であるが、葛山大塚ヶⅡ遺跡（No.150-2地点1区）（静文研 2004）、葛山大塚ヶⅠ遺跡（No.150地点）（静文研 2005・2007）、葛山上縁遺跡、細沢遺跡等がある。ただし、これらの遺跡は何れも小規模で、ほとんどが単一の文化層から少数の遺構・遺物が検出されているにすぎない点など、千福南山Ⅲ西遺跡の旧石器時代のあり方と類似している。また、同様に本報告書未刊行であり、千福南山Ⅲ西遺跡よりかなり南側に離れた丘陵下段部に所在する遺跡として、富沢内野山Ⅰ西遺跡（第二東名土-3地点）（静文研 2003・2004）、富沢内野山Ⅲ北遺跡（第二東名C R 36地点）（静文研 2003）がある。

2. 縄文時代

現在、愛鷹山麓では縄文時代の遺跡が多数確認されているが、その遺跡数は縄文時代を通じて安定しているわけではない。遺跡数は、早期に増加し前期には一時減少する。中期には再び隆盛を迎えるが後期から晩期にかけて極端に減少する。以下本遺跡周辺の縄文時代について各期ごとに概観する。ただし、本遺跡で発見されている遺構・遺物は前期～後期のみなので、他の時期（草創期・早期・晩期）については簡易に述べる。また、ほとんど裾野市に限定して記述する。

①草創期及び早期

愛鷹山麓においては草創期土器の発見例は少ない。その大半は南麓に位置する沼津市に存在する。これまで裾野市域からは草創期の土器の出土例がなかったが、富沢内野山Ⅰ西遺跡で草創期のものと考えられる土器片が出土している。また、有舌尖頭器は、少量ずつだが各遺跡から出土している。

早期における遺跡数増加の傾向は、特に後半に顕著になる。前半の遺跡には駿豆地方独特の縄紋と縞糸紋を持つ土器が見られる。また、押型紋土器の出土例はかなり多く、併行する沈線紋糸の判ノ木山西式も老平遺跡等から出土している。後半に入ると関東系の条痕紋土器や、それに併行する在地の土器が多く見られ、胎土に繊維を混入させる手法が目立つ。また、東海系の土器型式も多く見られる。裾野市域では、清水柳E類や打越式といった土器がかなり目立つ。特に後者は、本遺跡の南側近隣の佛ヶ尾遺

跡で多量に出土した。

②前期

続く前期であるが、初頭の遺跡は木島式土器を伴う遺跡が比較的多く見られる。前葉の遺跡は少ないが、後葉の諸磯式期の遺跡は多く見られる。裾野市域では、本遺跡周辺に該期の住居跡がやや集中的に発見されている。葛山大端ヶⅡ遺跡（No.151地点）（静文研 2004）、細野沢遺跡、千福市場平第1遺跡（井上他 1982）、入ノ洞Ⅱ遺跡（No.144-2地点）などが挙げられる。このうち前三者は本遺跡の近隣地であり、何れも諸磯式期の住居ということで、本遺跡との関連が注意される。

終末期（十三菩提式期）の土器は比較的多くの遺跡で見出されるが、遺構は乏しい。

③中期

中期には愛鷹山麓でも再び遺跡数が増加する。ただし、中期初頭の遺跡は裾野市内では少なく、道場山遺跡（中野他 1992）、上川遺跡（袴田他 1987）等があるにすぎない。中葉（勝坂式期）から後葉（管利式・加曾利Ⅱ式期）にかけては縄文時代のピークをなしており、本遺跡周辺でも遺跡は増加する。市内の中葉・後葉の遺跡としては、道場山遺跡、天神山・屯屋敷遺跡（中野他 1992）、尾畑遺跡（中野他 1992）、細山遺跡（中野他 1992）、桃園入ノ洞遺跡（渡瀬他 1989）、細野沢遺跡、御宿新田遺跡（中野他 1992）、下条遺跡（中野他 1992）（袴田 2002）、老平遺跡、棚返遺跡、塚松遺跡、葛山大端ヶⅠ遺跡、富沢内野山Ⅲ北遺跡等がある。遺物・遺構で注目すべきものとして、尾畑遺跡出土の顔面把手付土器や翡翠の大珠、細山遺跡近辺で採取された釣手形土器、富沢内野山Ⅲ北遺跡で検出された果東部地域最大級の大型住居跡などがある。

④後期

後葉になると愛鷹山麓の遺跡数は再び減少してゆく。後葉の遺跡は裾野市域ではわずかな遺物が出土しているのみであり、富沢内野山Ⅰ遺跡（中野他 1992）、田場沢真山遺跡（中野他 1992）、中里遺跡（中野他 1992）、下条遺跡、下ノ大窪遺跡等が挙げられる。

⑤晩期とそれ以降

裾野市域における晩期の明確な資料は、今のところ発見されていない（註1）。裾野市域においては、これに続く弥生時代の遺跡も少ない。

3. 近世以降

棚返遺跡で炭焼き窯、長方形の土坑が検出されているほか、各地で中世以降とされる円形の土坑が発見されている。また、江戸時代の遺物・遺構は各地で出土している。

（註1）

下条遺跡の報告書（袴田 2002）では「晩期の土器」として掲載されている。しかし、報告書の写真・拓本・実測図を見る限りにおいて、これらの土器は全て後期の範疇に納まるものと考えられる。なお、当遺跡からは安行Ⅰ式の帯縄紋系の土器（第24図1）とそれに併行すると思われる在地系の土器が出土しており、該期（後期後葉）の遺物の極めて乏しい果東部域において、貴重な類別となっている。また、丸山Ⅰ遺跡（中野他 1992）の土器も弥生前期？～中期初頭のものと思われる。従って、裾野市内では明確に晩期の遺物が出土した遺跡は確認されていない。

参考文献

- 阿部 敬他 2008 a 『下ノ大窪遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第190集
阿部 敬他 2008 b 『老平遺跡』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第192集
井上輝夫・宮井栄一他 1982 『裾野市千福市場平第1、第2 小杉平第1、第2 細野沢遺跡発掘調査報告書』 裾野市文化財調査報告 第3集 裾野市教育委員会

- (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2003 『静岡県埋蔵文化財研究所 年報 19』
 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2004 『静岡県埋蔵文化財研究所 年報 20』
 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2005 『静岡県埋蔵文化財研究所 年報 21』
 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2006 『静岡県埋蔵文化財研究所 年報 22』
 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007 『静岡県埋蔵文化財研究所 年報 23』
 中野國雄他 1992 『裾野市史 第一巻 資料編 考古』 裾野市
 野田正人他 2007 『ゆぐの尾遺跡』 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第175集
 樽田 裕他 1987 『上川遺跡』 裾野市教育委員会他
 樽田 裕 2002 『下桑遺跡』 裾野市教育委員会他
 町田 洋他 2006 『日本の地形5 中部』 東京大学出版会
 壬生亮輔他 2008 『棚返遺跡・今里遺跡』 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第191集
 三好元樹他 2008 『裾野市宮沢・桃園の遺跡群』 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第193集
 波瀬 治他 1989 『富沢原・千幡馬場跡・大畑・桃園入ノ洞』 裾野市教育委員会他

第3節 基本層序

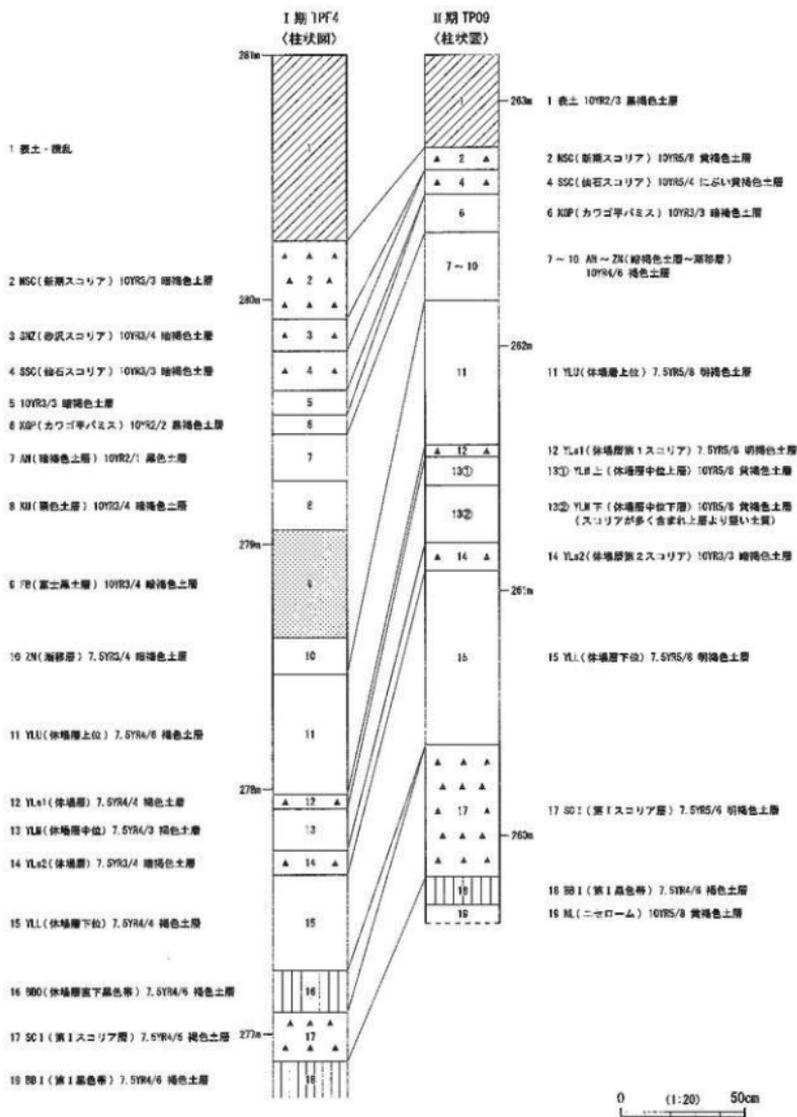
調査区は南西から北東へ傾斜する斜面にその大部分が位置する。遺跡の最高点は標高282m、最低点は246m、比高差は36mで平均傾度は約22度になる(第1図)。本調査はI期とII期に分けて行われ、I期の調査区は南北方向のグリッドラインB～Jまでと東西方向のグリッドライン2～8まで、II期の調査区は南北方向のグリッドラインH～Sまでと、東西方向のグリッドライン2～9までである。確認調査I期のテストピットTP2・3が設置された、南北方向のグリッドラインC・D、東西方向のグリッドライン4～8の間は、見かけ上平坦な地形を呈していたが、確認調査の結果すでに削平されていた(TP2ではY層まで、TP3ではSCⅢ層まで)ことが判明し、本調査では調査の対象から除外した。

本調査I期での検出遺構の多くは、南北方向のグリッドラインC～F、同東西方向3・4の、北東方向に傾斜する面で検出された。土層の堆積も比較的安定していることから、この箇所の上壁土層帯01を掲載(第7図)するとともに、E4グリッドに新たに設置した深掘り調査坑TPF4の層序を柱状図(第5図)に示した。また本調査II期の層序については、調査区がやや北東方向に傾斜した斜面に位置すること、同調査区の東側の一部で再堆積と見られる土層の乱れがみられること、岩盤の露出などがあり、良好な堆積状況を示していないことから、K4・5グリッドに跨って設定したテストピットTP9の層位を柱状図(第5図)で示した。また、堆積状況が良好で、最も長いセグションラインを確保できたII期調査区西壁のa-bライン(第7図)を示した。

土層の分層・記述については、愛鷹・箱根標準土層の名称・記号を使用した。その際、当研究所と沼津市教育委員会との間で平成19年度合意事項に基づいて行なった(註1)。本節では、本調査I期の調査区とII期調査区の土層を1層から順次双方を比較しながら記述していく。なお色調の記載は標準土色帖(1992)による。以下第5図の土層番号順に記述する。

1層は表土・擾乱層である。表土は黒褐色の腐食土層である。締まりが無く、やや粘性が強い。木の根を多く含む。

2層は新期スコリア層(NSC)で、本調査I期調査区では暗褐色土層、II期調査区では黄褐色土層である。やや暗い色調の上層(①と表記)と、締まりが強く上層と比較してやや黄色が強い下層(②と



第5図 柱状図(1)

表記)に分層できる箇所がある。Ⅰ期調査区では30cmと厚く、Ⅱ期調査区では10～20cm程度の層厚である。

3層は砂沢スコリア層(SNZ)である。本調査Ⅰ期調査区では暗褐色土層、Ⅱ期調査区ではTP9の柱状図から外れているが、西壁(a-bライン)では明瞭に遺存していた。概して、暗灰色を呈する粒径が大きいスコリアが下位にあり、黒褐色を呈する粒径の小さなスコリアが上位にある。パッチ状に堆積する箇所も見られた。

4層は仙石スコリア層(SSC)である。本調査Ⅰ期調査区では暗褐色土層、Ⅱ期調査区では、にぶい黄褐色土層である。粒径0.5～1cm程度のスコリアによって構成される。乾燥すると黄白色化するため、Ⅰ期調査区との土色の違いは乾燥度の差から生じている可能性がある。

5層は暗褐色土層である。本調査Ⅱ期調査区では分層されずにKGP層に一括されている。

6層はカワゴ平バミス層(KGP)で本調査Ⅰ期調査区では黒褐色土層、Ⅱ期調査区では暗褐色土層である。黒色上中に白色バミスが含まれる。締まりは弱くやや粘性がある。Ⅱ期調査区ではこの層の下位から縄文時代後期の土器が出土している。

7層は暗褐色土層(AN)である。本調査Ⅰ期では黒色を呈して締まりがあり、やや粘性もある。Ⅱ期調査区ではこの層からZN層までは分層が困難であったため一括してAN～ZN層とした。多くの遺構がこの層から掘りこまれていると思われるが、色調差による同層中での遺構プラン検出は困難である。Ⅰ期調査区では縄文時代の遺物包含層である。

8層は彩色土層(KU)。暗褐色を呈し、本調査Ⅰ期調査区では縄文時代の遺物包含層である。

9層は富士黒土層(FB)。暗褐色を呈す。本調査Ⅰ期調査区では、南側平坦部のTPE3付近で厚く堆積し、層厚は40cm程度である。部分的にFBa、FBbに分層できる箇所もある(FBaよりFBbのほうがより褐色の度合いが強くなることで分層できる)。本調査Ⅰ期調査区では縄文土器が出土した。なお、本調査Ⅰ期のロングセクション土層帯01(第7図)では、本層と次の10層の間(D-3グリッド付近)に浅い窪みがあり、この部分に谷2、谷2-1、谷4と記載した層があるが、これはこの窪みに流れこみ再堆積した土を分層したものである。

10層は漸移層(ZN)で暗褐色土層である。

11層は休場層上位(YLU)である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層、Ⅱ期調査区では明褐色土層となっている。締まりは小でやや粘性がある。わずかに微細な橙色スコリア、暗灰色スコリアが混じる。Ⅰ期調査区では旧石器時代の遺構・遺物が検出されているが、Ⅱ期調査区では確認されていない。

12層は休場層第1スコリア層(YLs1)である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層、Ⅱ期調査区では明褐色土層である。Ⅱ期調査区のTP9では赤褐色のスコリアが明瞭に観察されたが、調査区北側及び東側ではほとんど観察されなかった。調査区西壁a-bラインでは、明確なスコリアではなく5cm程度の赤みを帯びた土層として認識された。

13層は休場層中位(YLM)である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層、Ⅱ期調査区では黄褐色土層であった。同層は概して橙色スコリア、暗灰色スコリアが多く含まれる層であるが、上部と下部では明確にスコリアを含む量が異なり、下部でのスコリア含有量が多いことや、上部に比べて下部は土質も硬い点などから、Ⅱ期調査区で西側の大部分はこの面(下部層の上面)で縄文遺構の検出を行っている。本調査Ⅱ期では便宜的に上部層をYLM上(13①層)、下部層をYLM下(13②層)とし、遺構の土層注記にも用いている。

14層は休場層第2スコリア層(YLs2)である。本調査Ⅰ期・Ⅱ期ともに暗褐色土層である。同層は乾燥すると淡い黄白色に変化する。土層断面での産状は黄色のスコリア粒と黒色のスコリア粒がブロック状に連なっている。この層が検出される箇所は限定され、検出されてもパッチ状を呈す。Ⅱ期調

査区では、柱状図に使用したTP9付近と、1区とした調査区の北東側で部分的に確認されているが、その他の箇所では検出されなかった。

15層は休場層下位（YLL）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層、Ⅱ期調査区では明褐色土層である。スコリアを多く含み、硬いが、ポロポロとした土質である。Ⅱ期調査区の西側ではこの層が遺構検出面となっている。

16層は休場層直下黒色帯（BB0）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層である。Ⅱ期調査区では認識できていない。

17層は第Ⅰスコリア層（SCI）である。本調査Ⅰ期調査区では褐色土層である。Ⅱ期調査区では明褐色土層である。YLLより明るい色調でスコリアの密度がYLLより粗である。Ⅱ期調査区ではⅠ期調査区と比較して同層が厚く約50cmと記録されている。BB0が分層できずに同層に含まれている可能性があることを付記しておく。

18層は第Ⅰ黒色帯（BB1）である。本調査Ⅰ期調査区・Ⅱ期調査区ともに褐色土層である。本遺跡における黒色帯はYLL層よりやや暗い色調として認識される。

19層はニセローム層（NL）である。本調査Ⅱ期調査区では明確に認識された。黄褐色土層中に暗い黄色のATパッチが疎らにはいる。

（註1）

裾野市の第二東名関連遺跡のうち、本遺跡を含む北側に所在する遺跡の旧石器時代の土層は、いわゆる箱根・愛鷹山麓の標準土層と概ね一致している。ただし、相違点も存在する。大きな相違点は、色調とスコリアの入り具合が大きく異なっていることである。特に第Ⅰスコリア層以下の層に顕著であり、黒色帯とスコリア層が不明確で、分層に困難を伴う場合がある。ただし、本書では他の呼称を使用せず、共通する土層名を使用した。

引用・参考文献

- 愛鷹ローム団研グループ 1969 「愛鷹山麓のローム層－東名高速道路工事現場を中心として」『第四紀研究』第8巻第1号
日本第四紀学会
- 町田 洋・新井勇夫 1992 『新編火山灰アトラス』東京大学出版会
- 町田 洋・松田時彦・海津正倫・小泉武榮編 2006 『日本の地形5中部』東京大学出版会
- 農林水産省農林水産技術会議、財団法人日本色彩研究所色票監修 1992 『新版 標準土色帖 1992年版』

第三章 旧石器時代

第1節 旧石器時代の概要

旧石器時代の遺構・遺物は本調査Ⅰ期で検出されたが、本調査Ⅱ期では確認されなかった。本調査Ⅰ期で検出した遺構は配石遺構1基(第9図)である。出土した遺物(第11図)は、石器8点(石槍3点、ナイフ形石器3点、使用痕のある剥片(U・F)2点、剥片3点、礫23点(配石の礫2点を含む))である。石器及び配石の検出層位は休場層上位(YLU層)から中位(YLM層)までである。中位層、1-7グリッド出土の石槍(第11図2)以外は全てD-3・D-4グリッド内の直径10mの範囲に集中(第10図)していることから、小規模な石器ブロックと考えている。これらの遺構・遺物は愛鷹・箱根旧石器編年(高尾 2006)の4期後半の所産と思われる。

第2節 遺構

1号配石遺構(第8・9・11図)

D-3グリッドの休場層上位層(YLU)の最下位で粒径1mm程度の微細な炭化物の広がりを確認した。炭化物の範囲は2.95×1.25mの規模で東西方向に広がりを持つ長楕円形を呈する。炭化物の範囲の中央からやや西に寄って配石と思われる礫2点(表1)を検出した。礫の石材は玄武岩である。礫から0.95m東へ寄った地点でガラス質黒色安山岩製の石槍(第11図3)が出土した。礫との比高差は約17cmであるが、浮き沈みのある堆積状況からこの配石に伴う遺物と判断した。

表1 旧石器礫計測表(1号配石遺構)

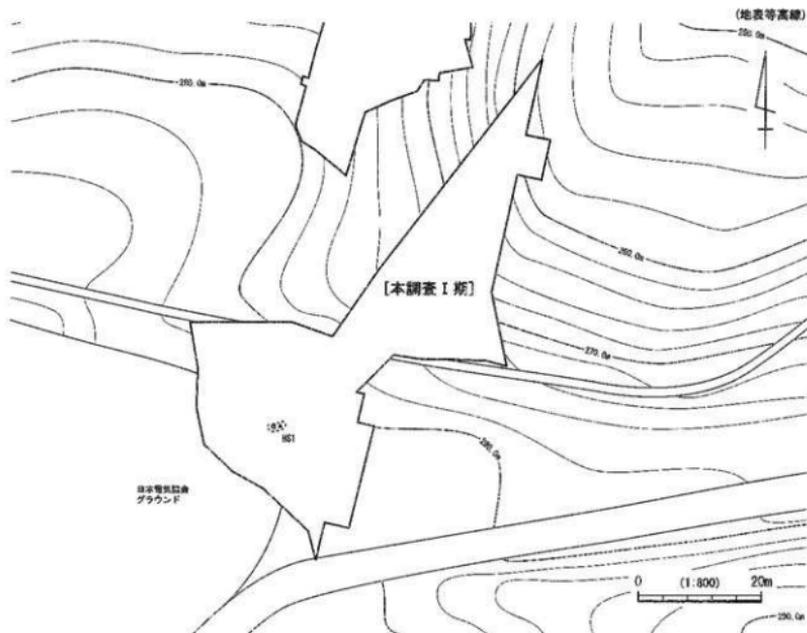
遺物番号	層位	グリッド・遺構	石材	質量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)
1427	YLU	1号配石遺構	Bs	420	6.9	2.9	4.5	-89943.016	35566.155	275.903
1428	YLU	1号配石遺構	Bs	500	12.6	7.5	5.5	-89928.064	35566.007	275.919

第3節 石器

旧石器時代に相当する休場層からは、石槍3点、ナイフ形石器3点、使用痕のある剥片(U・F)2点が出上した。出土層位はYLU層からYLM層までである。石器のほか、配石遺構を含め、礫・剥片の出上があった。出土した礫・剥片は計測表(表3・4)に記載した。

石槍(第11図1～3)

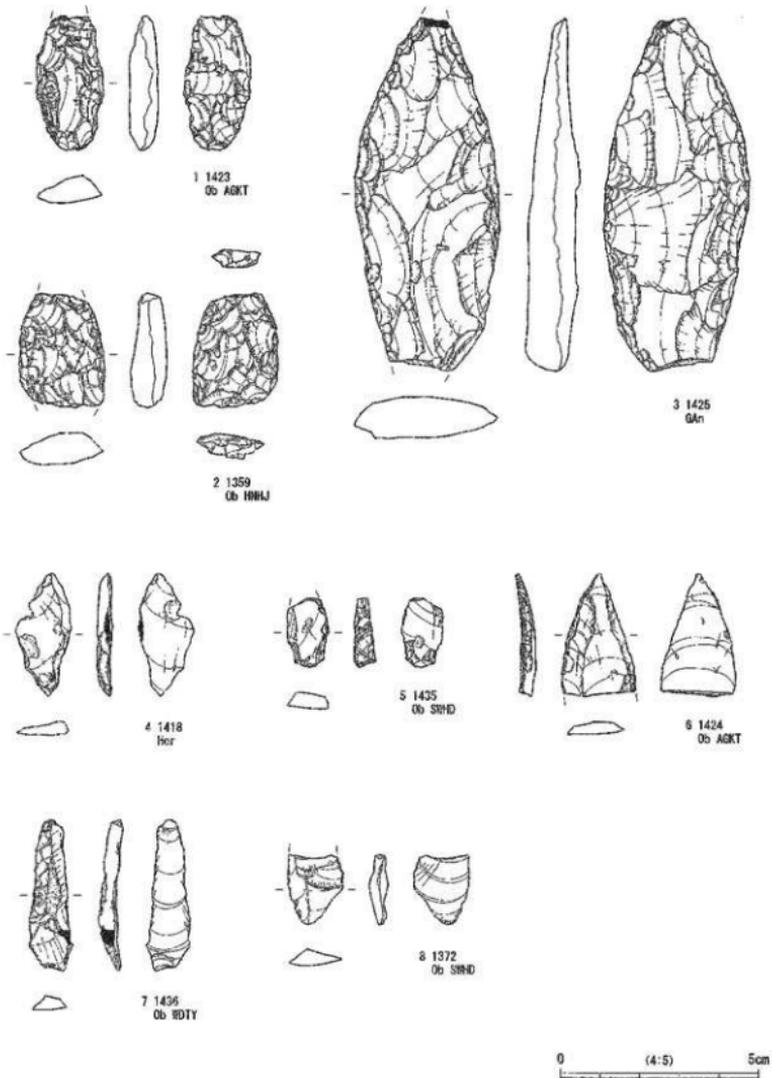
1は、YLU層から出土した。黒曜石製で表面の右側縁には打撃による急角度の剥離が見られ、左側面および下端は大きな剥離面の縁部を細かく調整している。先端部は衝撃剥離によると思われる細かな剥離が重なっている。裏面は平直剥離と貝殻状の剥離が見られる。2は、YLM層で出土した。黒曜石製で1より水和層が厚く、光沢がにぶい。表裏面に丁寧な剥離調整を行っている。基部と先端部は双方



第8図 旧石器時代遺構配置図



第9図 配石遺構 (HS1) 実測図



第 11 图 旧石器時代石器実測圖

礫 (表1・3)

YLUおよびYLM層中から配石遺構とした礫を含めて23点の礫が出土した。礫は約3~15cmほどの大きさで、礫の形状は歪円礫、歪円礫である。被熱しているものが2点ある。石材は輝石安山岩が一番多く12点、玄武岩が7点、多孔質玄武岩が3点、多孔質安山岩が1点である。

表2 旧石器計測表

器物番号	遺物番号	種類	層位	グリッド・遺構	石材	出處地	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)
11-1	1423	石鏃	YLU	D-4	Ob	AGKT	4.25	3.45	1.70	0.71	-88949.032	35670.337	276.478
11-2	1359	石鏃	YLM	1-7	Ob	H99J	5.94	2.95	2.10	0.20	-88936.765	35962.719	254.222
11-3	1425	石鏃	YLU	1号配石遺構	Gln		42.77	9.00	3.70	1.30	-88942.753	35587.110	276.060
11-4	1416	ナイフ	YLU	D-4	Hor		1.45	3.10	1.40	0.40	-88940.732	35670.962	278.233
11-5	1435	ナイフ	YLM	D-3	Ob	SHD	1.04	1.60	1.10	0.55	-88941.947	35555.652	275.561
11-6	1424	ナイフ	YLU	D-3	Ob	AGKT	1.95	3.10	1.62	0.39	-88943.679	35598.635	276.213
11-7	1438	U・F	YLM	D-3	Ob	MDT	1.38	3.90	1.10	0.55	-88942.102	35565.263	276.450
11-8	1372	U・F	YLU	D-4	Ob	SHD	0.80	1.70	1.40	0.50	-88940.050	35574.677	277.895

表3 旧石器礫計測表

遺物番号	層位	グリッド・IP	石材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	備考
23	YLU	TP04	Wls	80	3.00	3.90	4.00	-88921.888	35583.365	273.085	
24	YLU	TP04	An (Py)	100	5.70	5.00	3.00	-88921.553	35582.349	273.120	
26	YLU	TP04	Ba	145	8.00	5.40	2.80	-88924.639	35582.743	274.348	
1358	YLU	G-5	Ba	30	2.85	2.85	2.50	-88914.985	35596.721	287.010	
1383	YLU	G-6	Wls	130	5.30	4.90	4.10	-88914.592	35591.754	287.042	
1384	YLU	G-6	An (Py)	30	3.90	3.10	1.70	-88914.433	35591.424	287.304	
1385	YLU	G-6	An (Py)	120	7.50	4.90	4.35	-88914.691	35591.207	287.382	
1396	YLU	G-6	Wls	130	6.90	5.00	4.40	-88918.343	35591.038	287.831	
1387	YLU	G-6	An (Py)	40	4.8	3.10	2.60	-88915.649	35593.679	286.216	
1389	YLU	G-6	An (Py)	40	4.80	3.50	2.50	-88914.676	35590.679	286.991	
1370	YLM	1-7	Ba	70	7.70	6.70	5.40	-88898.106	35300.261	258.195	
1371	YLM	1-7	An (Py)	390	10.70	6.95	7.10	-88898.817	35305.928	257.580	
1441	YLM	D-4	An (Py)	30	5.40	3.30	1.80	-88945.960	35578.458	278.700	
1442	YLM	C-4	An (Py)	400	11.50	5.60	6.20	-88954.885	35574.903	275.977	被熱か
1443	YLL	C-4	An (Py)	860	15.10	11.40	6.40	-88952.006	35574.907	275.022	
1444	YLM	D-3	Vja	40	4.60	4.90	1.80	-88945.75	35567.963	275.589	
1445	YLM	D-4	An (Py)	20	3.80	3.30	1.80	-88944.459	35575.782	277.673	
1447	YLU	E-4	Ja	190	8.80	5.55	4.50	-88937.596	35571.193	277.738	
1448	YLU	E-3	An (Py)	30	5.70	4.60	1.10	-88936.018	35561.020	276.806	
1449	YLU	E-3	An (Py)	150	6.70	5.20	5.00	-88932.790	35567.395	278.530	焼きはじけによる割れ痕
1451	YLM	E-4	Sa	140	8.15	4.55	3.40	-88936.642	35572.591	277.481	

表4 旧石器剥片計測表

遺物番号	層位	グリッド	石材	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)
1380	YLU	D-4	Hor	1.70	3.05	1.90	0.40	-88946.333	35579.318	279.574
1432	YLM	D-3	Ob	2.21	1.80	1.45	0.80	-88940.863	35567.804	275.141
1433	YLM	D-3	Gln	1.37	2.90	1.95	0.31	-88940.545	35565.779	275.521

第IV章 縄文時代

第1節 縄文時代の概要

本遺跡では、調査区の大半が斜面であるにもかかわらず、縄文時代の少なくない遺構・遺物が検出されている。遺構の大半は陥穴状の土坑であるが、分布の上では、満遍なく分布するわけではなく、場所により疎密が見られる。最も集中するのは、本遺跡の中心に位置する東北方向に突き出した尾根の西側斜面部と尾根の中央部分であり、ここが本調査Ⅱ期の調査区の中心部分であった。これに対して、尾根の先端部（Ⅱ期調査区のⅠ区）や、尾根の基部となる平坦部及び尾根東側谷部（本調査Ⅰ期調査区）は、非常に少ないか全く検出できないなど、対照的なあり方となっている。

遺物についても同様の分布の偏りを示す。遺物がやや多く検出できたのは、尾根の基部となる平坦部及び尾根東側斜面部の下方であり、それ以外の部分ではほとんど検出されなかった（第48図）。土器型式の上では縄文時代前期から後期に至る各型式が見えられて、長期に亘る人間の活動の痕跡が残されている。ただし、今回の調査区の範囲内では、本遺跡内において、確実な居住の場としての証拠を見出すことが出来なかった。

第2節 遺構

縄文時代の遺構は、土坑167基（うち陥穴と思われる土坑164基）、焼土遺構2基、炭化物集中1基、ピット1基からなる（第12図）。遺構の検出面は、本調査Ⅰ期調査区では暗褐色土層（AN）、栗色土層（KU）、富士原土層（FB）である。KU層で、土坑2基（2、3号土坑）と焼土遺構1基（1号焼土遺構）が、FB層で土坑1基（4号土坑）が検出されている。他の遺構（5、6号土坑）については、縄文時代の包含層中で確認できず、5号土坑がYLU層主体の二次堆積層、6号土坑がSCI層まで掘り下げた段階で確認された。遺構の形状、覆土の観察から縄文時代の陥穴と判断した。本調査Ⅰ期調査区では、KU層とFB層に遺構の掘り込み面が確認されたことになる。

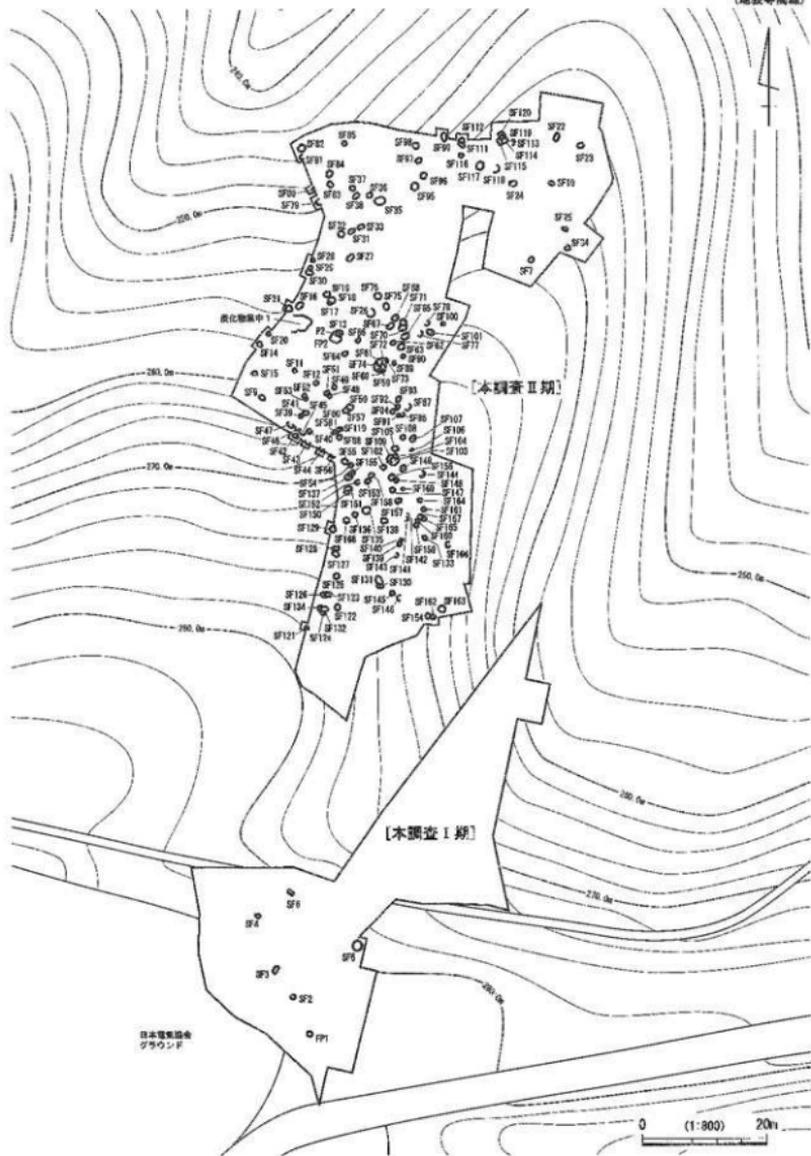
本調査Ⅱ期調査区では、縄文時代に属する土層のうちAN～ZN層の堆積が薄く分層ができなかったことから、各層位中での遺構検出はできなかった。しかし、KGP層の最下位で縄文後期の加曾利B式土器が出土していることや、調査区境界の壁面で検出した土坑の掘り込み層位にKGP層下からのものがあつた。さらにAN～ZN層中から掘り込まれた土坑があり、炭化物集中（第47図）がAN～ZN層中から検出され、生活面がこの層中にあることが推定できた。従って、本調査Ⅱ期調査区では、KGP層とAN～ZN層中に遺構の掘り込み面が存在した可能性が高い。

本調査Ⅰ期調査区では、KU層とFB層から遺構の検出をしているが、遺物との関係がつかめていない。本調査Ⅱ期を含めこれらの土坑が縄文時代のどの時期に帰属するものか、明確には判断できていない。

1. 土坑

KGP～ZN層までの層をある程度分層できた本調査Ⅰ期調査区と異なり、多くの土坑を検出したⅡ期調査区での土坑覆土は泥色の悪いAN～ZN層土とYLU層土からなるため、壁面で検出した土坑を除いてKGP～ZN層中での平面プラン検出は困難であつた。このため大半の土坑を便宜的にYLM上面

(地盤等高線)



第12図 縄文時代遺構配置図

(2区)およびYLL層上面(1区)まで掘り下げて検出をしている。本来、検出層位毎の分類作業が必要であるが、以上の経緯からここでは、検出面での土坑の平面形の差異による分類にとどめた。

土坑の平面形の分類は、以下のとおりである。

I類：円形土坑 長軸の計測値が短軸の計測値の1.2倍未満のもの。

II類：楕円形土坑 長軸の計測値が短軸の計測値の1.2倍以上、1.5倍未満のもの。

III類：長楕円形土坑 長軸の計測値が短軸の計測値の1.5倍以上であるもの。

(※ただし壁面で検出されたものや重複があって本来の形状が残されていないものについては、図上で推定復元し、その数値をもとに分類した。)

類別の土坑数は、I類が82基、II類が58基、III類が27基である。これを全体比率に置き換えると、I類が約49.1%、II類が約34.7%、III類が約16.2%という比率を示す。土坑は、底面に逆茂木状の小ピットを持つものが多い。形態別にみるとピットを持たないものの比率がI類土坑で約18.3%、II類土坑では約17.2%、III類土坑では約11.1%である。全体としては、ピットを持つ土坑と持たない土坑の比率は、持たないものが約16.7%、持つものが約83.3%と、底面にピットを持つ土坑が多数を占めている。本調査II期の土坑は、大多数が本来の掘り込み面より下位で検出した関係で、平面形の形状・規模において正確な数値を示すことができない。このため本節では、調査区の壁面で検出されたことによって掘り込み面が確認された土坑を対象に記載する。その他の土坑については、遺構計測表(表5-4)に長軸、短軸、深さ、長軸の方向などの計測値や形状、覆土、検出面、ピットの有無・規模、重複関係などを記載し、本文中への記載は割愛する。

(1) I類：円形土坑

円形土坑には、KGP、KU、AN～ZN層で検出した土坑がある。以下各層ごとに記載する。

①KGP層の土坑

57号土坑(第23図)は、覆土に多量のKGP層土が入ることから、同層からの掘り込みと判断した。断面形は筒型で、底面にピットは見られない。102号土坑(第32図)は、上面の最大径0.85mに対して底面の最大径が0.25mと小さく土坑の断面形はコップ型である。深さは、1.16mでAN～ZN層中から掘り込まれた大半の土坑とほぼ同じ規模である。底面中央にピット1基が検出されている。

②KU層の土坑

2号土坑(第13図)は、本調査I期で検出された土坑である。掘り込みが0.39mと浅く上面の最大径が0.81mに対し底面の最大径は0.61mで断面形は逆台型を呈する。覆土にKGP層土が見られることから掘り込み面はもう少し上層である可能性がある。

③AN～ZN層中の土坑

同層からの掘り込みが確認できたものに、20(第16図)、26、28、29(第18図)、42、43(第21図)、44～46(第22図)、50、57(第23図)、54(第24図)、59、69(第25図)、77(第27図)、78、79(第28図)、82(第29図)、109(第34図)、112、120(第35図)、121(第36図)、139(第40図)、141～144(第41図)、162号土坑(第44図)がある。このうち、37、42、44、54、79、112、121号土坑はKGP層直下から掘り込まれているが、覆土中にKGP粒子を全く含まないか、含んでも僅かであるため、AN～ZN層中から掘り込んだものと判断した(II・III類も同様)。土坑の規模から見た特徴は以下のとおりである。

- 掘り込みが1.62～2.3mと深く、上面の最大径が1～1.2mに対し底面の径が最大径で0.29～0.42mと小さいもの(50、82号土坑)。
- 掘り込みが0.7～1.25mと浅く、上面の最大径が0.6～3.9mに対し、底面の径が最大径で0.3～0.41mと小さいもの(20、28、43、102、112、121号土坑)。

- 3) 掘り込みが0.45～1.38 mと浅く、上面の最大径が0.74～1.13 mに対し、底面の径が最大径で0.38～0.68 mとやや大きいもの(26、29、42、44、54、57、59、69、77～79号土坑)。
- 4) 掘り込みの深さは2)の範疇だが、上面の最大径が1.6 mとやや大型で、底面の最大径が0.5 mと小さく窄まるもの(109号土坑)。
- 5) 掘り込みの深度が0.43 mと浅く、上面の最大径0.81～0.96 m、下面の最大径が0.49～0.75 mのもの(45、46号土坑)。

底面のピットは1基だけのものが40.2%、次いで2基が23.2%、3基が11%、4基が6.1%、5基が1.2%、なしが18.3%、となる。ピットの土坑底面における位置は、中央に1基だけのものが35.8%、中央に2基まとまるものが7.5%、直列するもの6.0%、中央から外れて位置するものが29.9%、配置に規則性を持たないものが20.9%である。

(2) II類：楕円形土坑

楕円形土坑には、KGP、FB、AN～ZN層で検出された土坑がある。

①KGP層の土坑

同層から掘り込まれたII類土坑に56号土坑(第24図)、86号土坑(第29図)がある。56号土坑は、上面の最大径が0.73 mと小型の土坑である。底面は、最大径が0.4 mと上面の径と比較するとやや大きめである。深さは0.63 mと浅く、掘り込みはAN～ZN層中で終了している。上面はSSC層に被覆されている。86号土坑は深さ1.33 mで、上面の最大径は現存値で0.84 m、底面の最大径は0.34 mと上面に対し小さい。KGP層を掘り込んでいるが、KGP層の上位が攪乱で削り取られているためSSC層との関係は不明である。底面はYLM層中を掘り込んでいる。

②FB層の土坑

4号土坑(第13図)は、本調査I期でFB層からの掘り込みが確認された土坑である。平面形、底面形ともに楕円形で、YLS1層まで掘り込まれている。上面の最大径が0.84 m、底面の最大径は0.51 mで、深さは1.1 mを測る。底面にピットは検出されていない。

③AN～ZN層の土坑

同層中からの掘り込みが確認されたII類土坑には、9、10号土坑(第14図)、14号土坑(第15図)、21号土坑(第17図)、30号土坑(第18図)、55、58、60号土坑(第24図)、80、81号土坑(第28図)、87号土坑(第30図)、103号土坑(第33図)、114号土坑(第35図)、129号土坑(第37図)、154号土坑(第43図)がある。このうち10、81、114、129号土坑については、KGP層に被覆されている。II類土坑は、AN～ZN層の上層からと中層からの掘り込みが想定される。本層検出土坑の規模による特徴は以下のとおりである。

- 1) 掘り込みが1.87 mと深く、上面の最大径が1.02 mに対して底面の最大径が0.28 mと小さいもの(9号土坑)。
- 2) 掘り込みが0.7～1.22 mとやや浅く、上面の最大径が0.7～0.95 mに対して、底面の最大径が0.28～0.4 mと小さなもの(14、81、154号土坑)。
- 3) 掘り込みが0.6～1 mとやや浅く、上面の最大径が0.6～1.15 mに対し、底面の最大径が0.6～0.85 mと前者と比較すると大きいもの(21、30、55、58、60、80、114号土坑)。
- 4) 平面の規模が最大径で1～1.5 mとやや大型のもの(87、103、129号土坑)。

土坑底面のピット数は、1基のものが25.9%、2基のものが34.5%、3基が8.6%、4基が10.3%、5基が3.4%、なしが17.2%である。ピットの土坑底面における位置は、中央に1基あるもの18.8%、中央に2基あるもの8.3%、中央に3基あるもの4.2%、中央に4基あるもの2.1%、中央に5基あるもの2.1%、直列するもの20.8%、中央から外れて位置するもの25%、配置に規則性を持たないもの

18.8%である。

(3) III類：長楕円形土坑

この類の土坑は、KGP、KU、AN～ZN層で検出された（6号土坑については、検出面がSCI層であるが覆土の状況からAN層からの掘り込みが推定されるため同層で扱った）。このうち、壁面で確認されたのは、3号土坑（第13図）、47号土坑（第22図）、99号土坑（第32図）、113号土坑（第34図）、115号土坑（第35図）、140号土坑（第40図）だけである。したがってこの類については、土坑の数量的な傾向を掴むため、壁面以外で検出したものも含めて検討する。

①KGP層の土坑

47号土坑（第22図）は、KGP層から掘り込まれていると思われるが掘り込み面は判然としない。上面の最大径は1.15m、底面の最大径は現存値で0.56mである。深さは0.34mと浅い。113号土坑（第34図）は、長軸が現存値で0.7m、短軸が現存値で0.5mとやや小型の土坑で、深さは1.03mを測る。底面中央にピットがある。

②KU層の土坑

3号土坑（第13図）は、本調査I期で検出した土坑である。平面の規模は、長軸1.28m、短軸0.7m、とやや大型だが、深さは0.29mと浅く掘り込みはFB層中で終わる。底面にピットはみられない。FB層中で掘り込みが終わる土坑はI類の2号土坑も同様であり、この二つの土坑の位置は本調査I期の遺物集中区に重なっており、陥穴以外の目的に使用された可能性がある。

③AN～ZN層の土坑

この層に属する土坑（6（第13図）、22、25（第17図）、27（第18図）、31、33（第19図）、38（第20図）、51（第23図）、61（第25図）、65、66、67（第26図）、92（第30図）、93（第31図）、99（第32図）、111（第34図）、115（第35図）、118（第36図）、123、124（第37図）、128（第38図）、137、140（第40図）、151（第42図）、157（第43図））の計測値を集計すると、上面の長軸1.39～0.96m、短軸0.9m～0.53m、底面の長軸は1.28～0.4m、短軸は0.65～0.25mで上面の径に対し底面の径が著しく小さなものは見られないが、底面の径がやや小さいもの（61、128、137、157土坑）がわずかに見られる。深さは推定復元で1～1.5m程度であり、I類土坑やII類土坑のように2mを超えるものは見られない。土坑底面のピット数は、1基が7.4%、2基が25.9%、3基が22.2%、4基が18.5%、5基が7.4%、6基が3.7%、7基が3.7%、ピットなしが11.1%である。ピットの土坑底面における配置は、土坑長軸に沿って直列するもの45.8%、並列するもの12.5%、サイコロの5目のように配列するもの4.2%、配置に規則性が認められないもの20.8%、中央からはずれて位置するもの16.7%がある。

(4) 重複する土坑について

本調査II期の調査区内には重複する土坑が15例見られる。愛鷹・箱根山麓地域では陥穴と考えられる土坑同士の重複例は少ないが、裾野市棚返遺跡（壬生他 2008）では数例の重複が報告されており、全国的にみても重複例は少数が存在する。土坑の性格を陥穴とすると、その配置がどのように行われるのが問題になると思われるが、ここでは重複の事実関係だけを述べておく。

本遺跡での重複例としては、ほぼ規模が同じで長軸方向が一致している、52・53号土坑（第23図）、58・60号土坑（第24図）、70・71号土坑（第27図）については、いずれも覆土が自然埋没の状況を示しており、埋没後に同じ地点に再度、掘り直した可能性がある。また、109・103・104号土坑（第34図）の例のように、109号土坑が人為的に埋め戻した可能性がある堆積状況を示しており、埋め戻したあとに104号土坑（第33図）が掘られ、さらに103号土坑（第33図）が自然埋没した104号土坑を切って構築したと推定されるものである。平面形が異なり長軸方向も異なるもの同士の重複に114・115号土坑（第35図）、130・131号土坑（第38図）の例がある。また、132・134号土坑（第39図）の例では、

132号土坑が深さ0.62m、134号土坑は深さ1.85mと規模が異なる。次に、同じ箇所土坑が集中して掘られている例が2例ある。59・61・69・72・73・74号土坑（第25図）と114・115・119・120号土坑（第35図）例である。前者のグループでは、61、69号土坑が直列し、59、69号は重複し、いずれも長軸方向は一致している。重複する69号と59号の覆土はいずれも自然埋没の状況を示していることから、尾根上から沢へ向かう獣道上に時間差を持って繰り返し掘られた可能性もある。また、東西方向に長軸を持つ120号、119号、114号が南北方向に連続して重複しており、同様のパターンであると考えられる。

2. 焼土遺構（第46図）

焼土遺構は、本調査Ⅰ期調査区とⅡ期調査区で1基ずつ検出された。1号焼土遺構は、本調査Ⅰ期調査区の南側平坦部においてKU層上面で検出されたが、覆土にAN層土が含まれることからAN層中から掘り込まれたものと考えられる。掘り込みの平面形はやや歪んだ円形、断面形は浅い皿状を呈する。内部には焼土のブロックとAN層土、微量の炭化物の混合土がみられる。周囲は土器・石器の集中区でなんらかの生活関連遺構と考えられる。

2号焼土遺構は、Ⅱ期調査区の北西斜面でAN～ZN層中において検出された。不整形の浅い掘り込みを持ち、底面の西側に長楕円形の窪みがみられる。検出面にスクリーントーンで示した約0.8×0.8mの範囲に炭化物の広がりがあり、その下位には焼土のブロックが不規則に散布する。焼土は掘り込みの覆土の上部に濃く集中し、下位層では薄くなっている。掘り込みの底面および壁には被熱による硬化等は見られないことから、焼土や炭化物は流れ込み、もしくは人為的に投げ入れた可能性が高い。

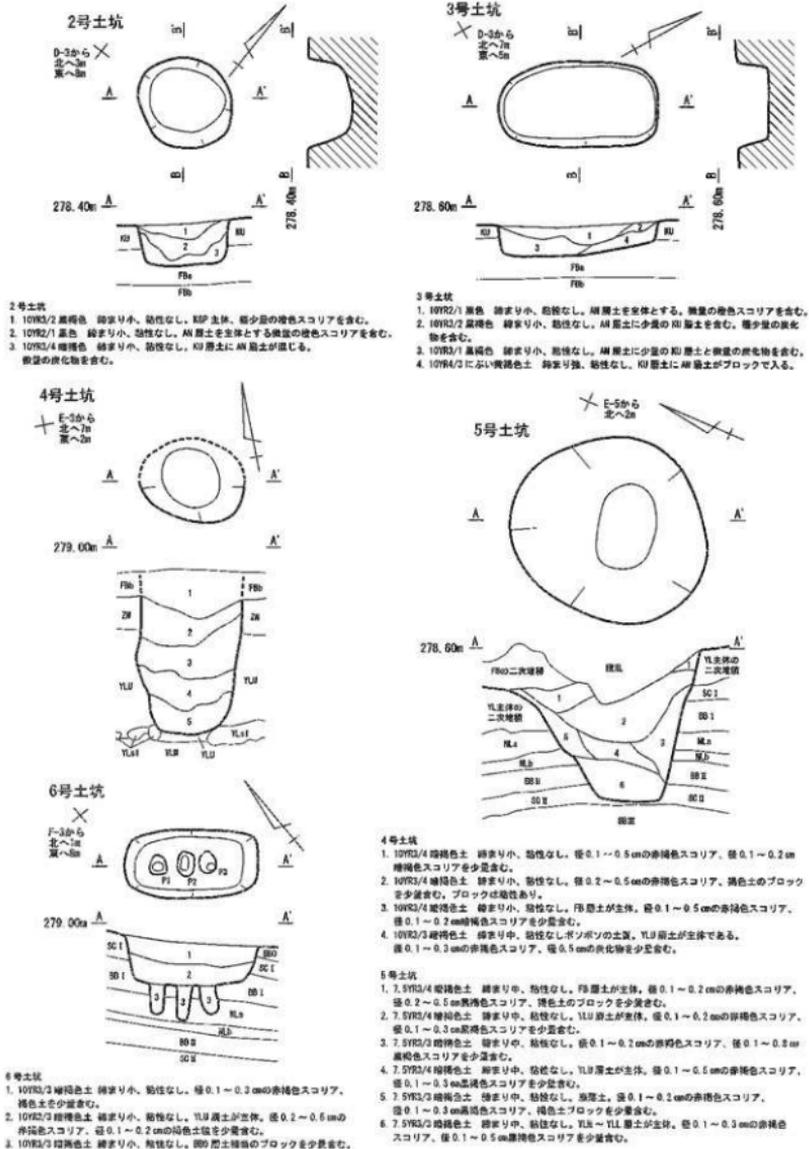
なお、2号焼土遺構では採取した炭化物の年代測定と樹種同定を行った。試料の年代についてはyrBP 3,990年とされており、中期末頃と推定されている。樹種についてはケヤキという結果を得ている（附編参照）。

3. 炭化物集（第47図）

本調査Ⅱ期調査区のT P 14の北側で、AN～ZN層中で検出した。炭化物の範囲は東西方向に長軸を持ち楕円形状に広がるが、堆積は西側に向かって薄くなる。遺物は伴わず焼土も見られない。採取した炭化物の年代測定と樹種同定を行った。その結果、複数採取した試料の年代についてはyrBP 4,500年代後半の範囲内で重なり、中期前葉と推定されている。樹種についてはケヤキという結果を得ている（附編参照）。

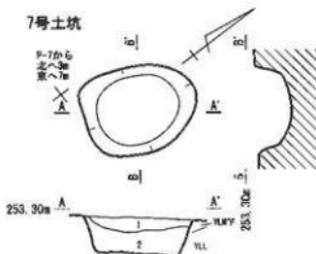
4. ピット（第46図）

2号焼土遺構の北側に重複している13号土坑の南側で検出した。現存径0.2m、深さ0.22mの規模をもつ。13号土坑となんらかの関係があるピットの可能性があるが、性格は不明である。



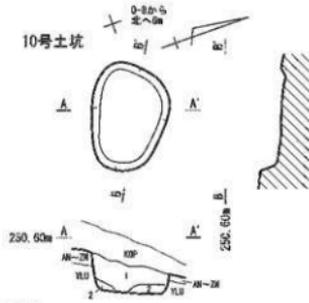
第13図 縄文時代 土坑実測図(1)

0 (1:40) 1m



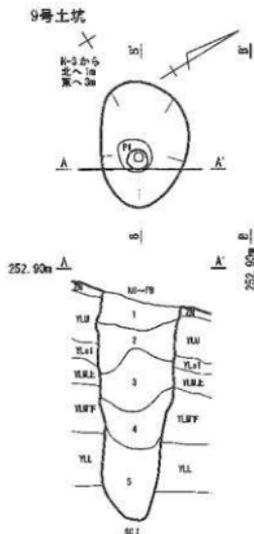
7号土坑

- 1079A/3にぶい黄褐色土 跡残り中、粘性小、3~5cm次のYUブロックを食む。径0.2~0.3cmの褐色スコリア、径0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 1079A/4褐色土 跡残り中、粘性小、径0.2cm程度の褐色スコリアを少量含む。



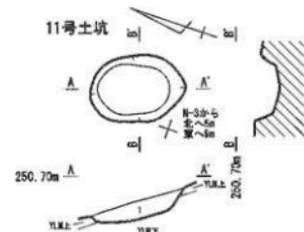
10号土坑

- 1079B/3にぶい黄褐色土 跡残り中、粘性小、3~5cm次のYUブロックを食む。径0.2~0.3cmの褐色スコリア、径0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 1079A/4褐色土 跡残り中、粘性小、径0.2cm程度の褐色スコリアを少量含む。



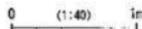
9号土坑

- 1079A/3にぶい黄褐色土 跡残り中、粘性小、3~5cm次のYUのブロックを食む。径0.2~0.3cmの褐色スコリア、径0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 1079A/4褐色土 跡残り中、粘性小、径0.2cm程度の褐色スコリアを少量含む。
- 1079A/3にぶい黄褐色土 跡残り中、粘性なし、YUの小ブロックを食む。
- 1079B/5黄褐色土 跡残り中、粘性なし、径0.2~0.5cmの褐色スコリア、径0.2~0.5cm暗灰色スコリアを中量含む。
- 1079B/5黄褐色土 跡残りなし、粘性なし、径0.2~0.5cm褐色スコリア、径0.2~0.5cm暗灰色スコリアを多量に含む。

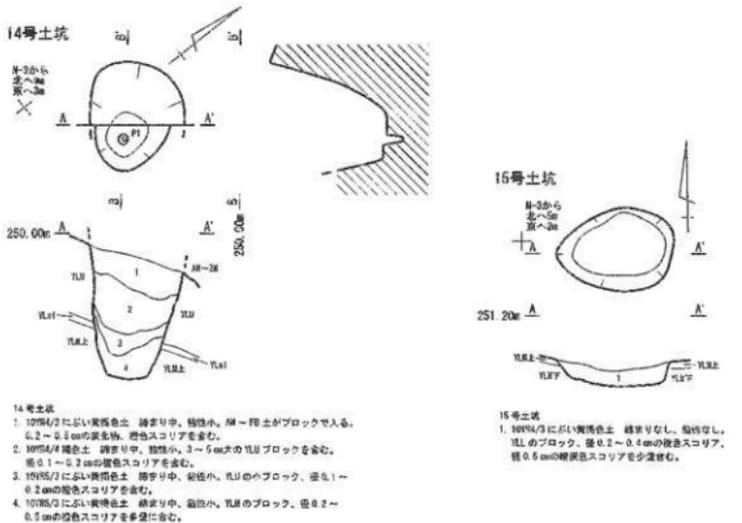
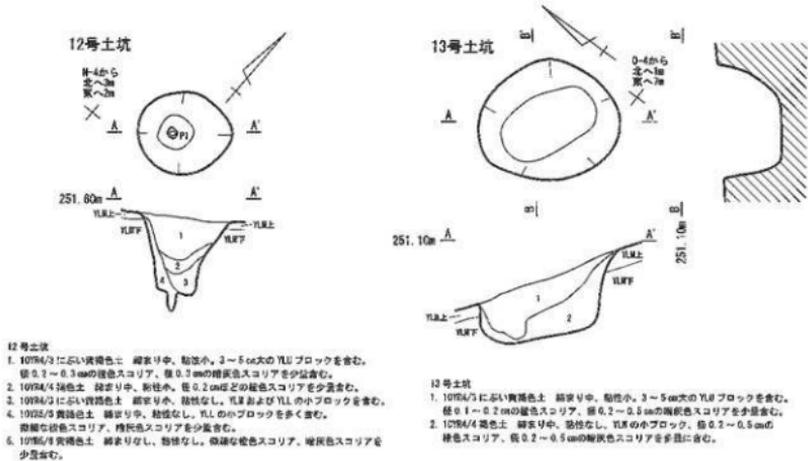


11号土坑

- 1079A/3にぶい黄褐色土 跡残り中、粘性小、3~5cmのYUブロック、径0.5cmの褐色スコリア、径0.2~0.4cm暗灰色スコリアを少量含む。

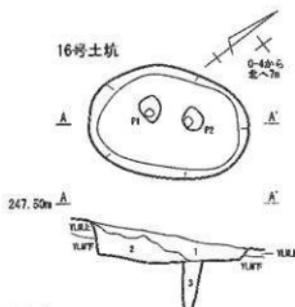


第14図 縄文時代 土坑実測図(2)



0 (1:40) 1m

第15図 縄文時代 土坑実測図(3)



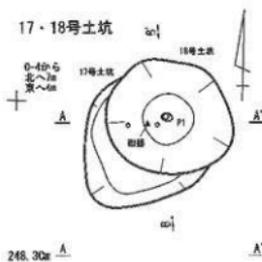
16号土坑

1. 10YR5/3 に近い黄褐色土 跡まり小、やや粘りあり、3～5cmのYLRブロック、径0.1～0.2cmの橙スコリアを含む。
2. 10YR5/4 に近い黄褐色土 跡まり小、粘りあり、径0.1～0.3cmの橙色スコリア、径0.3～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR5/4 に近い黄褐色土 跡まり小、粘りなし、径0.1～0.3cmの橙色スコリア、径0.3～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。

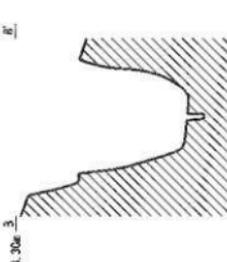
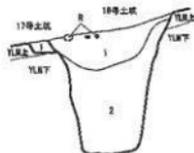


19号土坑

1. 2.5Y5/4 黄褐色土 跡まり小、粘り小、径0.1～0.3cmの橙色スコリア、径0.3～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。



248.30m

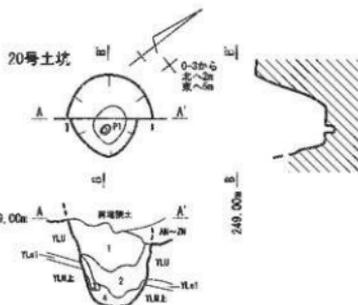


17号土坑

1. 2.5Y5/3 黄褐色土 跡まり小、粘り中、YLRの小ブロックが入る、径0.2～0.5cmの橙スコリアを少量含む。

18号土坑

1. 2.5Y5/4 黄褐色土 跡まり小、粘り小、5cmほどのYLRブロックが層に入る。
2. 2.5Y5/4 黄褐色土 跡まり小、粘り中、1よりYLRブロックの層入量が多く跡まりが強い。



249.00m

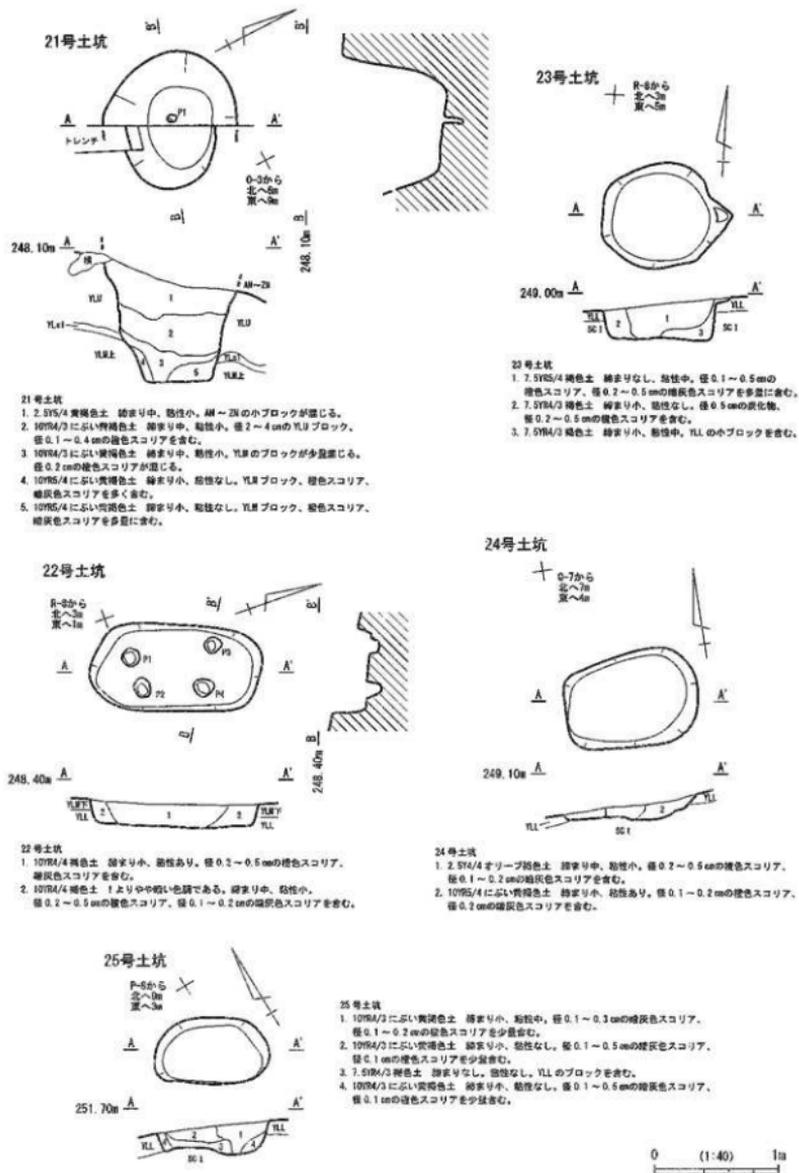
249.00m

20号土坑

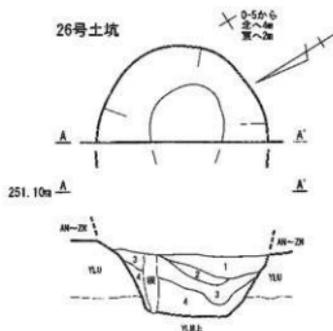
1. 10YR3/3 に近い黄褐色土 跡まり中、粘り中、3～5cmのYLRブロック、径0.2～0.4cmの橙スコリアを含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 跡まり小、粘りあり、径0.1～0.3cmの緑灰色スコリア、径0.1～0.2cmの橙スコリアを含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 跡まり小、粘りあり、YLRのブロックを少量含む。
4. 10YR5/4 に近い黄褐色土 跡まり中、粘りなし、YLRブロック、YLRブロックが散在する。

0 (1:40) 1m

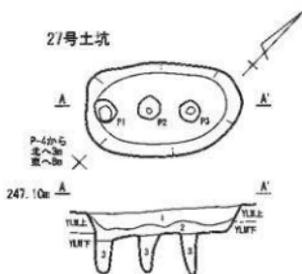
第16図 縄文時代 土坑実測図(4)



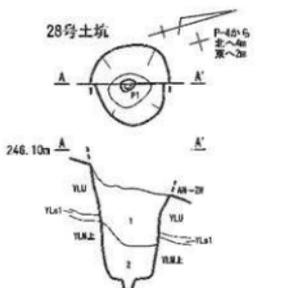
第17図 縄文時代 土坑夷削面(5)



- 26号土坑
- 10YR4/2 灰黄褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.2 cmの褐色スコリア、径0.1~0.2 cmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.2 cmの褐色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/2 灰黄褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.2 cmの褐色スコリア、径0.1~0.2 cmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 跡残り小、粘性小、4~5 cmのYLUブロック、径0.1~0.5 mmの褐色スコリア、径0.1~0.3 cmの緑灰色スコリアを少量含む。



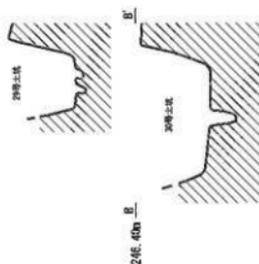
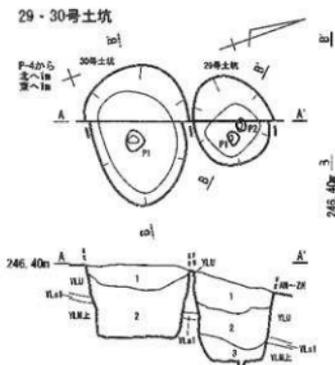
- 27号土坑
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 跡残り小、粘性中、径0.2~0.5 cmの褐色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/4 にぶい黄褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.2 cmの褐色スコリア、径0.1~0.3 mmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/4 にぶい黄褐色土 跡残り小、粘性なし、微細な褐色スコリア、径0.1~0.5 mmの緑灰色スコリアを少量含む。



- 28号土坑
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 跡残り小、粘性小、径0.1 cmの褐色スコリア、径0.1~0.3 mmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.2 cmの褐色スコリア、径0.1~0.3 mmの緑灰色スコリア、YLUのブロックを少量含む。

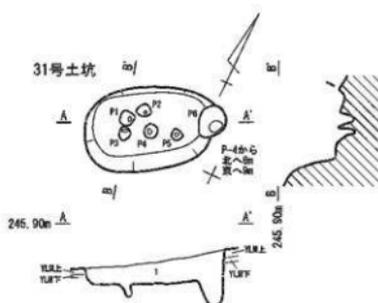
- 29号土坑
- 10YR4/2 灰黄褐色土 跡残り中、粘性小、径0.1~0.2 cmの褐色スコリア、径0.2~0.3 mmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 跡残り中、粘性小、径0.1 cmの褐色スコリア、径0.1~0.3 mmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 跡残り中、粘性小、径0.1~0.2 cmの褐色スコリア、径0.1~0.3 mmの緑灰色スコリア、YLUの小ブロックを少量含む。

- 30号土坑
- 10YR4/2 灰黄褐色土 跡残り中、粘性小、径0.1~0.2 cmの褐色スコリア、径0.2~0.3 mmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 跡残り中、粘性小、径0.1 cmの褐色スコリア、径0.1~0.3 mmの緑灰色スコリアを少量含む。



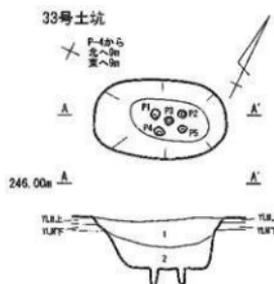
0 (1:40) 1m

第18図 縄文時代 土坑実測図(6)



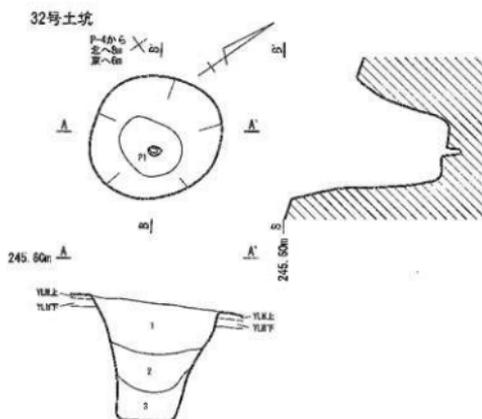
31号土坑

- 10794/3にふい質褐色土 跡まじり小、粘性小、径0.1cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの緑灰色スコリアを少量含む。



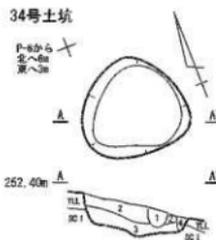
33号土坑

- 10794/3にふい質褐色土 跡まじり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
- 10794/4褐色土 跡まじり小、粘性なし、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの緑灰色スコリアを少量含む。



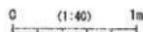
32号土坑

- 10794/3にふい質褐色土 跡まじり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
- 10794/2灰褐色土 跡まじり小、粘性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの緑灰色スコリア、丸皿の小ブロックを少量含む。
- 10794/2灰黄褐色土 跡まじり小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.2~0.3cmの緑灰色スコリア、丸皿の小ブロックを2より多く含む。



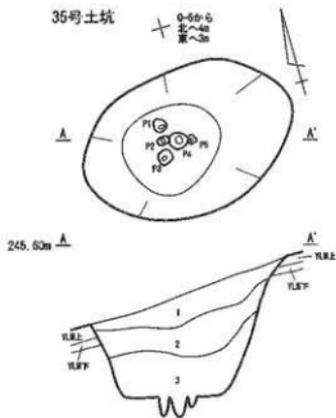
34号土坑

- 丸皿のブロック。
- 10794/3にふい質褐色土 跡まじり小、粘性小、径2~3cmの丸皿ブロックを多く含む。
- 10794/2灰質褐色土 跡まじり小、粘性中、径0.2~0.3cmの褐色スコリア、径0.2~0.3cmの緑灰色スコリアを少量含む。
- 10794/3にふい質褐色土 跡まじり小、粘性小、径2~2cmの丸皿ブロックを多く含む。



第19図 縄文時代 土坑実測図(7)

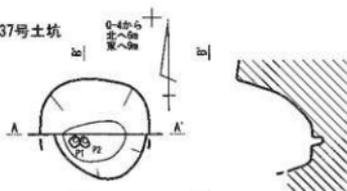
35号土坑



25号土坑

- 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.3mmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/4褐色土 締まり小、粘性なし。径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.3mmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/4褐色土 締まり小、粘性なし。径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.3mmの暗灰色スコリア、V.L.の小ブロックを少量含む。

37号土坑



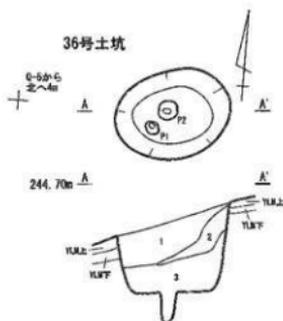
243.90m



37号土坑

- 10YR4/2灰黄褐色土 締まり中、粘性小。径0.1~0.4mmの褐色スコリア、径0.1~0.3mmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2灰黄褐色土 締まり中、粘性小。径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.2mmの暗灰色スコリア、V.L.の1mm次のブロック、M-2の小ブロックを少量含む。
- 10YR4/2にぶい黄褐色土 締まり中、粘性小。径0.1~0.5mmの褐色スコリア、径0.1~0.4mmの暗灰色スコリア、V.L.の5mm次のブロックを少量含む。
- 10YR4/6褐色土 締まり小、粘性中。径0.5mmの褐色スコリア、径0.2~0.5mmの暗灰色スコリア、V.L.のブロックを少量含む。

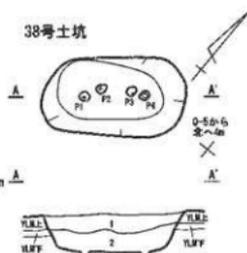
36号土坑



244.70m

- 10YR4/2にぶい黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.5mmの褐色スコリア、径0.1~0.4mmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2灰黄褐色土 締まり中、粘性小。径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.2mmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.5mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの暗灰色スコリア、V.L.ブロックを少量含む。

38号土坑

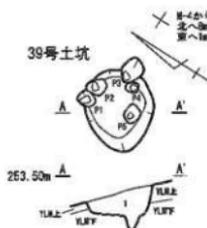


244.10m

38号土坑

- 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.5mmの褐色スコリア、径0.1~0.4mmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2灰黄褐色土 締まり中、粘性小。径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.2mmの暗灰色スコリアを少量含む。

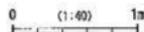
39号土坑



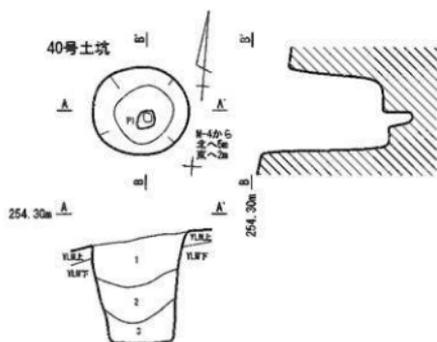
243.50m

39号土坑

- 10YR4/4褐色土 締まり中、粘性小。V.L.の小ブロックを少量含む。

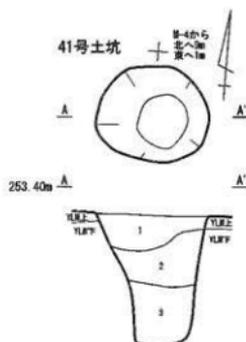


第20図 縄文時代 土坑実測図 (B)



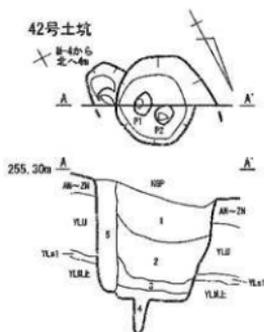
40号土坑

1. 10YR4/3 に近い黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.3～0.5 mm の緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.3～0.5 mm の緑灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.3～0.5 mm の緑灰色スコリア Y.R. の小ブロックを少量含む。



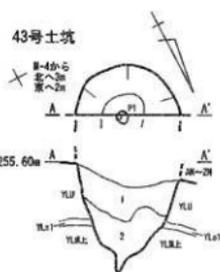
41号土坑

1. 10YR4/3 に近い黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.1～0.5 mm の緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.3～0.5 mm の緑灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.1～0.5 mm の緑灰色スコリア Y.R. の小ブロックを少量含む。



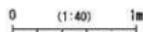
42号土坑

1. 10YR4/3 に近い黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.3～0.5 mm の緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.3～0.5 mm の緑灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.3～0.5 mm の緑灰色スコリアを少量含む。
4. 7.5YR4/3 褐色土 締まり小、粘性中、径 0.5 mm の橙色スコリア、径 0.2～0.5 mm の緑灰色スコリア、Y.R. のブロックを少量含む。
5. 10YR4/3 に近い黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.2～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.1～0.3 mm の緑灰色スコリアを少量含む。

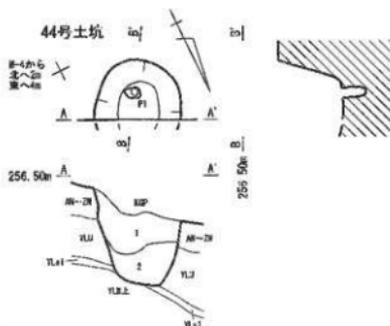


43号土坑

1. 10YR4/3 に近い黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1～0.5 mm の橙色スコリア、径 0.3～0.5 mm の緑灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/3 褐色土 締まり小、粘性中、径 0.5 mm の橙色スコリア、径 0.2～0.5 mm の緑灰色スコリア、Y.R. の 2～3 mm のブロックを少量含む。

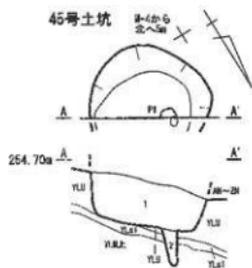


第 21 図 縄文時代 土坑実測図 (9)



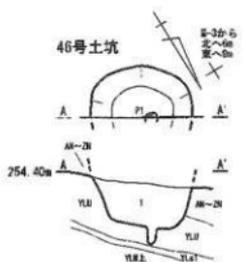
44号土坑

1. 10%R/3にぶい黄褐色土 跡まり小、粘性中、径0.1～0.5cmの褐色スコリア、径0.3～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10%R/2反黄褐色土 跡まり小、粘性中、径0.1～0.5cmの褐色スコリア、径0.3～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。



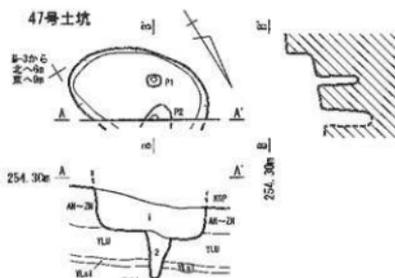
45号土坑

1. 10%R/2にぶい黄褐色土 跡まり小、粘性中、径0.1～0.5cmの褐色スコリア、径0.3～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10%R/3にぶい黄褐色土 跡まり小、粘性なし、YLUの小ブロックを多く含む。



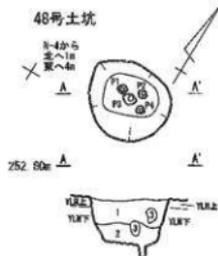
46号土坑

1. 10%R/3にぶい黄褐色土 跡まり小、粘性中、径0.1～0.5cmの褐色スコリア、径0.2～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。



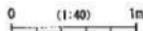
47号土坑

1. 10%R/3にぶい黄褐色土 跡まり小、粘性中、径0.1～0.5cmの褐色スコリア、径0.2～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10%R/2反黄褐色土 跡まり小、粘性中、径0.1～0.5cmの褐色スコリア、径0.1～0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。



48号土坑

1. 10%R/3にぶい黄褐色土 跡まり小、粘性中、径0.1～0.5cmの褐色スコリア、径0.3～0.5cmの緑灰色スコリア、YLUの3～4cm径区の小ブロックを少量含む。
2. 7%R/2褐色土 跡まり小、粘性中、YLUの小ブロックを多く含む。
3. YLUのブロック。



第22図 縄文時代 土坑実測図(10)

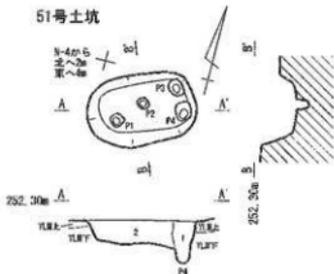
49号土坑



49号土坑

1. 7.5194/3褐色土 跡残り小、粘性中、径0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5194/2褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア、YLRの3~4cmほどのブロックを多量に含む。

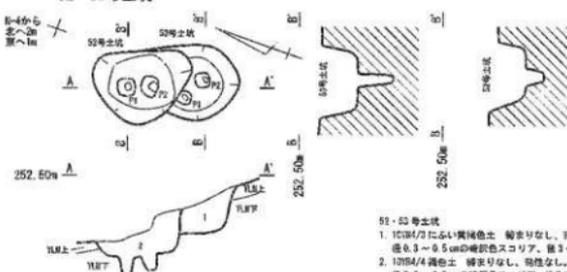
51号土坑



51号土坑

1. 10794/3にふい実褐色土 跡残りなし、粘性なし、径3~5mmほどのSC1のブロックを多量に含む。
2. 10794/2にふい実褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア、YLRの3~4cmほどのブロックを少量含む。

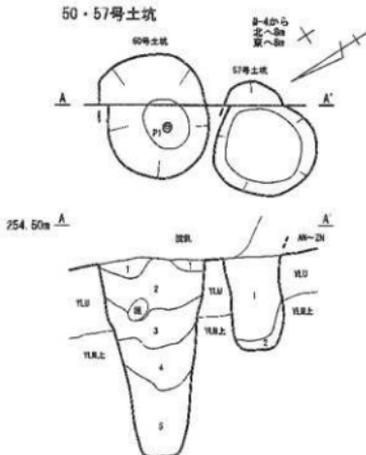
52・53号土坑



52・53号土坑

1. 10794/3にふい実褐色土 跡残りなし、粘性なし、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア、径3~5mmほどのYLRのブロックを多量に含む。
2. 10794/4褐色土 跡残りなし、粘性なし、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア、YLRの小ブロックを少量含む。

50・57号土坑

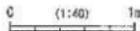


50号土坑

1. 10794/2にふい実褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10794/3にふい実褐色土 跡残り小、粘性中、径0.2~0.3cmの褐色スコリア、径0.2~0.3cmの暗灰色スコリア、YLRの小ブロックを少量含む。
3. 10794/4にふい実褐色土 2よりやや明るい色調、跡残り小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア4~5mmのYLRブロックを少量含む。
4. 10794/2にふい実褐色土 跡残り中、粘性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
5. 10794/1にふい実褐色土 跡残り小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアをYLRの小ブロックを少量含む。

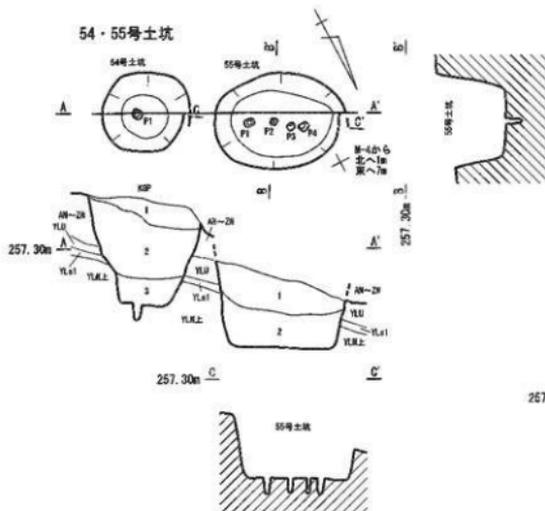
57号土坑

1. 10794/1褐色土 跡残りなし、粘性なし、YLRを多量に含む。
2. 10794/2にふい実褐色土 跡残りなし、粘性なし、YLRの小ブロックを多量に含む。



第23図 縄文時代 土坑断面図 (11)

54・55号土坑



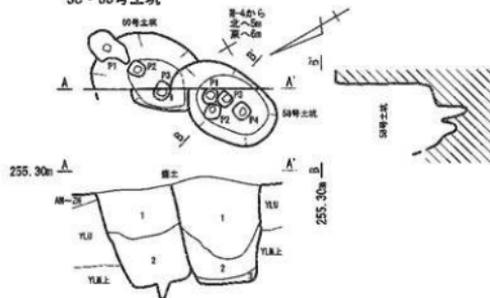
54号土坑

- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性なし。底土・KSPを少量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性なし。M-2Nの小ブロックを少量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを含む。

55号土坑

- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.7cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア、径2~10cmのYLU小ブロックを少量含む。

58・60号土坑



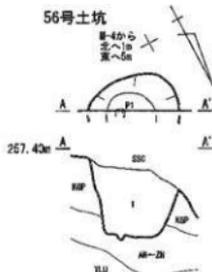
58号土坑

- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中よりさらに粘性が強い。径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性小。YLUの小ブロックを少量含む。

60号土坑

- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり中、粘性なし。径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 1よりやや強い。締まり中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。

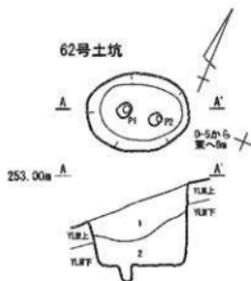
56号土坑



56号土坑

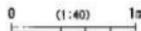
- 10YR4/1 褐色土 締まり中、粘性小。KSP、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの黒色粒、炭化物を少量含む。

62号土坑



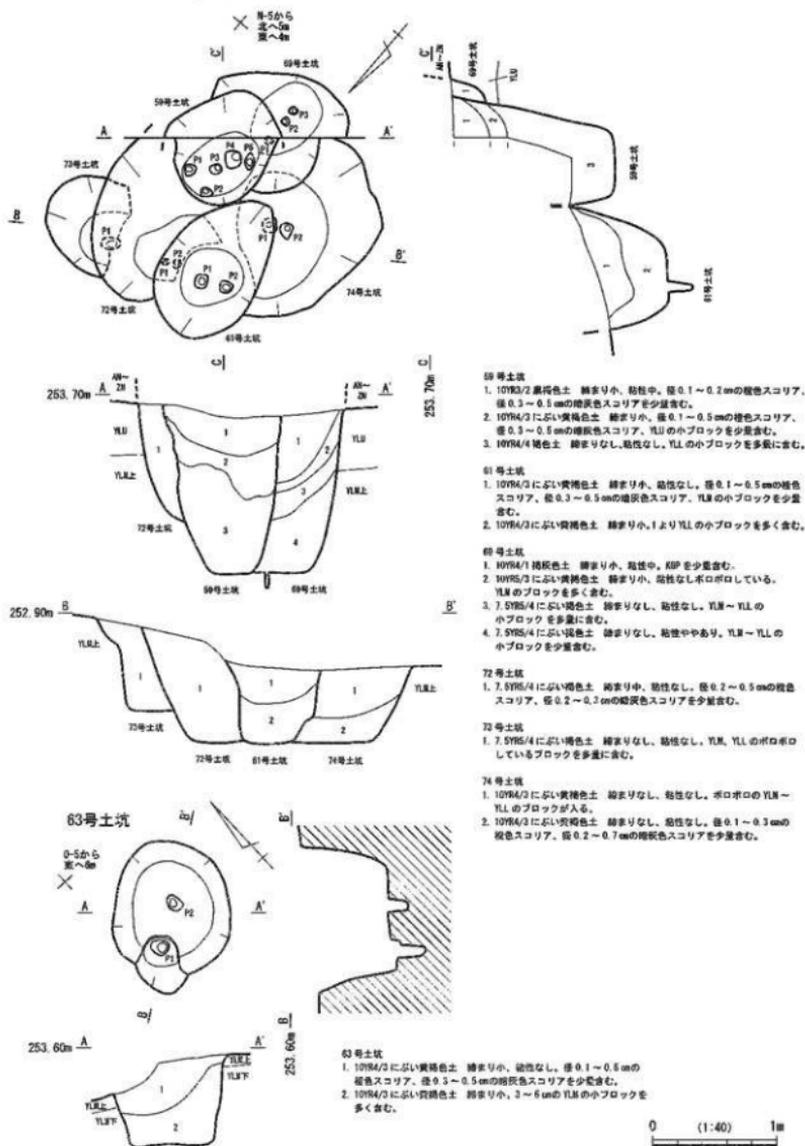
62号土坑

- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性なし。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリア、YLUの小ブロックを少量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり中、1よりYLUの5cmほどのブロックを多く含む。



第24図 縄文時代 土坑実測図 (12)

59・61・69・72・73・74号土坑



第25図 縄文時代 土坑案測図(13)

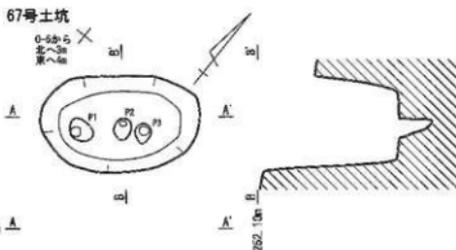


64号土坑

64号土坑

1. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性なし、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、Y.L.Rの小ブロックを少量含む。

252.10m

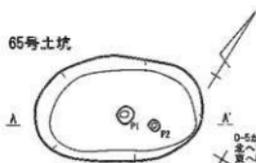


67号土坑

0-5cmから
北へ3m
東へ4m

67号土坑

1. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.2~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性小、径0.2~0.4cmの褐色スコリア、径0.2~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性小、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの緑灰色スコリア、Y.L.R.Y.Lの小ブロックを少量含む。

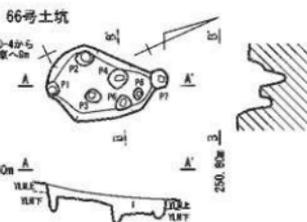


65号土坑

253.50m

65号土坑

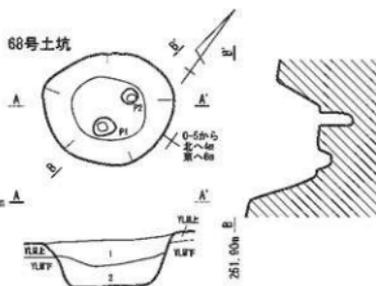
1. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.2~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性小、径0.2~0.4cmの褐色スコリア、径0.2~0.5cmの緑灰色スコリア、3~5cmのY.L.Rの小ブロックを多く含む。



66号土坑

66号土坑

1. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの緑灰色スコリアを少量含む。



68号土坑

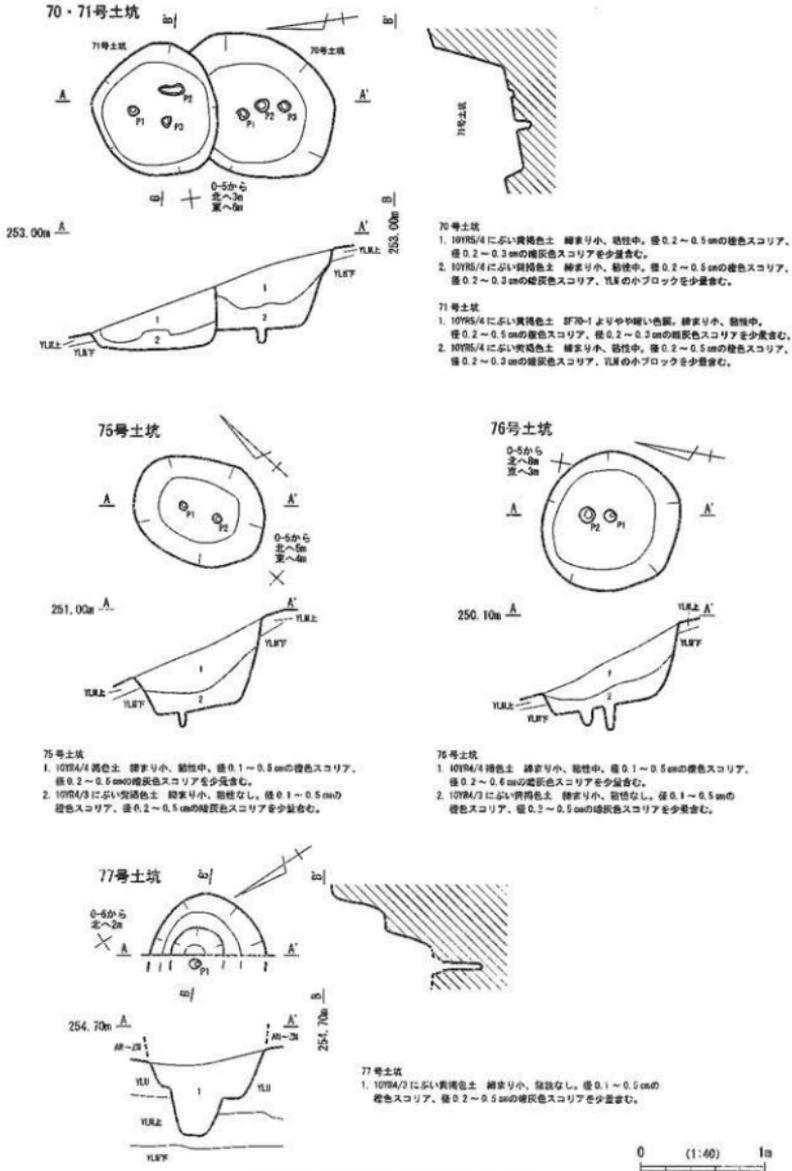
251.90m

68号土坑

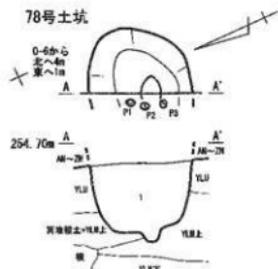
1. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.2~0.5cmの褐色スコリア、径0.2~0.3cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性小、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.2~0.4cmの緑灰色スコリアを少量含む。

0 (1:40) 1m

第26図 縄文時代 土坑実測図(14)

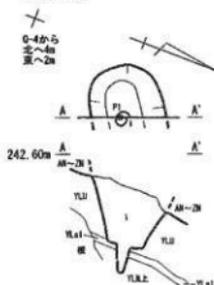


第27図 縄文時代 土坑実測図 (15)



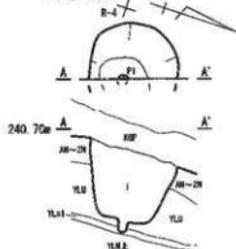
- 78号土坑
1. 10794/3にぶい黄褐色土 締まり中、粘性小、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。

80号土坑



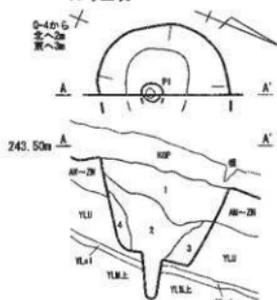
- 80号土坑
1. 10794/2にぶい黄褐色土 締まり中、粘性小、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリア、径3~4cmのYLIブロック、M~2Nの径3~5cmのブロックを少量含む。

81号土坑



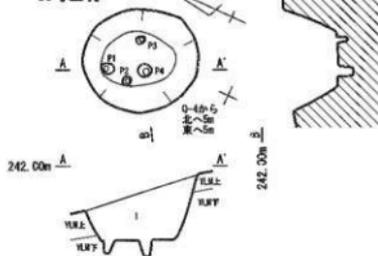
- 81号土坑
1. 10794/2 黄褐色土 締まり中、粘性小、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径3~4cmのYLIブロック、M~2Nの径3~5cmのブロックを少量含む。

79号土坑

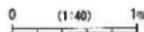


- 79号土坑
1. 10794/2 黄褐色土 締まり中、粘性小、わずかにRSPを含む、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。
 2. 10794/3にぶい黄褐色土 締まり中、粘性小、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。
 3. 10794/2にぶい黄褐色土 締まり中、粘性小、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリア、径3~4cmのYLIブロックを少量含む。
 4. 10794/3にぶい黄褐色土 締まり中、粘性小、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリア、径3~4cmのYLIブロックを少量含む。

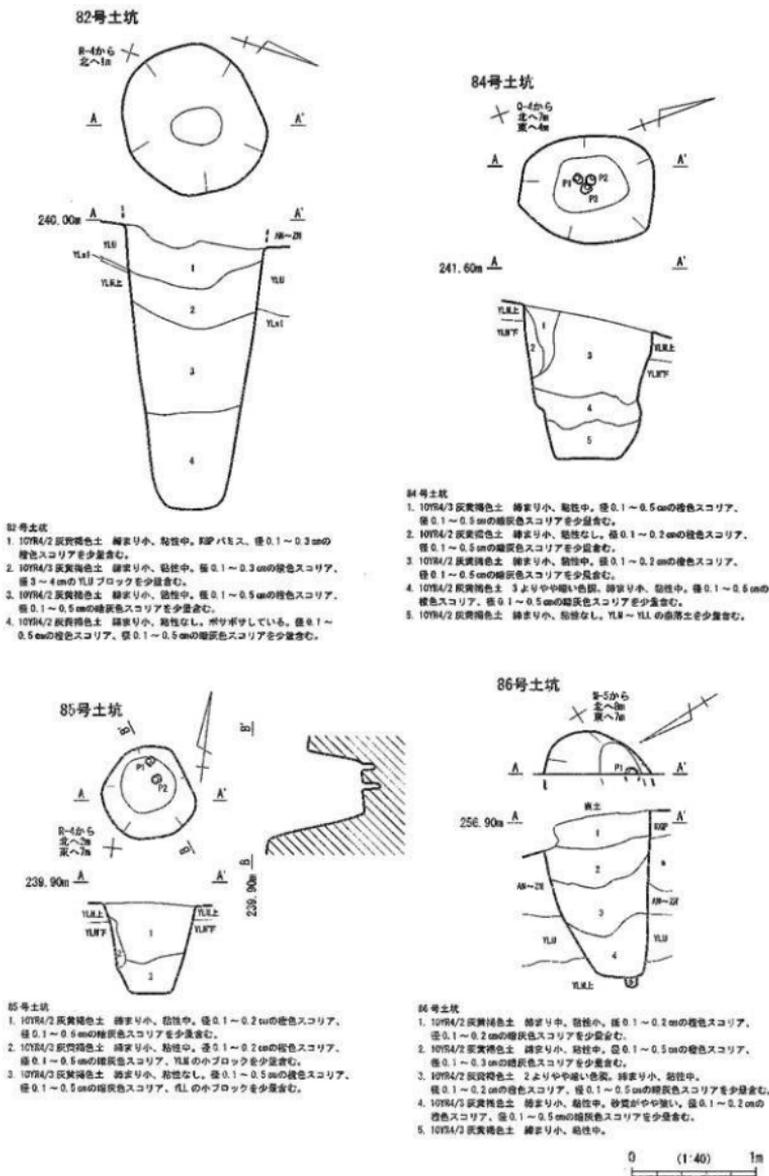
83号土坑



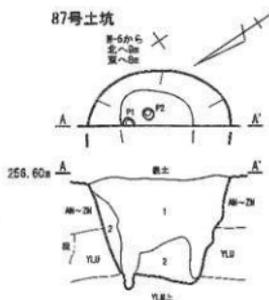
- 83号土坑
1. 5794/4 褐色土 締まり小、粘性小、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。



第28図 縄文時代 土坑実測図 (16)

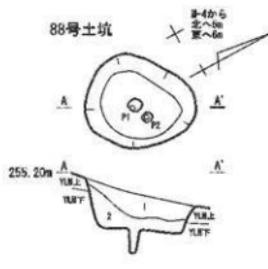


第29図 縄文時代 土坑実測図 (17)



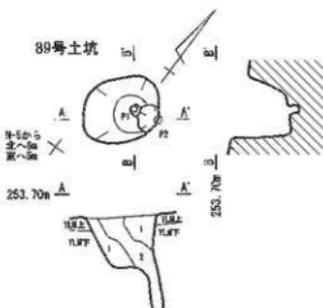
87号土坑

1. 10764/2 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、Y.L.Pの小ブロックを少量含む。
2. 10764/2 灰黄褐色土 締まり中、粘粒小、1よりやや濃い色調、径0.1~0.5mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの褐色スコリアを少量含む。



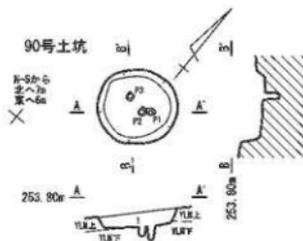
88号土坑

1. 10764/3 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの褐色スコリアを少量含む。
2. 7.5184/3 褐色土 締まり小、粘粒中、0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの褐色スコリア、Y.L.Pの小ブロックを少量含む。



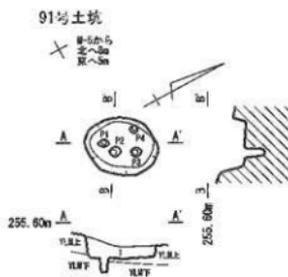
89号土坑

1. 10764/2 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの褐色スコリアを少量含む。
2. 10764/1 褐色土 締まり小、粘粒中、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの褐色スコリアを少量含む。



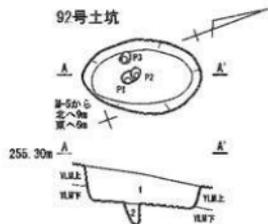
90号土坑

1. 10764/2 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの褐色スコリアを少量含む。



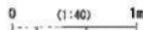
91号土坑

1. 7.5184/4 褐色土 締まり小、粘粒中、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの褐色スコリア、Y.L.Pの小ブロックを少量含む。

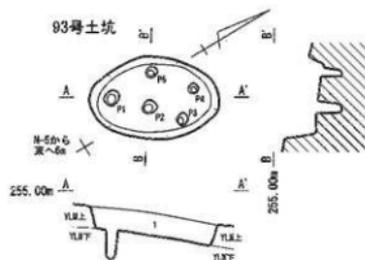


92号土坑

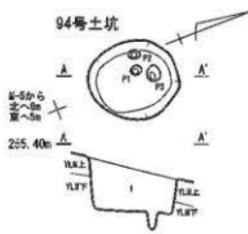
1. 10764/2 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmの褐色スコリアを少量含む。
2. 1よりやや濃い色調、締まり小、粘粒中、径0.1~0.2mmの褐色スコリア、径0.1~0.5mmを少量含む。



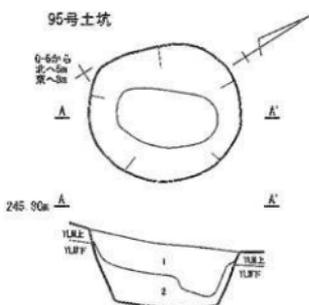
第30図 縄文時代 土坑実測図 (18)



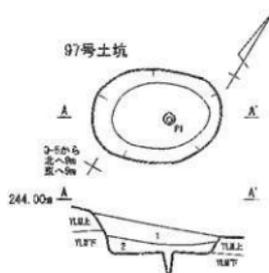
93号土坑
1. 107R4/4 褐色土 跡残り小、胎性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。



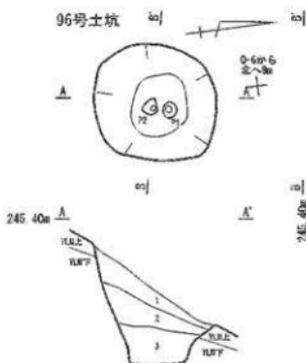
94号土坑
1. 107R4/3 灰黄褐色土 跡残り小、胎性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。



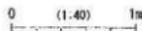
95号土坑
1. 107R5/4 に近い黄褐色土 跡残り小、胎性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5R4/2 褐色土 跡残り小、胎性なし、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリア、丸石の小ブロックを少量含む。



97号土坑
1. 107R4/4 褐色土 跡残り小、胎性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 107R4/4 褐色土 1よりやや細かい色調、跡残り小、胎性なし、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。

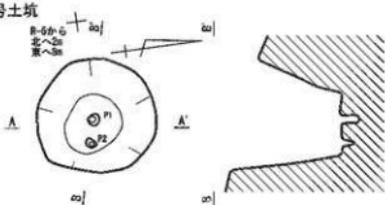


96号土坑
1. 107R5/3 に近い黄褐色土 跡残り小、胎性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリア、丸石の小ブロックを少量含む。
2. 107R5/3 に近い黄褐色土 1よりやや細かい色調、跡残り小、胎性なし、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリア、丸石の小ブロックを少量含む。
3. 107R5/3 に近い黄褐色土 2よりやや細かい色調、跡残り小、胎性なし、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリア、丸石の小ブロックを少量含む。

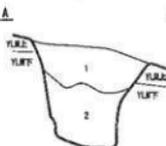


第31図 縄文時代 土坑築測図(19)

98号土坑



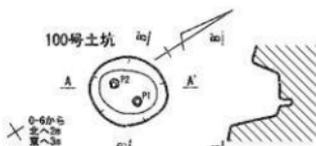
243. 10m



98号土坑

- 10785/4 について黄褐色土 締まり小、粘粒中、径 0.1~0.2mm の褐色スコリア、径 0.1~0.3mm の暗灰色スコリア、Y.L.F の小ブロックを少量含む。
- 10784/3 について黄褐色土 締まり小、粘粒なし、径 0.1~0.2mm の褐色スコリア、径 0.1~0.5mm の暗灰色スコリア、Y.L.F の小ブロックを少量含む。

100号土坑



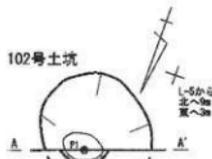
255. 10m



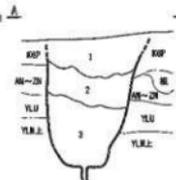
100号土坑

- 10784/3 について黄褐色土 締まり小、粘粒なし、径 0.1~0.2mm の褐色スコリア、径 0.1~0.5mm の暗灰色スコリア、Y.L.F の小ブロックを少量含む。

102号土坑



259. 10m



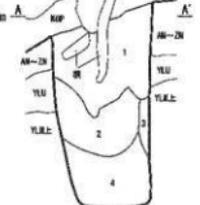
102号土坑

- 10784/2 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、X.P のパイス、径 0.1~0.3mm の褐色スコリアを少量含む。
- 10785/2 について黄褐色土 締まり小、粘粒中、径 0.1~0.3mm の褐色スコリア、径 0.2~0.5mm の暗灰色スコリア、径 3~4mm の Y.L.U ブロックを少量含む。
- 10785/3 について黄褐色土 締まり小、粘粒中、径 0.1~0.3mm の褐色スコリア、径 0.3~0.5mm の暗灰色スコリア、径 3~4mm の Y.L.R ブロックを少量含む。

99号土坑



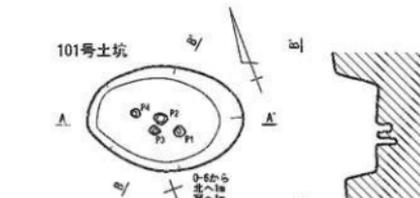
244. 30m



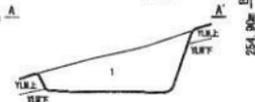
99号土坑

- 10785/2 について黄褐色土 2よりやや赤みのある色調。締まり小、粘粒なし、径 0.1~0.2mm の褐色スコリア、径 0.1~0.5mm の暗灰色スコリア、X.P のパイスを少量含む。
- 10784/3 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、径 0.1~0.2mm の褐色スコリア、径 0.1~0.5mm の暗灰色スコリアを少量含む。
- 10784/2 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、径 0.1~0.3mm の褐色スコリア、径 0.1~0.5mm の暗灰色スコリアを少量含む。
- 10784/3 灰黄褐色土 締まり小、粘粒中、径 0.1~0.3mm の褐色スコリア、径 0.1~0.5mm の暗灰色スコリア、Y.L.R ブロック、Y.L.U ブロックを少量含む。

101号土坑



254. 90m

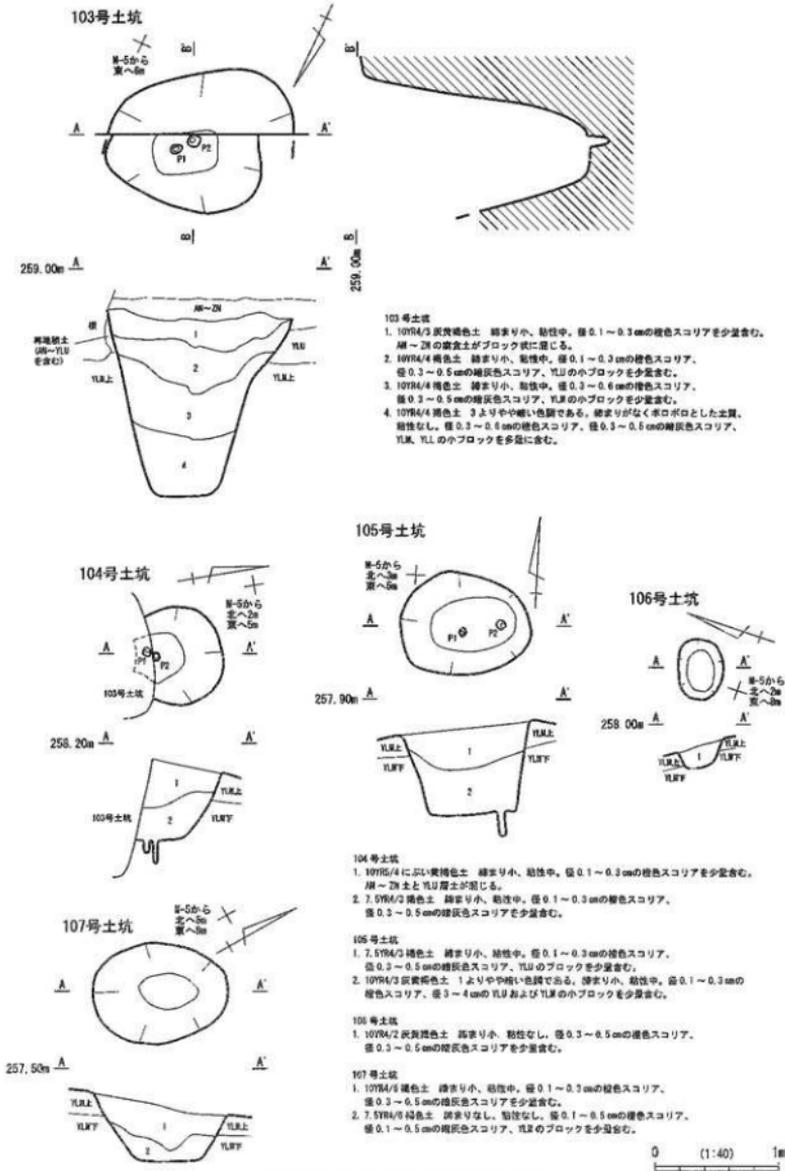


101号土坑

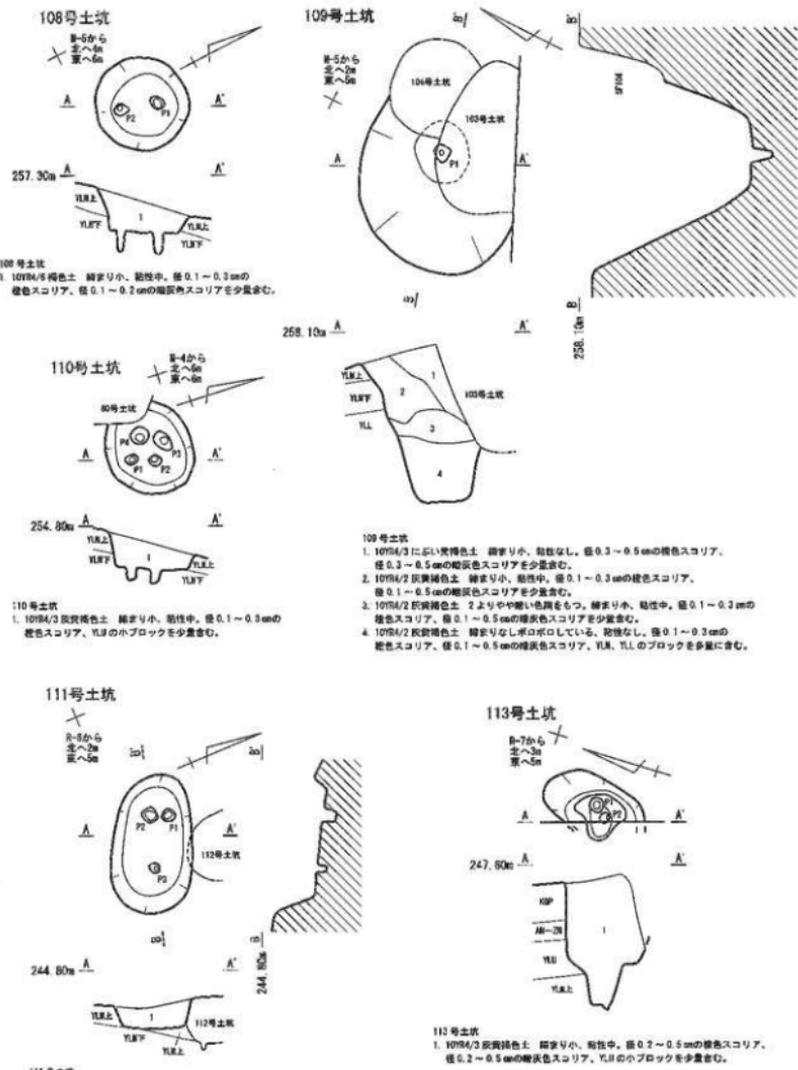
- 10784/2 について黄褐色土 締まり小、粘粒なし、径 0.1~0.5mm の褐色スコリア、径 0.1~0.5mm の暗灰色スコリア、Y.L.R の小ブロック、Y.L.U の小ブロックを少量含む。

0 (1:40) 1m

第32図 縄文時代 土坑実測図 (20)



第33図 縄文時代 土坑発掘図 (21)



108号土坑
1. 107R4/4 赤褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。

258.10m
109号土坑
1. 107R4/3 赤褐色土 締まり小、粘性なし、径0.3~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 107R4/2 赤褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 107R4/2 赤褐色土 2よりやや細かい色調をもつ、締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 107R4/2 赤褐色土 締まりなしで崩壊している、粘性なし、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリア、Y.L.L.のブロックを少量含む。

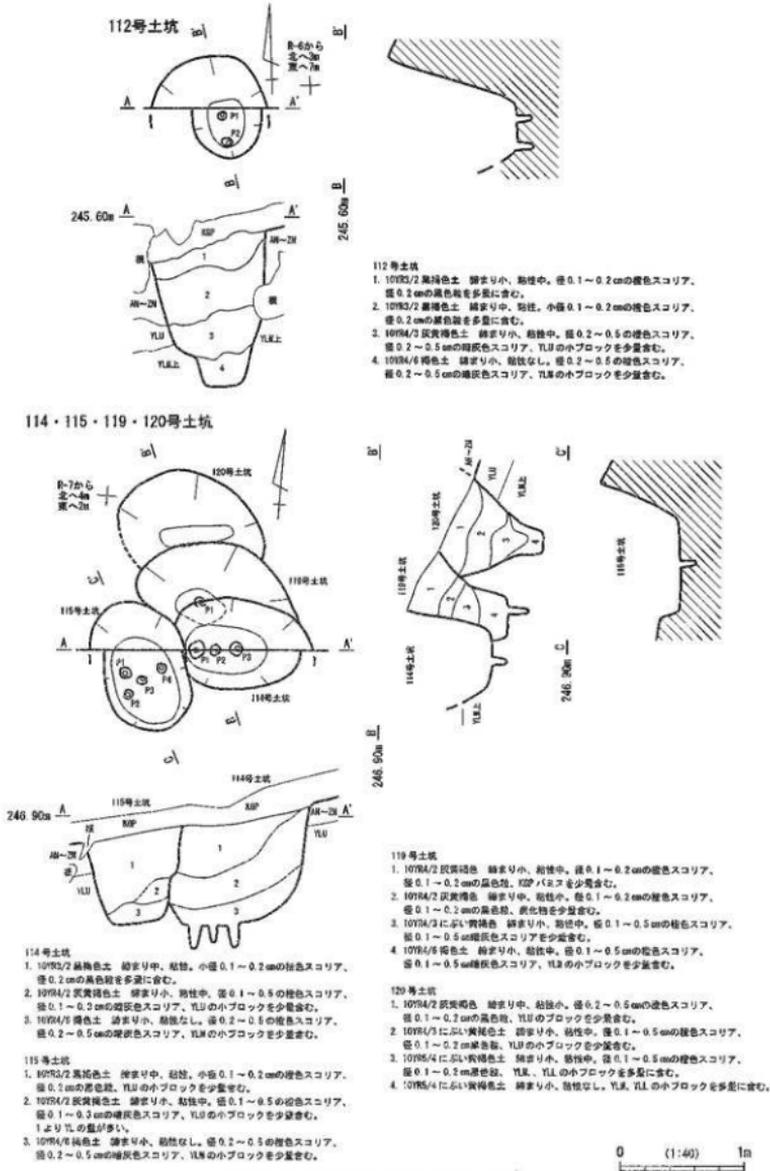
110号土坑
1. 107R4/3 赤褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、Y.L.F.の小ブロックを少量含む。

109号土坑
1. 107R4/3 赤褐色土 締まり小、粘性なし、径0.3~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 107R4/2 赤褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 107R4/2 赤褐色土 2よりやや細かい色調をもつ、締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 107R4/2 赤褐色土 締まりなしで崩壊している、粘性なし、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリア、Y.L.L.のブロックを少量含む。

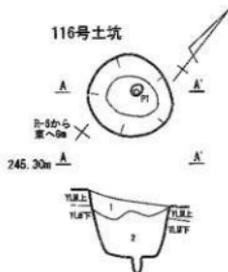
111号土坑
1. 107R4/2 赤褐色土 締まり小、粘性中、径0.2~0.5cmの褐色スコリア、径0.2~0.5cmの暗灰色スコリア、Y.L.F.のブロックを少量含む。

113号土坑
1. 107R4/2 赤褐色土 締まり小、粘性中、径0.2~0.5cmの褐色スコリア、径0.2~0.5cmの暗灰色スコリア、Y.L.F.の小ブロックを少量含む。

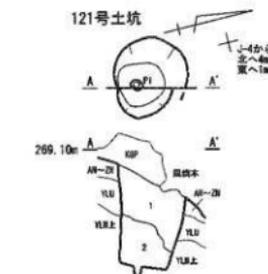
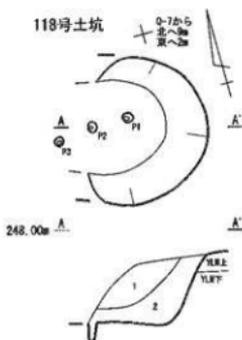
第34図 縄文時代 土坑実測図 (22)



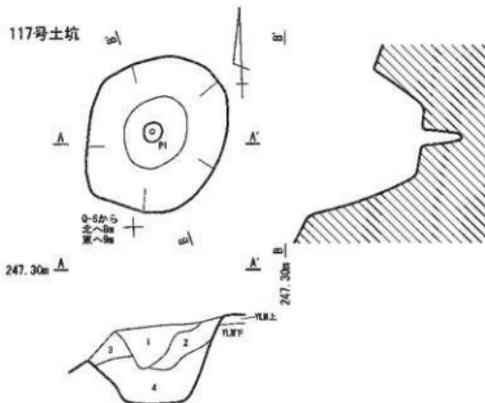
第35図 縄文時代 土坑突測図 (23)



- 116号土坑
- 107R/2にぶい黄褐色土 締まり小、粘性强、径0.1~0.5の褐色スコリア、径0.1~0.8cmの緑灰色スコリア、YJ層の5cm次のブロックを少量含む。
 - 107R/3にぶい黄褐色土 締まり小、粘性なし、YJ層の小ブロックを少量含む。

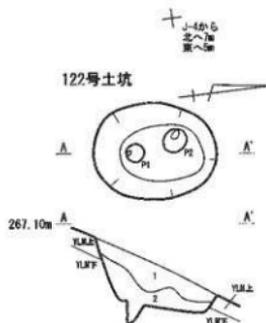


- 121号土坑
- 107R/2反黄褐色土 締まり中、粘性小、径0.2~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの緑色砂、YJ層のブロックを少量含む。
 - 107R/6褐色土 締まりなし、粘性なし、YJ層、YJLの小ブロックを多量に含む。

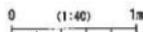


- 117号土坑
- 107R/2反黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 107R/2反黄褐色土 1よりやや明るい色砂。締まり小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの緑灰色スコリア、YJ層のブロックを少量含む。
 - 2と同じ。
 - 107R/3反黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、YJ層の小ブロックを少量含む。

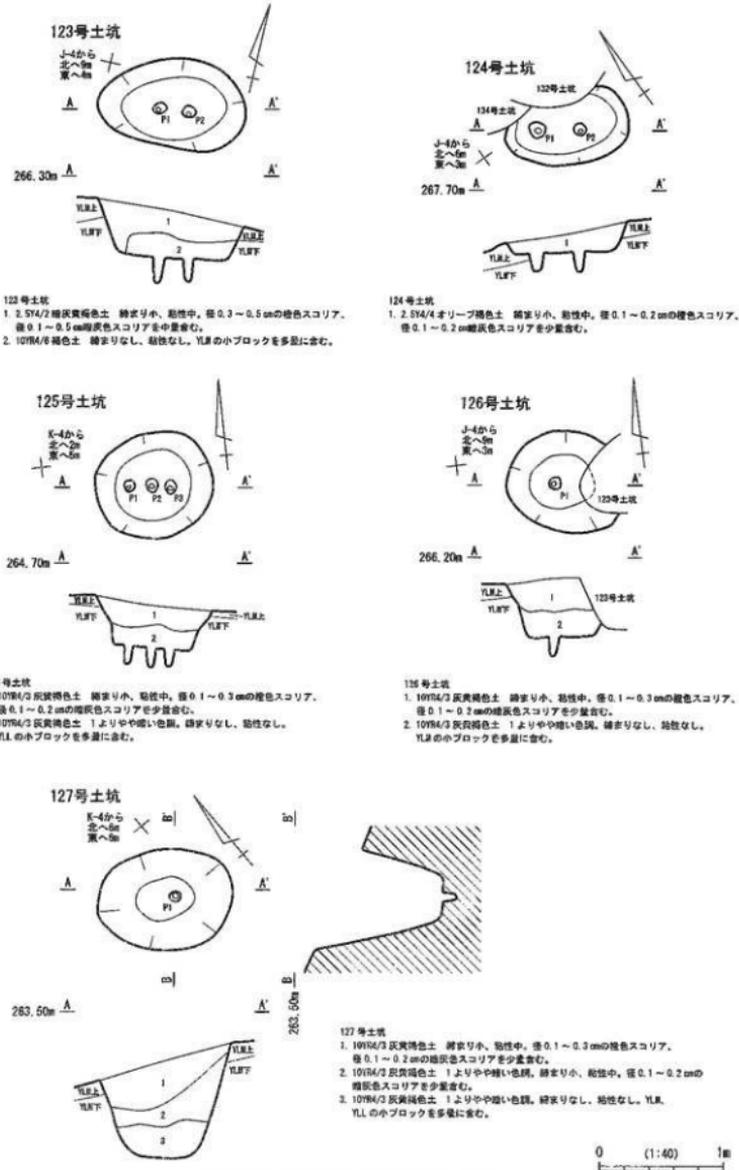
- 119号土坑
- 107R/2反黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリアを少量含む。
 - 107R/2反黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの緑灰色スコリア、YJ層の小ブロックを少量含む。



- 122号土坑
- 2.574/2緑灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.3~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
 - 107R/6褐色土 締まりなし、粘性なし、YJ層、YJLの小ブロックを多量に含む。

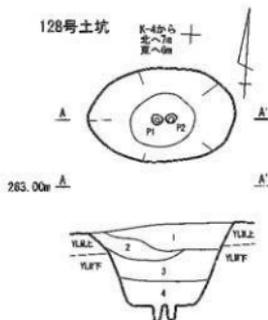


第36図 縄文時代 土坑実測図(24)



第37図 縄文時代 土坑突測図 (25)

128号土坑



128号土坑

- 10YR5/2 におい黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 10YR4/3 灰黄褐色土 2よりやや細かい粒。締まりなし、粘性なし、VLの小ブロックを少量含む。
- 10YR4/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし、VL.R, VLの小ブロックを少量含む。

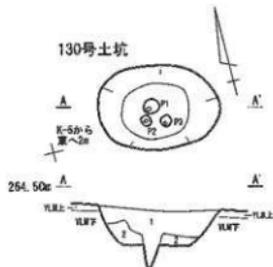
130号土坑

- 10YR4/2 締灰黄褐色 締まり小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。
- 7.5YR4/4 褐色土 VL.Rのブロックを多く含む。締まりなし、粘性なし。

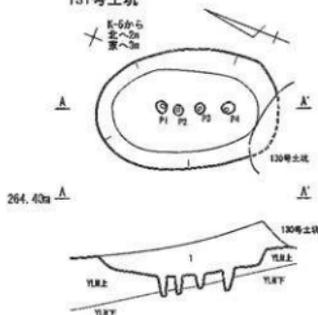
131号土坑

- 10YR4/2 締灰黄褐色 締まり小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。

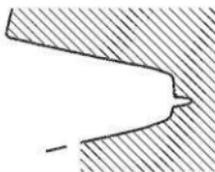
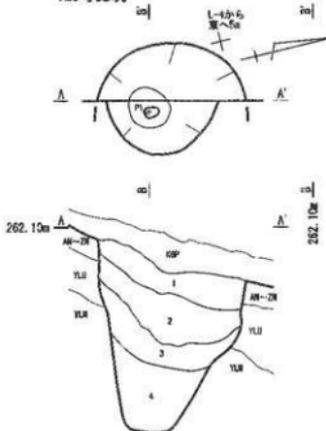
130号土坑



131号土坑



129号土坑



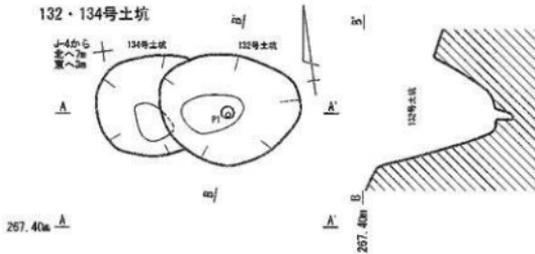
129号土坑

- 10YR4/2 締灰黄褐色 締まり小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリア、R.P.を少量含む。
- 10YR5/2 におい黄褐色 締まり小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリア、AR-ZRの小ブロック、VL.Rの小ブロックを少量含む。
- 10YR5/4 におい黄褐色 締まり小、粘性中、径0.1~0.2cmの褐色スコリア、径0.1~0.2cmの暗灰色スコリア、VL.Rの小ブロック、VL.Rの小ブロックを少量含む。
- 10YR4/4 褐色土 締まり小、粘性なし、VL.Rの小ブロックを少量含む。

0 (1:40) 1m

第38図 縄文時代 土坑実測図(26)

132・134号土坑



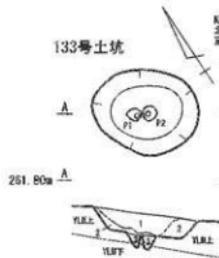
132号土坑

1. 107R/2 褐色黄褐色 粘まり小、粘性中、径0.1~0.2cmの棕色スコリア、径0.1~0.2cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 7.37R/4 褐色土 YL.Mのブロック。
3. 107R/2 褐色黄褐色 粘まりなし、粘性中、径0.1~0.5cmの棕色スコリア、径0.1~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
4. 7.37R/4 褐色土 粘まりなし、粘性中、YL.M, YL.Lのブロックを多量に含む。

134号土坑

1. 107R/3 灰黄褐色土 粘まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの棕色スコリア、径0.3~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 107R/2 灰黄褐色土 粘まり小、粘性なし、径0.1~0.3cmの棕色スコリア、径0.3~0.5cmの緑灰色スコリア、YL.Lのブロックを少量含む。
3. 107R/2 灰黄褐色土 粘まり小、粘性なし、YL.Lの磨砕土が少量に入る。

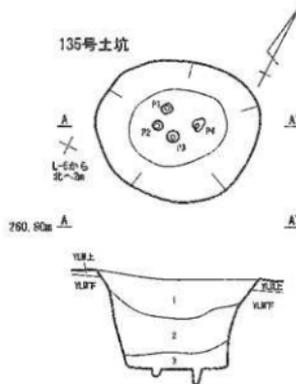
133号土坑



133号土坑

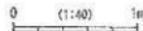
1. 107R/2 灰黄褐色土 粘まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの棕色スコリア、径0.3~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 107R/2 灰黄褐色土 粘まりなし、粘性なし、径0.1~0.3cmの棕色スコリア、径0.3~0.5cmの緑灰色スコリア、YL.Lのブロックを少量含む。
3. 107R/2 灰黄褐色土 粘まり小、粘性小、径0.1~0.3cmの棕色スコリア、径0.3~0.5cmの緑灰色スコリア、YL.Lのブロックを少量含む。

135号土坑

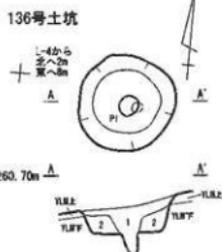


135号土坑

1. 107R/4 褐色土 粘まり小、粘性中、径0.1~0.5cmの棕色スコリア、径0.1~0.2cmの緑灰色スコリアを少量含む。
2. 107R/4 褐色土 粘まり小、粘性中、径0.1~0.5cmの棕色スコリア、径0.1~0.5cmの緑灰色スコリアを少量含む。
3. 107R/4 褐色土 粘まり小、粘性なし、YL.Lの小ブロックを多量に含む。

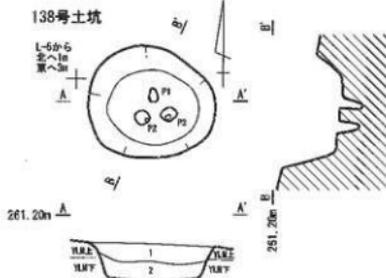


第39図 縄文時代 土坑突測図 (27)



135号土坑

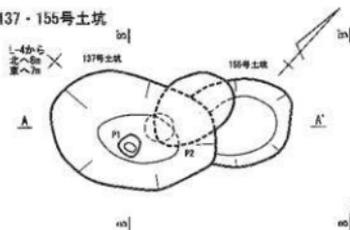
1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.3~0.5mmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR/5 褐色土 締まり小、粘性なし、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.2mmの暗灰色スコリアを少量含む。



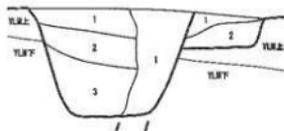
138号土坑

1. 10YR5/3 に近い黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.2mmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR5/3 に近い黄褐色土 1よりやや細かい色調、締まり小、粘性中、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.2mmの暗灰色スコリアを少量含む。

137・155号土坑



258.00m



258.00m

137号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.3~0.5mmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.3~0.5mmの暗灰色スコリア、丸のブロックを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性小、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.3~0.5mmの暗灰色スコリア、丸のブロックを少量含む。

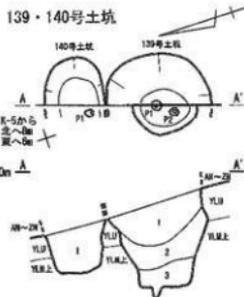
P2

1. 10YR4/4 褐色土 締まり小、粘性あり、丸のブロックと細~厚土が散在に入る。
- *P2については、137・155号土坑が埋没してから掘られたもので、円柱状の構方を呈する、意匠に対して創めに入る。性格は不明である。

155号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.3~0.5mmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.3mmの暗灰色スコリアを少量含む。

139・140号土坑



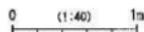
262.80m

139号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.3mmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 1よりやや細かい色調、締まり小、粘性なし、径0.3~0.5mmの褐色スコリア、径0.3~0.5mmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性なし、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.3~0.5mmの暗灰色スコリアを少量含む。

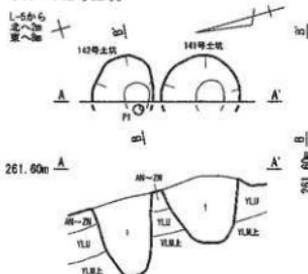
140号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3mmの褐色スコリア、径0.1~0.3mmの暗灰色スコリアを少量含む。



第40図 縄文時代 土坑突測図 (28)

141・142号土坑



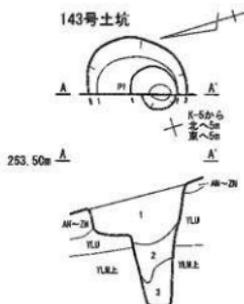
141号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1～0.3cmの緑色スコリア。
径0.1～0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。

142号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1～0.3cmの緑色スコリア。
径0.1～0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。

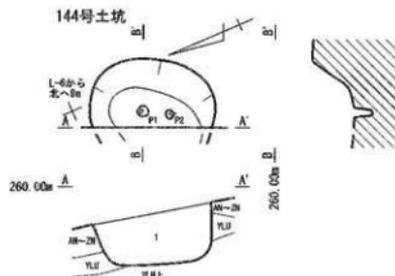
143号土坑



143号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1～0.2cmの緑色スコリア。
径0.1～0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性小。径0.1～0.2cmの緑色スコリア。
径0.1～0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中。径0.1～0.3cmの緑色スコリア。
径0.1～0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。

144号土坑



144号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色土 締まり小、粘性小。径0.1～0.2cmの緑色スコリア。
径0.1～0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。

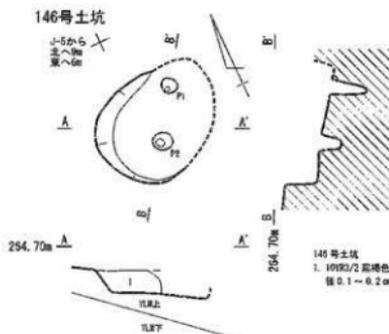
145号土坑



145号土坑

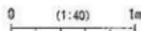
1. 10YR2/2 黒褐色土 締まり小、粘性小。径0.1～0.2cmの緑色スコリア。
径0.1～0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 7.5YR4/4 褐色土 締まり小、粘性小。1L.U.の小ブロックを多く含む。

146号土坑



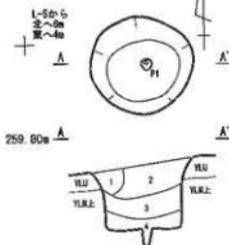
146号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色土 締まり小、粘性小。径0.1～0.2cmの緑色スコリア。
径0.1～0.2cmの暗灰色スコリアを少量含む。



第41図 縄文時代 土坑実測図 (29)

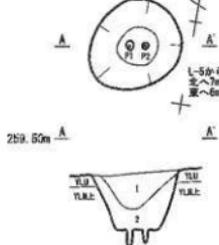
147号土坑



147号土坑

1. 1079A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 1079A/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中、崩~20の小ブロック土、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 1079A/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中、径0.2~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
4. 7.595/A に近い褐色土 締まりなし、粘性中、V.L.R. の小ブロックを少量含む。

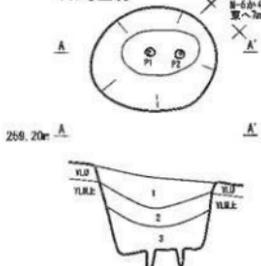
148号土坑



148号土坑

1. 1079A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 1079A/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。

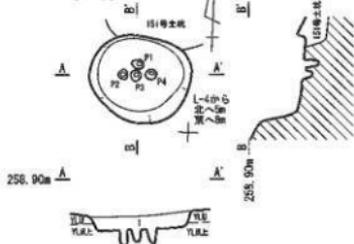
149号土坑



149号土坑

1. 1079A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 1079A/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
3. 1079A/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中、ボソボソの土、径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.1~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。

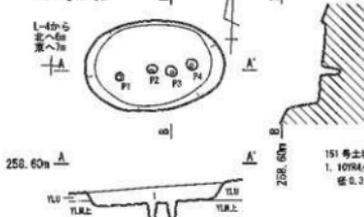
150号土坑



150号土坑

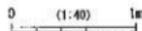
1. 1079A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。

151号土坑

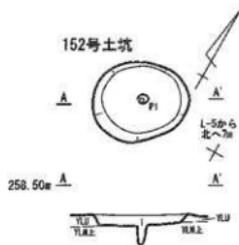


151号土坑

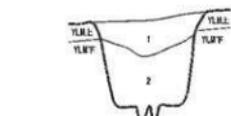
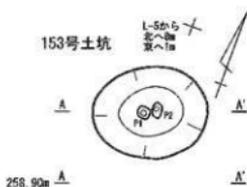
1. 1079A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。



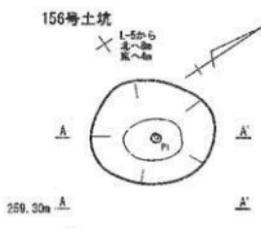
第42図 縄文時代 土坑実測図 (30)



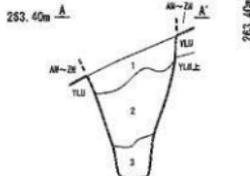
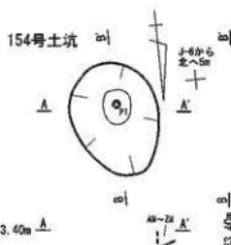
- 152号土坑
1. 1099A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。



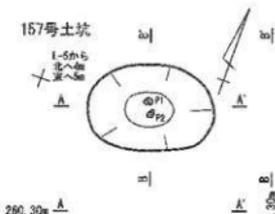
- 153号土坑
1. 1099A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。YLMのブロックを少量含む。
 2. 1099A/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし。ボロボロの土、YLMの小ブロックを多量に含む。



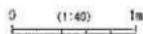
- 156号土坑
1. 1099A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
 2. 1099A/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.1~0.3cmの暗灰色スコリアを少量含む。
 3. 1099A/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし。ボロボロの土。径0.1~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。



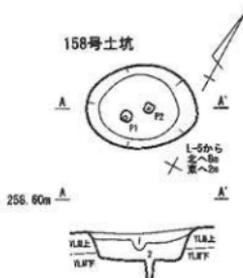
- 154号土坑
1. 1099A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
 2. 1099A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
 3. 1099A/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし。ボロボロの土、YLMの小ブロックを多量に含む。



- 157号土坑
1. 1099A/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中。径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。
 2. 1099A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性なし。径0.3~0.5cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。

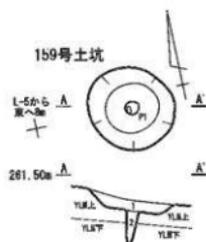


第43図 縄文時代 土坑実測図 (31)



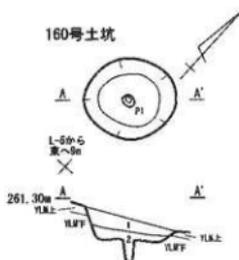
158号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア、YLRの小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 締まりなし、粘性なし、YLRの小ブロックを多量に含む。



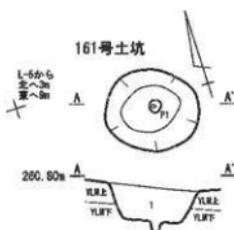
159号土坑

1. 10YR4/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア、YLRの小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし、ボロボロの土、YLRの小ブロックを多量に含む。



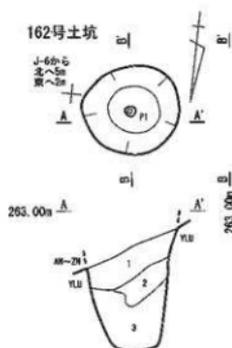
160号土坑

1. 10YR4/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリア、YLRの小ブロックを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし、ボロボロの土、YLRの小ブロックを多量に含む。



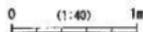
161号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし、ボロボロの土、YLRの小ブロックを多量に含む。

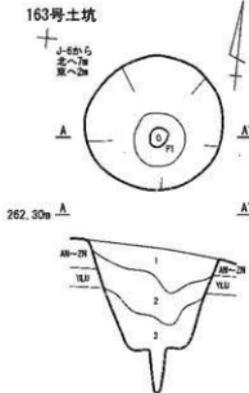


162号土坑

1. 10YR4/1 褐色土 締まり小、粘性小、中~2mの小ブロックを含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性あり、YLRの小ブロックを多量に含む。
3. 10YR4/1 褐色土 締まり小、粘性中、径0.1~0.3cmの褐色スコリア、径0.3~0.5cmの暗灰色スコリアを少量含む。



第44図 縄文時代 土坑実測図 (32)

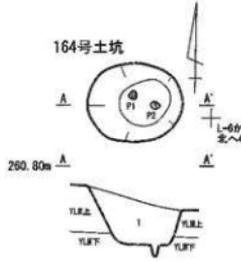


163号土坑

1. 1079A/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし、ボロボロの土。丸土の小ブロックを多量に含む。
2. 1079A/2 に近い黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1~0.3cm の褐色スコリア、径 0.3~0.5cm の暗褐色スコリアを少量含む。
3. 1079A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1~0.3cm の暗色スコリア、径 0.3~0.5cm の暗褐色スコリア、丸土・丸土の小ブロックを少量含む。

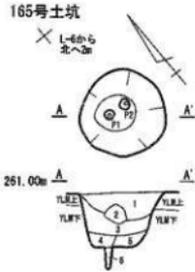
164号土坑

1. 1079A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、径 0.1~0.3cm の暗色スコリア、径 0.3~0.5cm の暗褐色スコリア、丸土の小ブロックを少量含む。



164号土坑

260.80m

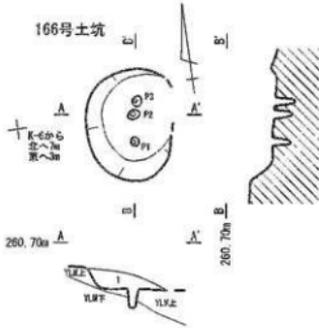


165号土坑

261.00m

165号土坑

1. 1079A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、丸土が主体で、わずかに丸土が混じる。
2. 丸土のブロック。
3. 1079A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性なし、丸土が主体で、わずかに丸土が混じる。
4. 1079A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性なし、丸土が主体で暗色スコリア、暗褐色スコリアの量が多い。
5. 丸土下のブロック。
6. 1079A/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし、丸土が主体で、わずかに丸土が混じる。

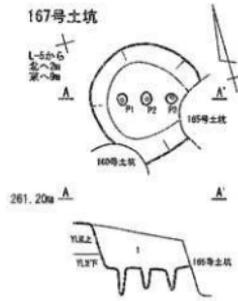


166号土坑

260.70m

166号土坑

1. 1079A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性なし、丸土のブロックを多く含む。

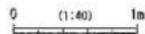


167号土坑

261.20m

167号土坑

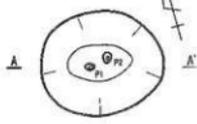
1. 1079A/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、丸土が主体で、わずかに丸土が混じる。



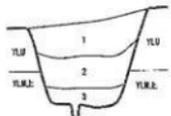
第45図 縄文時代 土坑実測図 (33)

168号土坑

①
L-4から
北へ2m
東へ5m



281.00m A

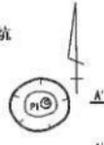


168号土坑

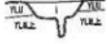
1. 10YR4/3 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、厚0.1~0.3mの緑色スコリア、径0.3~0.5mmの暗灰色スコリアを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まりなし、粘性中、厚0.1~0.5mの緑色スコリア、YLRの小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/3 灰黄褐色土 締まりなし、粘性なし、厚0.1~0.5mの緑色スコリア、YLRの小ブロックを少量含む。

169号土坑

①
L-5から
北へ2m
東へ5m



259.90m A

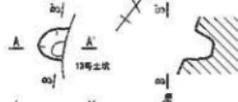


169号土坑

1. 10YR4/1 褐色土 締まり小、粘性中、厚0.2mのブロックを少量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 締まり小、粘性中、厚0.2mの緑色スコリアを含む。

2号ピット

①
O-4から
北へ2m
東へ6m



249.50m A

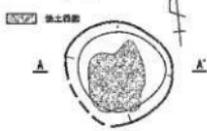


2号ピット

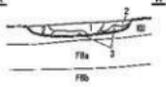
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色土 締まり小、粘性中、厚0.2mの緑色スコリアを含む。

1号焼土遺構

①
G-4から
北へ2m
東へ14m



278.20m A

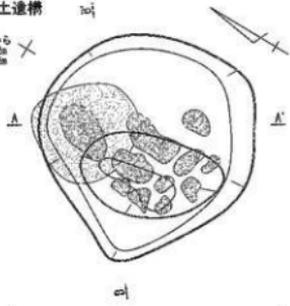


1号焼土遺構

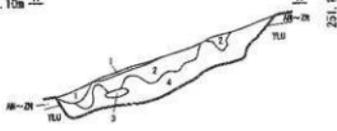
1. 7.5YR3/2 黒褐色土 締まり小、粘性あり、焼土ブロックと黒色土の混合。
2. 10YR3/1 黒褐色土 締まり小、粘性あり、緑層上に少量の焼土、炭化物を含む。
3. 7.5YR3/4 暗褐色土 締まり小、粘性なし、M層上に少量の焼土、炭化物を含む。

2号焼土遺構

①
G-4から
北へ2m
東へ5m



251.10m A



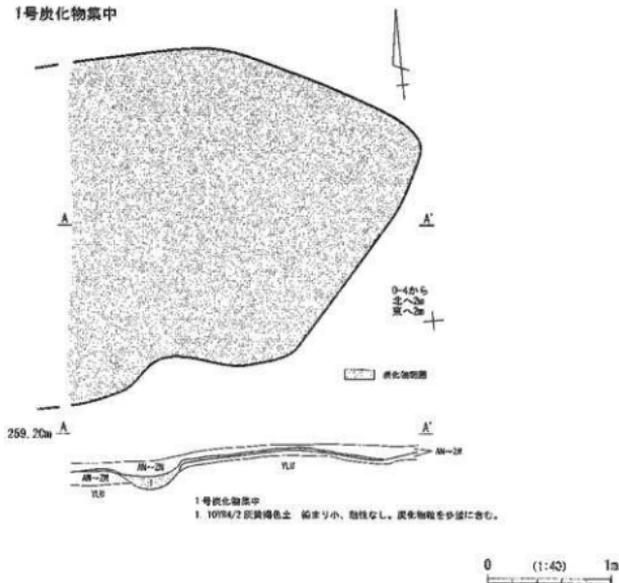
2号焼土遺構

1. 10YR3/1 黒褐色土 締まり小、粘性あり、M層上に少量の焼土、炭化物を含む。
2. 5YR3/6 暗赤褐色土 焼土 締まり小、粘性あり。
3. 炭化物ブロック。
4. 7.5YR3/4 暗褐色土 締まり小、粘性なし、焼土の焼土、炭化物を含む。

●●●●●● 焼土遺構
■■■■■■ 炭化物集中

0 (1:40) 1m

第46図 縄文時代 土坑実測図(34)・焼土遺構・ピット実測図



第 47 図 縄文時代 炭化物集中実測図

表 5-1 遺構計測表 (焼土遺構)

調査番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形状	主軸方位	新田照標	最大長 (m)	最大幅 (m)	最大深 (m)
46	1号	C-4	Ⅱ	狭円形	なし	なし	0.88	0.52	0.14
46	2号	D-1	ⅡB~Ⅱ	不整形円形	なし	2号ピット・13号土坑より狭	1.86	1.76	0.27

表 5-2 遺構計測表 (炭化物集中)

調査番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形状	主軸方位	新田照標	最大長 (m)	最大幅 (m)	最大深 (m)
47	1号	O-3-4	ⅡB~Ⅱ	不整形円形	なし	東照	(3.00)	2.70	0.07

表 5-3 遺構計測表 (ピット)

調査番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形状	主軸方位	新田照標	最大長 (m)	最大幅 (m)	最大深 (m)
46	2号	O-4	ⅡB下	円形	なし	13号土坑より西	0.25	(0.21)	0.22

表5-4 道標計測表(土坑①)

国道路番号	道標位置	グリッド	抽出位置	平面形状	土盤形状	新旧関係	最大径				P径	深さ											
							(a)	(b)	(c)	(d)													
							上																
							下																
13	2号	D-2	RJ	円形	なし	なし	0.81	0.73	0.61	0.51	0.39												
13	3号	D-3	RJ	長楕円形	北北東	なし	1.28	0.70	1.21	0.58	0.29												
13	4号	E-3	F9D	楕円形	西北西	なし	0.84	0.66	0.51	0.44	1.20												
13	5号	E-4	YL	円形	なし	なし	1.65	1.48	0.70	0.48	1.24												
13	6号	F-3	SC1	長楕円形	西北西	なし	1.07	0.55	0.89	0.44	0.41	0.15×0.14	0.25	0.20×0.14	0.28	0.18×0.14	0.24						
14	7号	A-7	YLR下	楕円形	北北東	なし	0.94	0.73	0.64	0.58	0.30												
14	8号	A-3	ZH	楕円形	西北西	なし	(1.02)	0.70	0.28	0.25	1.57	0.18×0.17	0.16										
14	10号	D-8	MR-2H	楕円形	西北西	なし	0.88	0.63	0.78	0.49	0.34												
14	11号	M-3	YLR上	楕円形	北北西	なし	0.77	0.54	0.59	0.42	0.20												
15	12号	M-4	YLR上	円形	なし	なし	0.76	0.58	0.29	0.28	0.60	0.08×0.06	0.15										
15	13号	D-4	YLR上	円形	なし	2号Cより更新 2号機土遺物より り古	1.13	0.98	0.80	0.48	0.52												
15	14号	M-3-D-3	MR-2H	楕円形	西北西	なし	(0.98)	0.77	0.35	0.30	1.08	0.08×0.07	0.15										
15	15号	M-3	YLR上	楕円形	東西	なし	0.96	0.68	0.75	0.43	0.40												
15	16号	D-3-4	YLR上	楕円形	北北東	なし	1.30	0.69	1.15	0.75	0.40	0.25×0.17	0.36	C 20×0.17	0.38								
16	17号	D-4	YLR上	円形	なし	16号土坑より古	(0.47)	1.08	0.68	0.24	0.28												
16	18号	D-4	YLR上	円形	なし	17号土坑より新	1.03	0.91	0.40	0.40	1.05	0.08×0.07	0.14										
16	18号	D-4	YLR上	楕円形	北北東	なし	1.05	0.85	0.94	0.69	0.33												
16	20号	D-3	MR-2H	円形	なし	なし	0.70	(0.65)	0.41	0.27	0.70	0.08×0.07	0.08										
17	21号	D-3	MR-2H	楕円形	西北西	なし	(1.12)	(1.07)	0.68	0.51	1.00	0.08×0.06	0.18										
17	22号	A-8	YLR下	長楕円形	北北東	なし	1.35	0.71	1.28	0.60	0.28	0.13×0.13	0.06	0.16×0.15	0.10	0.15×0.14	0.10	0.16×0.13	0.12				
17	23号	A-2	YL	円形	なし	なし	0.93	0.85	0.80	0.72	0.32												
17	24号	D-7	YL	楕円形	東西	なし	1.05	0.78	1.00	0.65	0.19												
17	25号	F-8	YL	長楕円形	西北西	なし	0.93	0.53	0.80	0.45	0.29												
18	26号	D-5	MR-2H	円形	なし	なし	(0.77)	1.38	(0.48)	0.59	0.60												
18	27号	F-4	YLR上	長楕円形	北北東	なし	1.28	0.78	1.08	0.59	0.55	0.18×0.16	0.27	0.20×0.18	0.33	0.17×0.17	0.35						
18	28号	F-4	MR-2H	円形	なし	なし	0.63	(0.65)	0.34	0.26	0.64	0.12×0.06	0.10										
18	29号	F-4	MR-2H	円形	なし	なし	(0.74)	0.65	0.41	0.35	0.72	0.11×0.08	0.09	0.10×0.08	0.06								
18	30号	F-4	MR-2H	楕円形	西北西	なし	(1.13)	0.82	0.85	0.58	0.60	0.17×0.15	0.22										
19	31号	F-4	YLR上	長楕円形	北北東	なし	1.13	0.68	0.91	0.49	0.38	0.13×0.13	0.12	0.11×0.11	0.15	0.12×0.06	0.16	0.13×0.10	0.14	0.09×0.09	0.16	0.28×0.23	0.23
19	32号	F-4	YLR上	円形	なし	なし	1.04	1.00	0.54	0.43	1.15	0.10×0.07	0.16										
19	35号	F-4	YLR上	長楕円形	北北東	なし	1.05	0.65	0.55	0.35	0.58	0.08×0.07	0.14	0.07×0.07	0.12	0.07×0.07	0.12	0.07×0.05	0.06	0.07×0.06	0.14		
19	34号	F-8	YL	円形	なし	なし	0.85	0.80	0.75	0.70	0.29												
20	35号	D-5	YLR上	楕円形	北北東	なし	1.77	1.20	0.80	0.70	1.00	0.11×0.10	0.17	0.10×0.07	0.16	0.12×0.11	0.2	0.15×0.14	0.16	0.07×0.07	0.10		
20	36号	D-5	YLR上	楕円形	北北東	なし	0.95	0.72	0.65	0.48	0.77	0.12×0.10	0.17	0.16×0.15	0.25								
20	37号	D-5	MR-2H	円形	なし	なし	0.88	(0.82)	0.50	0.31	0.70	0.10×0.08	0.11	0.10×0.07	0.10								
20	38号	D-4	YLR上	長楕円形	北北東	なし	1.17	0.85	0.88	0.48	0.47	0.08×0.07	0.09	0.09×0.06	0.09	0.08×0.07	0.09	0.09×0.06	0.13				
20	39号	M-3-4	YLR上	楕円形	北北東	なし	0.67	0.55	0.50	0.46	0.25	0.13×0.13	0.17	0.17×0.14	0.16	0.21×0.14	0.16	0.11×0.07	0.09	0.16×0.13	0.13		
21	40号	M-4	YLR上	円形	なし	なし	0.76	0.72	0.48	0.43	1.61	0.16×0.13	0.23										
21	41号	M-4	YLR上	円形	なし	なし	0.81	0.78	0.45	0.40	1.10												

表5-4 遺構計測表(土坑②)

図面番号	遺構番号	グリッド	検出部位	平面形状	主軸方位	新旧関係	最大径(m)				最大深(m)	P1値	深さ	P2値	深さ	P3値	深さ	P4値	深さ	P5値	深さ	P6値	深さ	P7値	深さ
							上	下	上	下															
21	42号	H-3	AN~2N	円形	なし	なし	(1.00)	0.73	0.95	0.40	0.97	0.18×0.13	0.27	0.15×0.13	0.23										
21	42号	H-4	AN~2N	円形	なし	なし	(0.85)	(0.41)	0.32	(0.17)	0.71	0.10×0.08	0.21												
22	44号	H-4	AN~2N	円形	なし	なし	(0.50)	0.70	(0.30)	0.32	0.78	0.15×0.05	0.20												
22	45号	H-4	AN~2N	円形	なし	なし	0.96	(0.50)	0.75	(0.38)	0.43	0.13×(0.03)	0.34												
22	46号	H-3	AN~2N	円形	なし	なし	0.81	(0.44)	0.46	(0.25)	0.43	0.11×(0.05)	0.12												
22	47号	H-3	KOP	長楕円形	西北西	なし	1.15	(0.58)	1.02	(0.56)	0.34	0.12×0.09	0.32	0.15×(0.13)	0.40										
22	48号	H-4	YR上	円形	なし	なし	0.67	0.65	0.45	0.32	0.47	0.07×0.07	0.08	0.07×0.06	0.12	0.09×0.07	0.07	0.07×0.06	0.10						
23	49号	H-4	YR上	円形	なし	なし	0.70	0.65	0.55	0.48	0.49														
23	50号	H-4	AN~2N	円形	なし	なし	(1.00)	0.95	0.42	0.35	1.78	0.09×0.08	0.20												
23	51号	H-4	YR上	長楕円形	東北東	なし	0.87	0.57	0.71	0.38	0.25	0.12×0.12	0.10	0.10×0.09	0.11	0.13×0.12	0.17	0.13×0.12	0.12						
23	52号	H-4	YR上	楕円形	北北西	53号土坑より新	0.80	0.60	0.95	0.40	0.32	0.14×0.14	0.15	0.17×0.13	0.13										
23	53号	H-4	YR上	楕円形	北北西	52号土坑より古	(0.44)	0.81	(0.40)	0.29	0.30	0.12×(0.10)	0.08	0.13×0.13	0.28										
24	54号	L-4, H-4	AN~2N	円形	なし	なし	0.72	(0.95)	0.38	0.35	0.45	0.06×0.06	0.14												
24	55号	H-4	AN~2N	楕円形	西北西	なし	1.04	(0.78)	0.81	0.55	0.88	0.06×0.07	0.14	0.06×0.06	0.12	0.07×0.06	0.12	0.06×0.06	0.13						
24	56号	H-4	KOP	楕円形	北北西	なし	0.73	(0.30)	0.40	(0.15)	0.83	0.07×(0.03)	0.06												
24	57号	H-4	KOP	円形	なし	なし	(0.90)	(0.82)	0.68	0.68	1.05														
24	58号	H-4	AN~2N	楕円形	東北東	60号土坑より新	0.52	(0.57)	0.60	0.42	0.60	0.13×0.11	0.10	0.15×0.13	0.11	0.13×0.12	0.23	0.14×0.14	0.25						
25	59号	H-5	AN~2N	円形	なし	なし	0.92	(0.82)	0.64	0.45	1.38	0.10×0.10	0.11	0.09×0.06	0.12	0.10×0.06	0.09	0.14×0.13	0.14	0.13×0.09	0.15				
24	60号	H-4	AN~2N	楕円形	東北東	119号土坑より新 50号土坑より古	(0.90)	(0.58)	0.65	0.38	0.89	0.08×0.22	0.68	0.13×0.12	0.15	0.15×0.12	0.14								
25	61号	H-5	YR上	長楕円形	南東	72-74号土坑より新	1.20	0.80	0.50	0.49	0.80	0.10×0.09	0.18	0.12×0.11	0.21										
24	62号	H-6, 0-5	YR上	楕円形	東北東	なし	0.82	0.63	0.66	0.45	0.66	0.12×0.11	0.13	0.11×0.08	0.14										
25	63号	H-5	YR上	楕円形	東北東	なし	1.23	0.93	0.78	0.65	0.69	0.47×0.45	0.30	0.15×0.13	0.16										
25	64号	H-4	YR上	楕円形	東北東	なし	1.00	0.67	0.90	0.57	0.14	0.11×0.08	0.16	0.13×0.13	0.18	0.33×0.25	0.14	0.13×0.12	0.08						
26	65号	0-5	YR上	長楕円形	東北東	なし	1.35	0.87	1.15	0.66	0.60	0.13×0.13	0.22	0.09×0.08	0.10										
28	66号	H-4, 0-4	YR上	長楕円形	北北東	なし	0.97	0.61	0.78	0.51	0.18	0.12×0.10	0.14	0.14×0.12	0.18	0.12×0.10	0.12	0.16×0.15	0.16	0.12×0.12	0.12	0.09×0.07	0.10	0.17×0.12	0.18
28	67号	0-5	YR上	長楕円形	東北東	なし	1.28	0.78	0.98	0.45	1.08	0.21×0.17	0.25	0.17×0.14	0.27	0.15×0.12	0.24								
28	68号	0-5	YR上	円形	北東	なし	1.06	0.92	0.91	0.50	0.54	0.17×0.14	0.10	0.12×0.11	0.27										
25	69号	H-5	AN~2N	円形	なし	なし	(1.13)	(0.98)	0.65	0.48	1.32	0.06×0.06	0.13	0.06×0.07	0.10	0.06×0.07	0.09								
27	70号	0-5	YR上	円形	なし	なし	(1.29)	1.13	0.92	0.72	0.70	0.08×0.07	0.18	0.12×0.11	0.18	0.09×0.06	0.12								
27	71号	0-5	YR上	円形	なし	なし	(1.09)	1.06	0.86	0.65	0.72	0.09×0.08	0.07	0.19×0.08	0.15	0.10×0.06	0.21								
28	72号	H-5	YR上	楕円形	不明	73号土坑より新 50-51号土坑より古	(1.40)	(0.80)	(0.70)	(0.50)	0.93	0.06×0.06	0.15	0.07×0.06	0.11										
25	73号	H-5	YR上	楕円形	不明	73号土坑より古	(0.78)	(0.68)	(0.48)	(0.30)	0.75	0.15×0.10	0.09												

表5-4 遺構計測表(土坑③)

国土地 番号	遺構 番号	グリッド	出土 部位	平面 形状	主軸 方位	新旧関係	最大長				P1径	深さ	P2径		P3径	高さ	P4径	深さ	P5径	深さ	P6径	深さ		
							(m)	(m)	(m)	(m)			(m)	(m)									(m)	(m)
							上																	
							下																	
25	74号	K-5	Y.東上	溝内形	不明	59-61-69号土坑より古	(1.60)	(1.03)	(1.03)	(0.73)	0.79	0.13×0.12	0.13	0.13×0.10	0.17									
27	75号	D-5	Y.東上	溝内形	北北西	なし	1.10	0.88	0.65	0.49	0.76	0.06×0.09	0.10	0.09×0.07	0.14									
27	76号	D-5	Y.東上	方形	なし	なし	1.14	1.11	0.80	0.80	0.74	0.11×0.10	0.21	0.13×0.13	0.13									
27	77号	D-5	AH-ZH	円形	なし	なし	0.95	(0.50)	0.84	(0.33)	0.51	0.10×0.08	0.33											
28	78号	D-6	AH-ZH	円形	なし	なし	0.85	(0.53)	0.50	(0.35)	0.64	0.03×0.06	0.07	0.06×0.05	0.11	0.05×0.05	0.12							
28	79号	D-4	AH-ZH	円形	なし	なし	1.05	(0.58)	0.49	(0.38)	0.55	0.18×(0.15)	0.34											
28	80号	D-4	AH-ZH	溝内形	東北東	なし	0.69	(0.47)	(0.30)	0.29	0.68	0.12×0.11	0.22											
28	81号	D-2-D-4	AH-ZH	溝内形	不明	なし	0.70	(0.47)	0.40	(0.16)	0.70	0.08×(0.03)	0.13											
29	82号	R-3-4	AH-ZH	円形	なし	なし	(1.22)	(1.15)	0.41	0.29	2.20													
29	83号	C-4	Y.東上	円形	なし	なし	0.53	0.84	0.50	0.45	0.33	0.11×0.06	0.10	0.07×0.06	0.09	0.07×0.06	0.10	0.11×0.11	0.12					
29	84号	D-4	Y.東上	溝内形	北北東	なし	1.10	0.87	0.80	0.44	1.47	0.08×0.07	0.10	0.07×0.07	0.11	0.08×0.06	0.10							
29	85号	R-4	Y.東上	円形	なし	なし	0.75	0.69	0.45	0.42	0.75	0.06×0.06	0.12	0.08×0.06	0.14									
29	86号	B-5	KSP	溝内形	不明	なし	(0.84)	(0.35)	0.34	(0.25)	1.33	(0.36)×0.11	0.10											
30	87号	B-5	AH-ZH	溝内形	不明	なし	1.15	(0.46)	0.58	(0.28)	0.87	0.19×(0.07)	0.12	0.10×0.10	0.15									
30	88号	B-4	Y.東上	円形	なし	なし	0.86	0.72	0.65	0.50	0.36	0.10×0.10	0.19	0.08×0.06	0.14									
30	89号	B-5	Y.東上	溝内形	北北東	なし	0.69	0.52	0.30	(0.26)	0.48	0.09×0.06	0.10	(0.15)×0.20	0.40									
30	90号	A-5	Y.東上	円形	なし	なし	0.65	0.58	0.52	0.51	0.15	0.08×0.05	0.12	0.06×0.06	0.07	0.07×0.06	0.10							
30	91号	B-5	Y.東上	溝内形	北北東	なし	0.60	0.48	0.50	0.35	0.16	0.09×0.06	0.12	0.08×0.06	0.16	0.08×0.06	0.14	0.07×0.07	0.12					
30	92号	B-5	Y.東上	溝内形	北北東	なし	0.96	0.60	0.80	0.45	0.33	0.11×(0.10)	0.23	0.10×0.06	0.17	0.10×0.09	0.22							
31	93号	B-5	Y.東上	溝内形	北北東	なし	1.05	0.67	0.90	0.55	0.28	0.13×0.11	0.23	0.10×0.10	0.20	0.10×0.09	0.18	0.09×0.08	0.15	0.09×0.09	0.16			
31	94号	B-5	Y.東上	円形	なし	なし	0.73	0.65	0.59	0.49	0.40	0.09×0.08	0.13	0.10×0.07	0.14	0.13×0.11	0.14							
31	95号	D-5	Y.東上	円形	なし	なし	1.23	1.11	0.79	0.55	0.70													
31	96号	D-5-6	Y.東上	円形	なし	なし	0.95	0.95	0.55	0.49	0.53	0.13×0.11	0.14	0.14×0.12	0.13									
31	97号	D-5, D-5	Y.東上	溝内形	東北東	なし	1.03	0.76	0.80	0.52	0.32	0.09×0.06	0.14											
32	98号	R-5	Y.東上	円形	なし	なし	0.94	0.94	0.50	0.45	0.89	0.10×0.06	0.16	0.10×0.07	0.11									
32	99号	R-6	AH-ZH	点検溝跡	南北	なし	(1.30)	0.80	0.75	0.43	1.43													
32	100号	D-6	Y.東上	円形	なし	なし	0.64	0.56	0.48	0.35	0.57	0.07×0.06	0.11	0.07×0.06	0.15									
32	101号	C-6	Y.東上	溝内形	西北西	なし	1.25	0.86	1.00	0.65	0.50	0.06×0.06	0.08	0.10×0.08	0.11	0.08×0.07	0.15	0.07×0.05	0.17					
32	102号	L-6	KSP	円形	なし	なし	0.85	(0.75)	0.30	0.25	1.18	0.06×0.05	0.13											
33	103号	L-5, B-5	AH-ZH	溝内形	東北東	104-109号土坑より古	1.50	(1.15)	0.50	0.33	1.82	0.10×0.07	0.15	0.10×0.10	0.19									
33	104号	B-5	Y.東上	円形	なし	109号土坑より新 103号土坑より古	0.80	(0.55)	0.39	(0.36)	0.72	0.07×0.07	0.10	0.07×0.06	0.20									
33	105号	B-5	Y.東上	溝内形	東北東	なし	1.07	0.83	0.70	0.45	0.84	0.07×0.07	0.12	0.07×0.06	0.20									
33	106号	B-5	Y.東上	溝内形	東北東	なし	0.48	0.35	0.32	0.30	0.20													
33	107号	B-5	Y.東上	溝内形	東北東	なし	1.08	0.81	0.50	0.28	0.55													
34	108号	B-5	Y.東上	円形	なし	なし	0.77	0.73	0.52	0.50	0.35	0.12×0.08	0.15	0.10×0.09	0.18									
34	109号	B-5	AH-ZH	円形	なし	103-104号土坑より古	(1.50)	1.36	0.50	0.42	1.27	0.13×0.13	0.17											

表5-4 遺構計測表(土坑④)

調査 番号	グリッド	出土 位置	平面 形状	主要 方位	新田調査 番号	最大径 (m)		最大幅 (m)		最大深 (m)	P1径	深さ	P2径	深さ	P3径	深さ	P4径	深さ	P5径	深さ	P6径	深さ	P7径	深さ		
						上	下	上	下																	
34	110号	R-4	丸型	内形	なし	80号土坑より西	(0.92)	0.75	(0.85)	0.53	0.25	0.10×0.07	0.12	0.07×0.09	0.13	0.17×0.12	0.15	0.15×0.13	0.17							
34	111号	R-6	丸型	長楕円形	西北西	112号土坑より 新	1.14	0.65	0.90	0.48	0.38	0.10×0.10	0.08	0.12×0.11	0.10	0.08×0.05	0.08									
35	112号	R-6	楕円形	内形	なし	111号土坑より 西	(0.90)	(0.84)	0.39	0.29	1.25	0.07×0.05	0.14	0.09×0.07	0.14											
34	113号	R-7	楕円形	長楕円形	北北東	なし	(0.70)	(0.50)	0.54	0.25	1.03	0.13×0.12	0.15	0.09×0.08	0.28											
35	114号	R-7	楕円形	内形	東西	119号土坑より 新 115号土坑 より西	(1.15)	(0.75)	0.65	0.39	0.84	0.15×0.13	0.21	0.09×0.08	0.15	0.10×0.10	0.22									
35	115号	R-7	楕円形	長楕円形	北北西	114・119号土坑 より新	(1.10)	(0.65)	0.75	0.49	0.73	0.08×0.08	0.15	0.08×0.07	0.13	0.08×0.07	0.13	0.09×0.07	0.15							
36	116号	R-5	丸型	内形	なし	なし	0.68	0.64	0.41	0.23	0.63	0.11×0.08	0.14													
35	117号	O-6	丸型	内形	なし	なし	1.30	1.14	0.61	0.50	0.82	0.17×0.15	0.31													
36	118号	O-7	丸型	長楕円形	不明	なし	(0.21)	(1.00)	(0.85)	(0.75)	0.67	0.08×0.06	0.20	0.08×0.08	0.14	0.08×0.07	0.18									
35	119号	R-7	丸型	楕円形	不明	120号土坑より 新 114・115号 土坑より西	(1.05)	(0.97)	0.38	0.25	0.63	0.09×0.07	0.19													
35	120号	R-7	楕円形	内形	なし	119号土坑より 西	(1.06)	(0.95)	0.59	0.17	0.89															
36	121号	J-4	楕円形	内形	なし	なし	(0.85)	0.60	0.39	0.33	0.85	0.10×0.08	0.10													
36	122号	J-4	丸型	楕円形	北北東	なし	1.00	0.80	0.68	0.45	0.25	0.15×0.14	0.19	0.20×0.18	0.24											
37	123号	J-4	丸型	長楕円形	北北東	120号土坑より 新	1.20	0.72	0.84	0.50	0.89	0.11×0.08	0.21	0.11×0.10	0.19											
37	124号	J-4	丸型	長楕円形	西北西	122・134号土坑 より新	1.00	(0.50)	0.80	(0.30)	0.32	0.14×0.12	0.13	0.10×0.10	0.16											
37	126号	K-4	丸型	内形	なし	なし	0.65	0.68	0.60	0.55	0.58	0.09×0.08	0.15	0.12×0.10	0.15	0.13×0.11	0.13									
37	126号	J-4	丸型	内形	なし	120号土坑より 西	0.95	(0.82)	0.90	0.45	0.69	0.10×0.10	0.15													
37	127号	K-4	丸型	楕円形	北東	なし	1.10	0.82	0.48	0.21	1.04	0.10×0.08	0.12													
37	128号	K-4	丸型	楕円形	北北東	なし	1.20	0.77	0.80	0.45	0.85	0.06×0.06	0.15	0.03×0.07	0.13											
38	129号	K-4-L-4	楕円形	楕円形	北北東	なし	1.20	(0.90)	0.32	0.29	1.53	0.13×0.08	0.15													
38	130号	J-5-K-5	丸型	楕円形	西北西	131号土坑より 新	0.98	0.68	0.51	0.45	0.42	0.13×0.12	0.18	0.08×0.07	0.14	0.06×0.08	0.14									
38	131号	K-5	丸型	楕円形	北北東	130号土坑より 西	1.45	0.97	1.27	0.67	0.43	0.10×0.09	0.17	0.10×0.07	0.15	0.10×0.08	0.11	0.11×0.10	0.16							
38	132号	J-4	丸型	楕円形	西北西	124・134号土坑 より新	1.15	0.90	0.51	0.30	0.62	0.08×0.08	0.18													
38	133号	K-6-K	丸型	楕円形	北北東	なし	0.65	0.70	0.55	0.42	0.32	0.13×0.11	0.13	0.13×0.12	0.09											
38	134号	J-4	丸型	内形	なし	124号土坑より 新 132号土坑 より西	(0.94)	0.83	0.34	0.25	1.05															
38	135号	L-5	丸型	内形	なし	なし	1.33	1.18	0.80	0.58	0.97	0.08×0.06	0.10	0.08×0.07	0.08	0.10×0.09	0.08	0.10×0.09	0.14							

表5-4 遺構計測表(土坑⑤)

調査 番号	遺構 番号	グリッド	発出 方位	平面 形状	主軸 方位	新旧関係	最大長 (m)		最大幅 (m)		最大深 (m)	P1径	置き	P2径	置き	P3径	置き	P4径	置き	P5径	置き	P6径	置き
							上	下	左	右													
40	155号	L-4	YJ上	円形	なし	なし	0.81	0.77	0.55	0.50	0.43	0.15×0.15	0.28										
40	137号	L-4	YJ上	長楕円形	東北東	155号土坑より 新	1.37	0.90	0.67	0.39	1.07	0.18×0.17	0.18										
40	138号	L-5	YJ上	円形	なし	なし	1.03	0.90	0.74	0.60	0.49	0.10×0.07	0.19	0.13×0.12	0.17	0.13×0.13	0.16						
40	139号	K-5	AW-2W	円形	なし	なし	0.83	(0.65)	0.40	0.30	0.80	0.06×0.06	0.08	0.06×0.05	0.10								
40	140号	K-5	AW-2W	長楕円形	西北西	なし	(0.50)	0.48	(0.32)	0.21	0.48	0.06×0.06	0.15										
41	141号	L-5	AW-2W	円形	なし	なし	0.54	(0.26)	0.23	(0.17)	0.56												
41	142号	L-5	AW-2W	円形	なし	なし	(0.50)	0.50	0.30	(0.20)	0.68	0.08×0.08	0.25										
41	143号	K-5	AW-2W	円形	なし	なし	0.79	(0.60)	0.64	(0.45)	0.43	0.35×(0.37)	0.60										
41	144号	L-5-6	AW-2W	円形	なし	なし	1.00	(0.58)	0.68	(0.21)	0.61	0.10×0.09	0.15	0.08×0.07	0.15								
41	145号	J-5	YJ上	円形	なし	なし	0.82	0.75	0.50	0.50	0.28	0.16×0.14	0.18										
41	145号	J-5	YJ上	楕円形	東北東	なし	(1.06)	(0.83)	1.00	0.72	0.58	0.14×0.13	0.28	0.16×0.15	0.18								
42	147号	L-5	YJ	円形	なし	なし	0.83	0.80	0.58	0.49	0.68	0.09×0.09	0.15										
42	148号	L-5	YJ	円形	なし	なし	0.78	0.66	0.32	0.32	0.57	0.08×0.07	0.14	0.06×0.05	0.12								
42	149号	L-5	YJ	楕円形	東北東	なし	1.02	0.85	0.62	0.35	0.78	0.08×0.07	0.15	0.08×0.07	0.14								
42	150号	L-4	YJ	円形	なし	151号土坑より 新	0.81	0.73	0.70	0.60	0.39	0.10×0.08	0.12	0.08×0.08	0.14	0.08×0.08	0.10	0.10×0.09	0.13				
42	151号	L-4	YJ	長楕円形	東北東	150号土坑より 新	1.12	0.74	0.84	0.65	0.30	0.06×0.07	0.15	0.08×0.07	0.14	0.09×0.08	0.15	0.09×0.09	0.16				
42	152号	L-4	YJ	円形	なし	なし	0.77	0.66	0.63	0.55	0.25	0.09×0.07	0.15										
42	153号	L-5	YJ上	楕円形	東北東	なし	0.93	0.75	0.50	0.40	0.91	0.12×0.11	0.11	0.12×0.08	0.13								
42	154号	J-5	AW-2W	楕円形	西北西	なし	0.95	0.70	0.28	0.22	1.15	0.07×0.06	0.12										
42	155号	L-4	YJ上	楕円形	不明	137号土坑より 新	(0.65)	0.70	(0.49)	0.45	0.42												
43	156号	L-5	YJ	円形	なし	なし	1.00	0.85	0.48	0.31	0.77	0.08×0.07	0.18										
43	157号	L-5	YJ上	楕円形	西北西	なし	1.02	0.71	0.40	0.28	0.67	0.08×0.06	0.09	0.07×0.05	0.12								
44	158号	L-5	YJ上	楕円形	東北東	なし	0.90	0.69	0.62	0.53	0.43	0.10×0.09	0.17	0.09×0.09	0.17								
44	159号	L-5-L-5	YJ上	円形	なし	なし	0.72	0.65	0.42	0.41	0.30	0.13×0.10	0.25										
44	160号	L-5	YJ上	円形	なし	157号二坑より 新	0.75	0.67	0.48	0.41	0.29	0.10×0.09	0.18										
44	161号	J-5-6	YJ上	円形	なし	なし	0.74	0.66	0.48	0.35	0.25	0.10×0.10	0.13										
44	162号	J-5	AW-2W	円形	なし	なし	0.79	0.73	0.42	0.36	1.60	0.10×0.08	0.13										
45	163号	J-5	AW-2W	円形	なし	なし	1.10	1.12	0.45	0.40	0.89	0.16×0.14	0.36										
45	164号	L-5	YJ上	円形	なし	なし	0.78	0.65	0.41	0.35	0.47	0.07×0.07	0.13	0.07×0.06	0.11								
45	165号	L-5-6	YJ上	円形	なし	167号土坑より 新	0.70	0.70	0.35	0.30	0.55	0.08×0.08	0.18	0.08×0.08	0.16								
45	166号	K-6	YJ上	楕円形	西北西	なし	0.96	(0.70)	0.69	(0.58)	0.22	0.08×0.08	0.15	0.12×0.08	0.16	0.10×0.08	0.17						
45	167号	L-5	YJ上	円形	なし	169-165号土坑 より新	0.95	0.84	0.57	0.62	0.40	0.10×0.07	0.2	0.10×0.09	0.15	0.10×0.10	0.17						
45	168号	L-4	YJ	円形	なし	なし	0.88	0.83	0.51	0.30	0.89	0.09×0.05	0.11	0.09×0.07	0.12								
45	169号	L-5	YJ	円形	なし	なし	0.48	0.43	0.25	0.20	0.20	0.06×0.06	0.15										

第3節 土器

本遺跡で出土した縄文土器を一括して報告する。出土した土器は、破片数で417点である。ただしこれは接合するものや、明らかに同一個体と認定できるものも、それぞれ総破片数を数え上げた数字であって、個体数ではない。

土器は縄文時代前期～後期と考えられるものが出土した。このうち73点を報告する。小破片が多く、かつ個体数認定の困難な資料もあることから、個体数は算出していない。紋様のあるもの、口縁部、底部については可能な限り図を作成して掲載した。分類は以下のとおりである。なお、個々の土器の詳細については表6の観察表を参照のこと。また、土器の分布状況についてはドットマップを作成した(第48～50図)。

第I群 前期(第51図1～第53図58)

- 1類 後葉の土器 a種 沈線紋を主とするもの
b種 浮線紋を主とするもの
c種 浅鉢形土器

2類 終末期の土器

3類 縄紋施紋のみの土器

4類 無紋の底部

第II群 中期(第54図59～65)

1類 曾利I式に属するもの

2類 曾利II式に属するもの

3類 後葉の壺形土器、注口土器ないし銚形土器の可能性のあるもの

第III群 後期(第54図66～73)

1類 初頃の土器

2類 中葉の土器

3類 底部

第I群 前期(第51図1～第53図58)

1類 後葉の土器(1～18)

浮線紋、平行沈線紋を有する諸破片b式を本類として分類した。第51図1～7は沈線紋を主とするa種である。口縁部が残存している破片は全て波状口縁となり、内湾するものもある。1はLRの縄紋が施されている。18は一応a種にしたが、「く」の字状に屈曲する器形を呈し、浅鉢の可能性がある。器壁は薄く、他のa種の破片とは明らかに顔付きが異なっている。

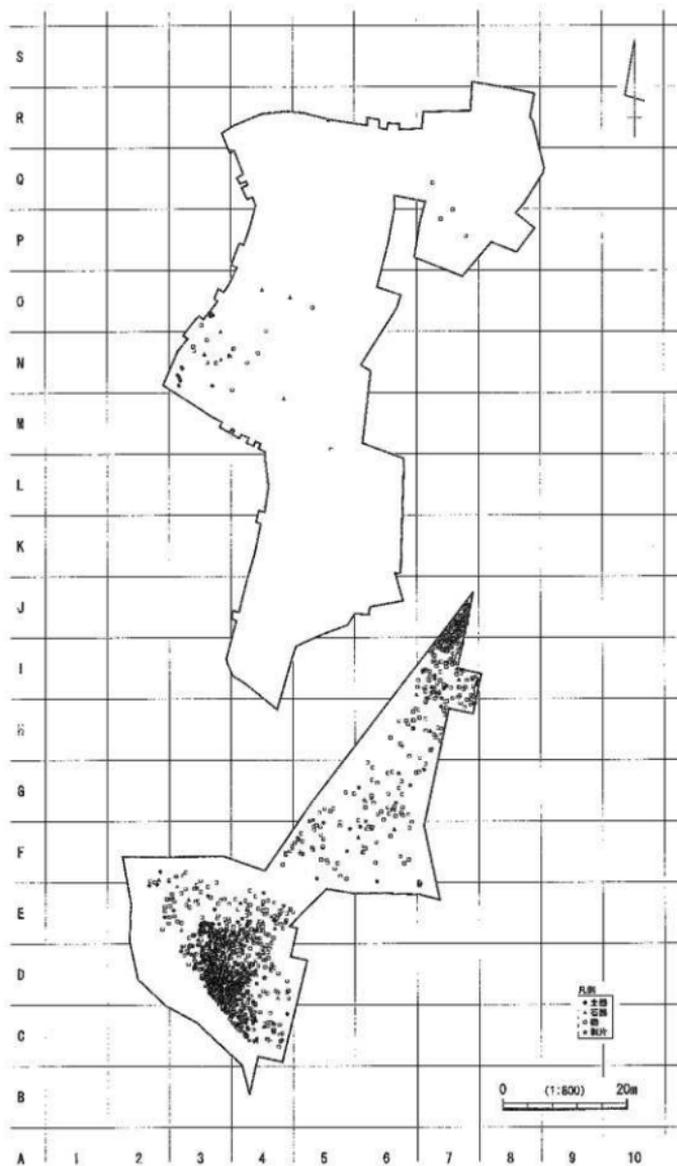
b種は浮線紋を有するもので、第51図8～16が該当する。このうち8～10と、11～16は、胎土・施文の状況からそれぞれ同一個体である可能性が高い。出土した資料は全て胴部の破片であり、口縁部は存在しない。断片的な資料であるため器体の形状は不明である。浮線紋上に矢羽根状の刻みを施すものが多い。地紋の縄紋は、判明するものに関しては全てRLである。

c種は浅鉢形土器である。口縁部が強く内屈し、その部分が文様帯となり、木葉状紋を施す。

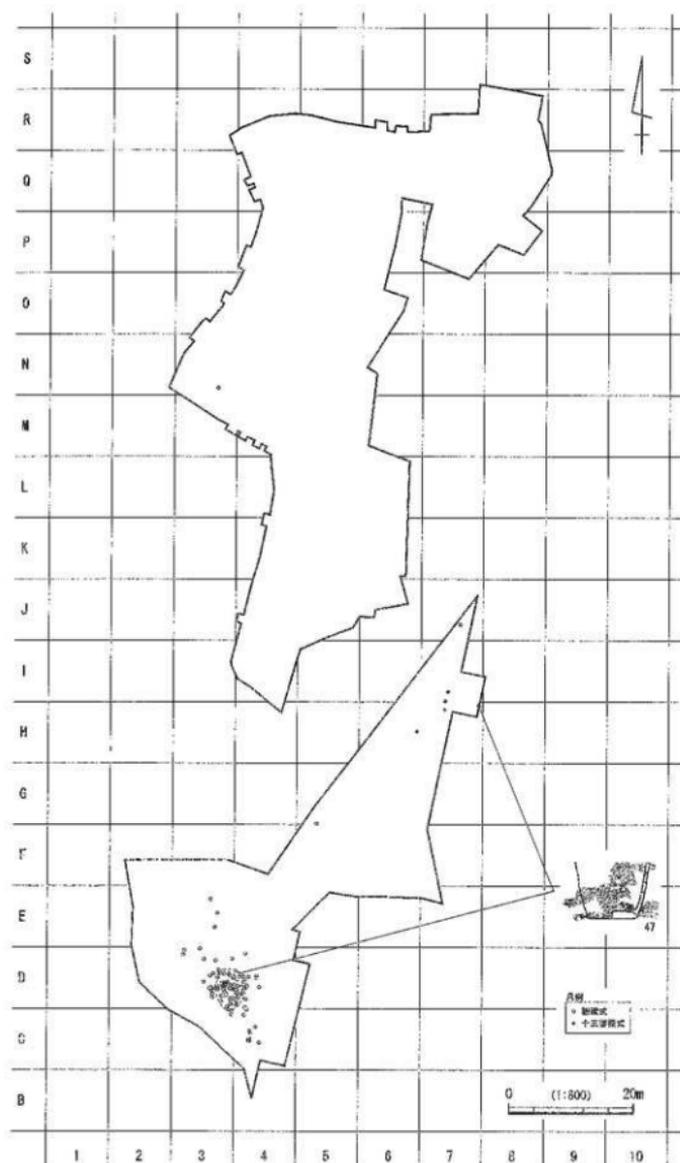
2類 終末期の土器(19・20)

19・20は同一個体である。何れも十三舌提式特有の渦巻状等のモチーフを描く。

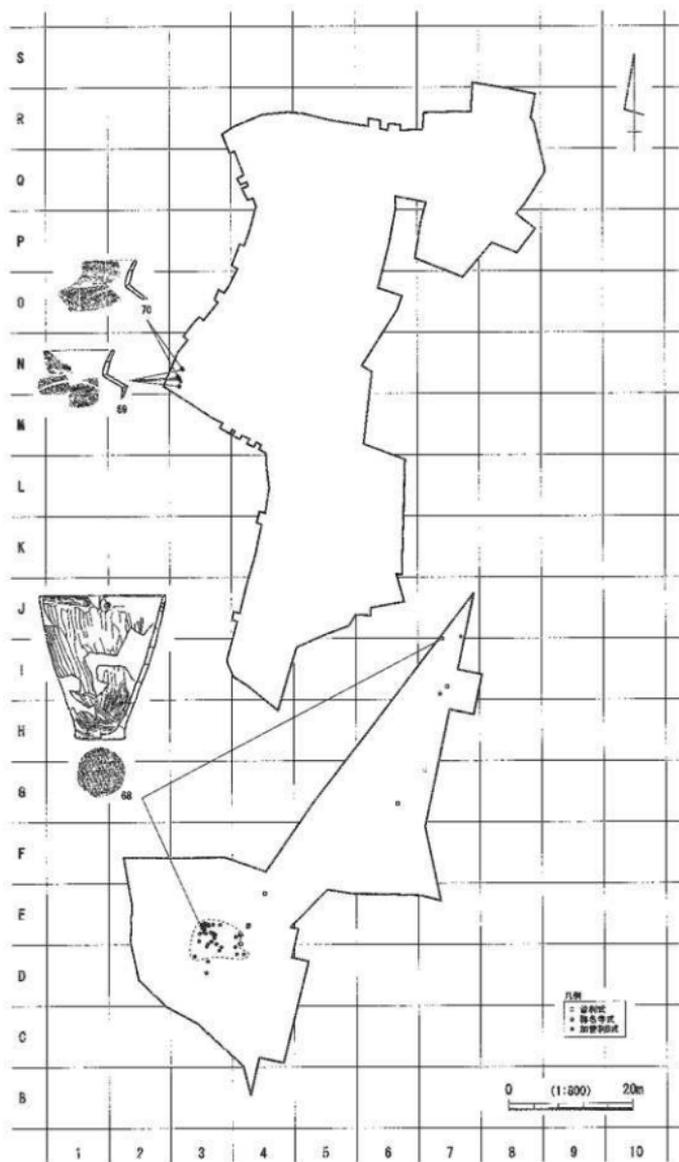
3類 縄紋施紋のみの土器(第52図21～第53図57)



第 48 図 縄文土器・石器・剝片・礫分布図



第49図 縄文土器分布図(前期)



第 50 図 網文土器分布図 (中・後期)

ここで3類として分類したものは、縄紋（捺糸紋?も含む）を施したただけであるが、第53図48のように、貼付けをもつものもある。ほとんどが単筋RしないしはLRの斜縄紋を施す。少数であるが、縄端結束の見られるもの（第52図33、43?、44）があり、羽状縄紋が見られるものもある。また、1片ずつだが、無筋縄紋（第53図57）と、0段の条の組紐による捺糸紋と思われるもの（56）がある。口縁部の形態は、緩やかに外反するもの（第52図21～27）と、内湾するもの（第53図48、50、51）がある。後者は器形の上で、明らかに諸磯b式に比定できるものである。48の貼付けもそれを傍証する。

4類 無紋の底部（第53図58）

一応本群に含めたが、前期以外の時期の可能性もある。

第I群土器のまとめと編年の位置

第I群土器は、土器出土量の極めて少ない本遺跡において、量的には主体をなすものである。現在の土器研究に照らし合わせ、細別時期の比定を行ないたい。

第1類の諸磯b式土器であるが、古い段階に特有の爪形紋を施す土器はない。また、新しい段階に見られる集合沈線を施す土器も存在しない。細片が多いため、文様帯や全体のモチーフなど不明な点が多いが、以下の点も勘案したい。①口縁の屈曲の強いものが多い。②木葉状紋を有する浅鉢が伴う。③獸面把手は見られないが、それが形骸化した楕円形の貼付をもつ土器がある（第53図48）。

以上の点から、第I群1類及び3類の一部について、先行研究の細別案に対する比定を行なう。今村啓爾氏の細別案（今村 1981）は、諸磯b式を（古）（中）（新）に分け、（中）を前半・後半に細分するものである。本遺跡の例は、明らかに（中）段階の後半に属する。神奈川県出土の松田光太郎氏の案（松田 1999）は、古段階、中1段階、中2段階前半、中2段階後半、新段階の5期に細分する。本遺跡例は、中2段階前半に比定出来ると思われる。山梨県出土の榑原功一氏の案（榑原 1999）は1～6段階に細分する。本遺跡例はそのうちの3段階に比定出来ると考えられる。ただし榑原編年では、古い要素である「平行沈線による鋸歯文をもつ土器もこの段階まで残る」とされているが、本遺跡では見当たらない。最も新しい関根慎二氏の細分（関根 2008）は、古段階、中1段階、中2段階、新段階の4期細分である。本遺跡例は、中2段階だと考えられる。結論的には本遺跡の諸磯b式土器は、時間的な同時性が強く、いずれの編年案においても、3段階に分類する場合には中段階であり、中段階でも中ごろ、ないしは中段階後半の古い時期であることが共通していると思われる（註1）。

次に第2類の十三善提式土器について述べる。僅か2片のみであり、接合はしないが同一個体と判断できるため、1個体のみ出土ということになる。松田光太郎氏の6期細分案（古1、古2、中1、中2、新1、新2の段階に分ける）（松田 2002）の中2段階に比定できる。関東系の土器である。

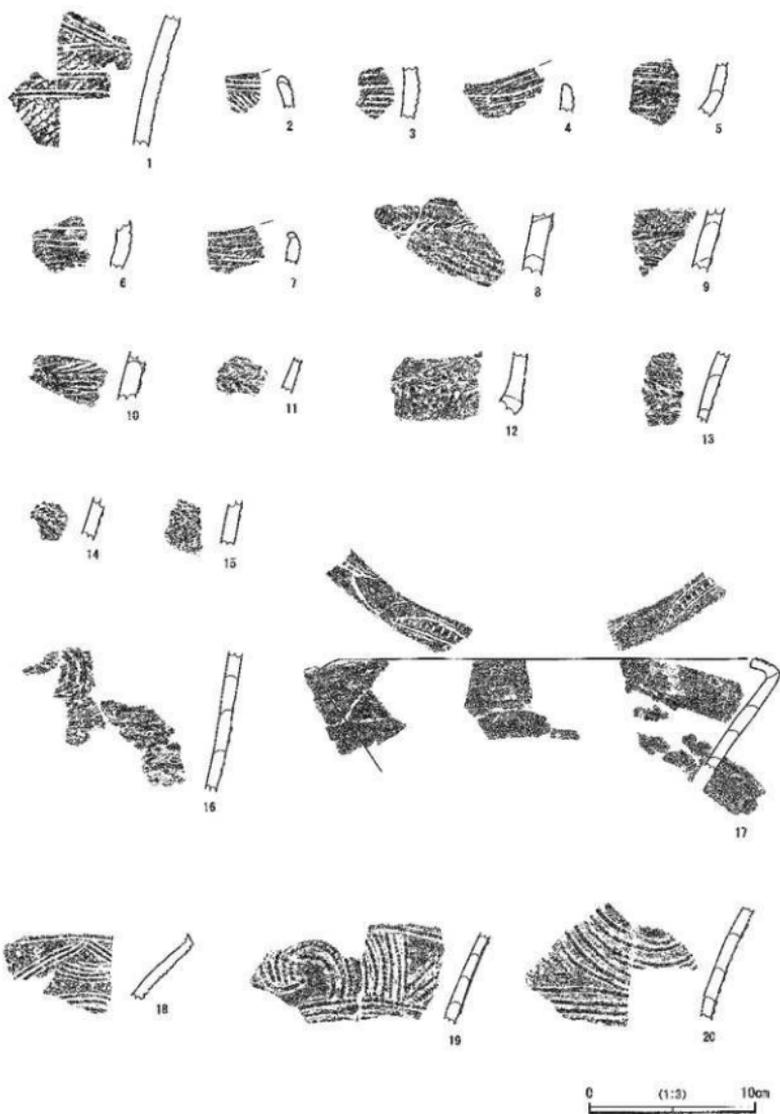
第3類として分類した土器は、縄紋のみが施される土器で、一部を除き佛肩型式が不明である。型式がわかるのは、強く内湾する口縁部の土器（第53図48～51）である。何れも器形や顔付きの点から諸磯b式であるのは明らかである。その他の土器については、残念ながら明確な比定は困難である。ただし、多くの土器が胎土・焼成・顔付きの点で、1類の諸磯b式土器と類似する。また、大半の土器が裏面に丁車なナデ調整を施すなど、いわゆる「粗製土器」的ではない。以上の点から、3類のほとんどの土器は諸磯b式期と思われる。

なお、本遺跡からは北白川下層式土器は出土していない。

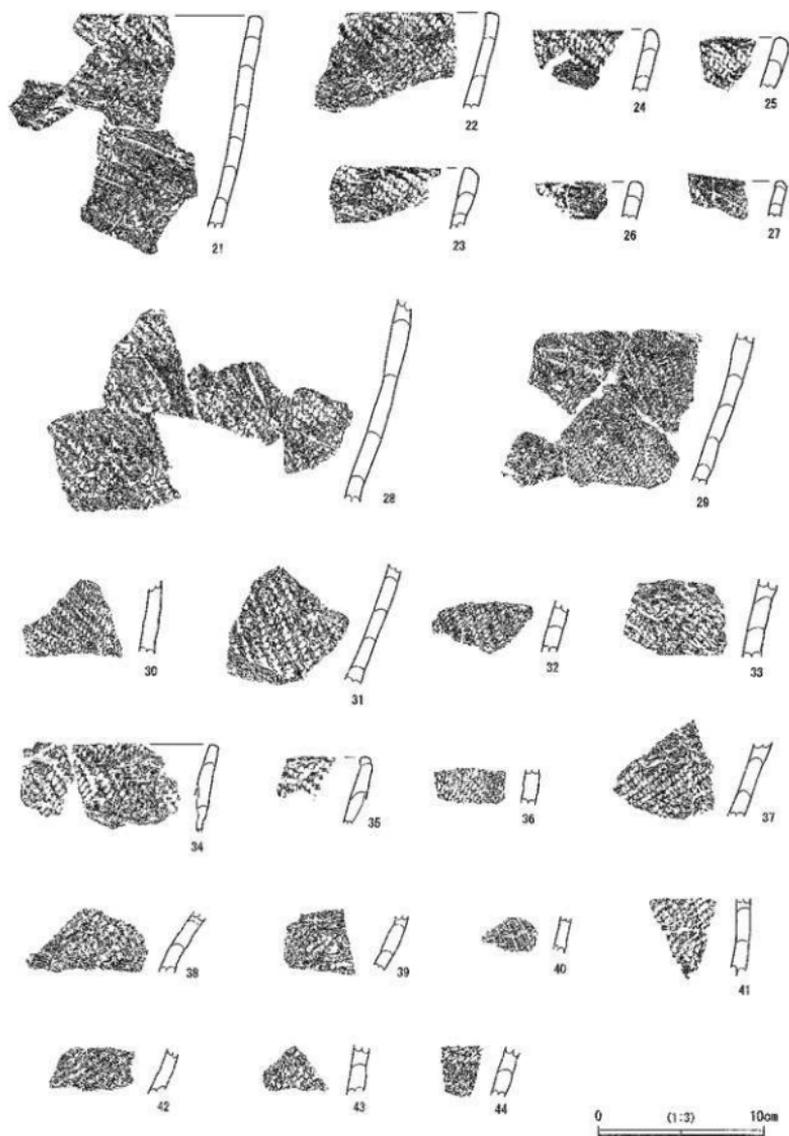
第II群 中期（第54図59～65）

1類 管利I式に属するもの（59・60・61・64）

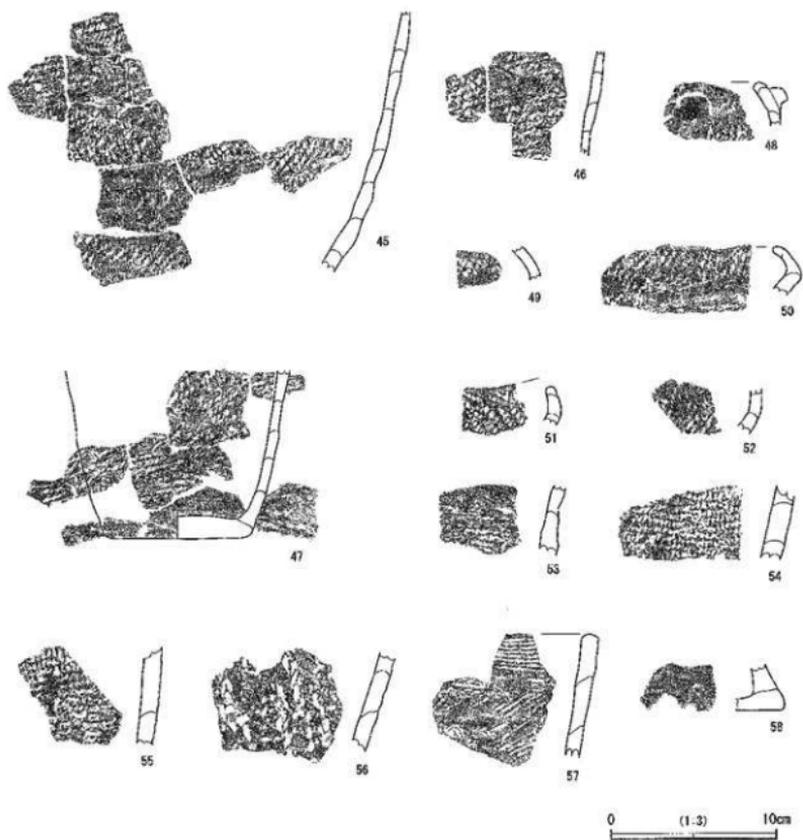
僅か4片の出土であり、59～61は明らかに同一個体である。64もその可能性が高い。そうであるならば、1個体のみ出土ということになる。小甕の胴部であると考えられ、隆帯上に半軟竹管の内側に



第51圖 縄文土器(1)



第52図 縄文土器(2)



第53図 縄文土器(3)

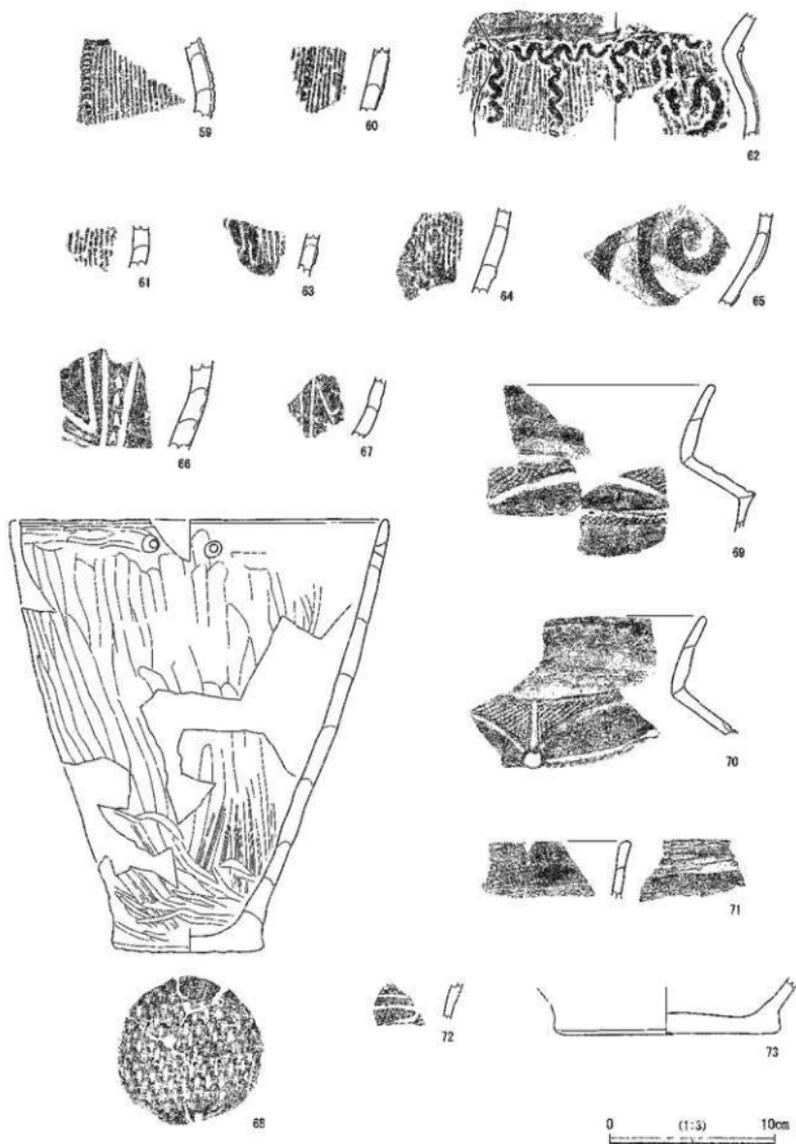
よる押し引き紋を施す。

2類 普利Ⅱ式に属するもの(62・63)

62・63は同一個体の可能性が強い。そうであるならば、1個体のみの出土ということになる。62は口縁部を無紋にする小壺である。頸部～胴部は、明らかに、粘土紐の貼付けより先に地紋の半裁竹管による条線施紋を行なっている。また、貼付けた粘土紐の観察から、胴部の垂直方向の隆線を先に貼付けた後、頸部の水平方向の蛇行隆線を貼付けている。

3類 後葉の壺形土器、注口土器、鐙付土器の可能性のあるもの(65)

非常に太い凹線による渦巻紋を描くものである。凸部は隆帯の貼付けによると思われるが、極めて低平である。断面の傾きは図とは異なる可能性もある。



第54図 縄文土器(4)

第Ⅱ群土器のまとめと編年の位置

1類の土器の隆帯は、山形眞理子氏の懸垂紋2類である(山形 1996)。近年、曾利Ⅰ式を2細分するのが通例になっている(前掲山形論文、(今福 2005)、(柳原 2008)など)。本遺跡の例は細片のため、頸部文様を基準とする細分は不可能であるが、山形氏の細分で言えば、曾利古2式に比定できる。従来編年ならば、曾利Ⅰ式の新しい段階である。新地平編年(小林他 2004)では10a～b期に相当しよう。

2類の62は地紋の条線施紋を、隆帯の貼付けに先立って行っている。これは山形氏の、「施紋順序B」であり、山形氏細分の曾利古3式に分類される。新地平編年の11c1期に相当するか。

3類は後葉でも新しい部分に属するであろう。

第Ⅲ群 後期 (第54図66～73)

1類 初頭の土器 (65～67)

2片出土しているが、胎土、器厚、器唇、顔付き等より明らかに別の個体であると認識できる。66は器厚がやや厚い土器で、区画の詳細については不明であるが、三角形を基調とするモチーフを有すると思われる。棒状工具による列点状の刻みを区画内に充填する。67は小片のため本類に含めて良いのか、やや迷う点もある。同様に三角形の区画になる可能性がある。

2類 後葉の土器 (68～73)

本類には、加曾利B式であることが明確なもの(69・70)と、他の型式の可能性も存在するものに分かれる。69・70は典型的な算盤玉形土器であり、接合はしないが、同一個体であることは明らかである。68は無紋の土器で、口縁から底部まで揃い、器形がわかるということでは注目すべき個体である。底部に網状痕を残している。72は磨消網紋を有する土器で、小片のため明確な型式比定は難しい。73は底部の形状から本類に含めたが、1類の可能性もある。

第Ⅲ群土器のまとめと編年の位置

1類のうち、66は明確な称名寺Ⅱ式である。モチーフ全体の構図が不明のため、やや明確さを欠くが、石井 寛氏の細分(称名寺式全体を古・中・新に大別し、それぞれを2段階に細別する。さらに古と中の間に第3段階を入れ、結果として7段階に細分する。従来の称名寺Ⅰ式は1～5段階、称名寺Ⅱ式は6・7段階に比定される。)(石井 1992)によるならば、6段階に比定されると思われる。称名寺Ⅱ式の古い段階である。67は細片のため、比定困難だが、やはり称名寺Ⅱ式の可能性が高い。

2類は、確実に加曾利B式土器に比定できるものと、やや不確実なものが含まれている。まず算盤玉形土器の69・70である。算盤玉形土器は加曾利B2式からB3式にかけて一般的に存在する器形であり、東京都大森貝塚の出土例でも有名である。問題となるのは、本遺跡の出土例がB2式かB3式かという点である。本遺跡例で注意すべき点として、以下の点がある。①口縁の外反の程度が強いこと(69・70は、作成した図より外反の程度が更に強い可能性がある)、②最大径をもつくびれ部の直下に無紋部分がある(69より)。この点を斟酌して論を進めたい。

秋田かな子氏は、「加曾利B2式中段階は、西部関東におけるソロバン玉形土器の成立を指標とする」とされる。また、B3式になると「崩れた感のあるものになってしまう」とする(秋田 2008)。秋田氏の編年図では、くびれ部以下の紋線に、①水平方向の矢羽根状の沈線を持つものと、②斜方向ないし横方向の直線的な沈線で矢羽根状とはならないものとの間に線を引き、前者をB2式、後者をB3式に分けている。また、添付された編年図では、口縁部の無紋部が幅広く、強く外反する小振りの土器(長野県山遺跡例)をB3式の古い段階に、わずかに外反気味となる(本遺跡例に比べて外反の程度は弱い)千葉県西根遺跡例を、B3式中頃の段階としている。また、同様に新しい研究である菅谷通保氏の論文(菅谷 2008)では、外反の程度が西根遺跡例より更に強い(本遺跡例に類似する)千葉県祇園原貝塚50号住居址例を掲げ、B3式の例としてとりあげている。これらの研究や事例を参考にすれば、

口縁部のあり方からは、本遺跡出土の 69・70 は B 3 式の特徴をそなえている。

②の、くびれ下の無紋部分であるが、前述の長野県離山遺跡例も同様に無紋部分が存在する。他の例としては、秋田氏がとり上げている埼玉県寿納炭層遺跡例と、東京都大森貝塚例（鈴木正博他 1980）等がある。ただし後二者はともに、無紋部分の下に文様帯があり、上下を横方向の沈線で区画した中に沈線と横方向の矢羽根状紋を施している。前述した秋田氏の基準に照らし合わせると、両者ともに B 2 式である。従って、くびれ下の無紋部分を有する算盤玉形土器は B 2 式にも B 3 式にも存在することになり、型式分類の基準とはなり得ない。以上の点から判断して、本遺跡例は、加曾利 B 3 式に比定できると考えられる。ただし、B 3 式の中でどれくらいの細別時期に属するかという点については、ここでは詳述は避けたいと思う。

68 は無紋土器で、編年のな位置付けは難しい。しかし器形全体や口縁部の形態、本遺跡から出土している他の土器の諸型式などの点から考えて、後期初頭～前葉ではなく、中葉の土器と考えた。類例は神奈川県東正院遺跡（鈴木保彦他 1972）や下北原遺跡（鈴木保彦他 1976）などにある。71～73 は他の時期の可能性も考えられる。

（註 1）

付け加えるならば、本遺跡の南西約 3～400 m の距離に位置する、諸磯 b 式期の集落遺跡である細野沢遺跡も、本遺跡と同一時期の土器が多数出土しており、本遺跡との関連性が注目される。また、集落の可能性のある千福市場平第 1 遺跡でも本遺跡と同時期の諸磯 b 式土器が検出されている（井上他 1982）。

引用・参考文献

- 秋田かな子 2008 「加曾利式 B 式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 石井 寛 1992 「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』第 9 冊（財）横濱市ふるさと歴史財団
- 井上輝夫・宮井栄一他 1982 『掘野市千福市場平第 1、第 2 小杉平第 1、第 2 細野沢遺跡発掘調査報告書』掘野市文化財調査報告第 3 集 掘野市教育委員会
- 今福利恵 2005 「曾利式土器編年再考—甲府盆地域を中心に—」『山梨県考古学協会誌』第 15 号
- 今村啓爾 1981 『諸磯式土器』『縄文文化の研究 3 縄文土器 I』雄山閣
- 榎原功一 1999 「山梨県内の標式土器」『第 12 回縄文セミナー 前期後半の再検討 資料集・記録集』縄文セミナーの会
- 榎原功一 2008 「曾利式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 小林謙一・中山真治・黒尾和久 2004 「1、多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定（補）」『シンポジウム 縄文集落研究の新地平 3—跡塚から曾利へ—発表要旨』縄文集落研究グループゼミナール研究会
- 菅谷透保 2008 「曾谷式・後期安行式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 鈴木正博他 1980 『大田区史（資料編）考古Ⅱ』大田区
- 鈴木保彦他 1972 『東正院遺跡調査報告』神奈川県教育委員会・東正院遺跡調査団
- 鈴木保彦他 1978 『下北原遺跡』神奈川県縄文文化財調査報告 14 神奈川県教育委員会
- 関根儀二 2008 『諸磯式土器』『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 松田光太郎 1999 「神奈川県における諸磯 a・b 式土器の探検」『第 12 回縄文セミナー 前期後半の再検討 資料集・記録集』縄文セミナーの会
- 松田光太郎 2002 「関東・中部地方における十三書式土器の変遷」『神奈川考古』第 38 号
- 山形真理子 1996 「曾利式土器の研究（上）—内的展開と外的交渉の歴史—」『東京大学文学部考古学研究室紀要』第 14 号

表6 土器観察表②

図録 番号	編年 番号	年代	器種・型式	分類	残存部位	外壁色・ 内面色	胎土・混和材	文様・類 型等	
52	27	D-4	KGP 前期 後葉～末	1-3	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、長石径0.5mm以下、石英径 0.2mm以下を含む。	縄紋LR。内面はヨコナデ。波状口縁か。	
52	28	O-4 D-3	SSO ～AN 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR4/1暗褐色 7.5YR4/6暗褐色	密、長石径0.2mm以下、石英径 1mm以下を含む。	縄紋LR。内面は縦方向のナデ。21～26-30と同一個体と思われる。	
52	29	D-3	KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	5YR5/3明赤褐色 7.5YR5/2褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、金象母径0.1mm以下 を含む。	縦波状の縦方向のナデ特徴。縄紋LR。内面は縦方向のナデ。	
52	30	D-4	KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR4/2灰褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、金象母径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR。内面は縦方向の丁寧なナデ。21～26-30と同一個体と思われる。	
52	31	D-4	KGP 前期 後葉～末	1-3	胴部	10YR4/3にぶい黄褐色 10YR4/6褐色	密、長石径0.3mm以下、白色粒 径0.1mm以下を含む。	縦波状の縦方向のナデ調整～暗褐色LR。内面は丁寧なヨコナデ。	
52	32	D-3	AN 前期 後葉～末	1-3	胴部	5YR4/6暗褐色 5YR3/1黒褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、金象母径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR。内面は斜～縦方向の丁寧なナデ。	
52	33	D-3	KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	10YR3/1黒褐色 7.5YR5/6暗褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、金象母径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR。縄紋調整(羽状調整か)。内面は丁寧なヨコナデ。	
52	34	D-4	FB 前期 後葉～末	1-3	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/2褐色	密、長石径0.6mm以下、石英径 0.6mm以下を含む。	縦波状の縦方向のナデ特徴。縄紋LR。口唇部及び内面ヨコナデ。	
52	35	D-3	AN 前期 後葉～末	1-3	口縁部	7.5YR5/4褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR。内面は縦方向の丁寧なナデ。外壁に層付層。	
52	36	D-3	KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	5YR5/8明赤褐色 5YR5/3明赤褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、金象母径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR。内面は斜方向の丁寧なナデ。	
52	37	E-3	KGP 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR4/6褐色 10YR4/2灰黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、金象母径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR。縄紋調整(羽状調整か)。内面はヨコナデ。	
52	38	D-3	KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	10YR4/2灰黄褐色 10YR4/4褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、黒色粒を含む。	縄紋LR。内面調整多し。	
52	39	D-4	KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR4/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	密、長石径0.2mm以下、石英径 0.2mm以下、黒色粒径0.1mm以下 を含む。	波状LRに斜～縦に調整。内面はヨコナデ。	
52	40	D-3	AN 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR5/3暗褐色 7.5YR3/1黒褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、金象母径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR。内面は縦方向の丁寧なナデ。	
52	41	D-3	AN 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/2褐色	密、長石径0.6mm以下、石英径 0.6mm以下を含む。	縄紋LR。内面はヨコナデ。	
52	42	D-3	KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	10YR4/2灰黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	やや粗。長石径0.1mm以下、石 英径0.3mm以下を含む。	縄紋LR。内面調整多し。	
52	43	D-3	AN 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR4/2褐色 7.5YR4/2褐色	やや粗。長石径0.1mm以下、石 英径0.1mm以下を含む。	縄紋LR。縄紋調整(羽状調整か)。内面は丁寧なヨコナデ。	
52	44	D-3	AN 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR4/2褐色 7.5YR3/1黒褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、金象母径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR。両面調整。内面は丁寧なヨコナデ。	
52	45	D-5-4	AN KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	2.5Y4/4にぶい黄色 2.5Y4/2暗灰黄色	密、長石径1mm以下、石英径 0.5mm以下を含む。	縄紋LR～暗褐色により調整状の端みは縦方向につける。内面調整 多し。外周上位が若干赤色化している。46-47と同一個体。	
52	46	D-5-4	AN KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR5/3にぶい褐色 7.5YR3/1黒褐色	密、長石径0.6mm以下、石英径 0.6mm以下を含む。	縄紋LR～暗褐色により調整状の端みを縦方向につける。内面 調整多し。49-47と同一個体。	
52	47	D-3	AN D-3-4	KU 前期 後葉～末	1-3	底部	7.5YR3/2にぶい褐色 7.5YR2/1黒褐色	密、長石径0.6mm以下、石英径 0.6mm以下を含む。	縄紋LR。内面調整多し。外周上位が若干赤色化している。 内面に器が付着し、黒炭が付いている。45-46と同一個体。
52	48	D-5	KU 前期 後葉～末	1-3	口縁部	7.5YR4/2灰褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗。長石径1mm以下、石英 径0.5mm以下を含む。	横付跡及び付け～調整LR。波状口縁か。49-50-52と同一個体 と思われる。	
52	49	D-5	KU 前期 後葉～末	1-3	口縁部	7.5YR4/2灰褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗。長石径1mm以下、石英 径0.5mm以下を含む。	縄紋LR。調整調整(羽状調整か)。内面は丁寧なヨコナデ。	
52	50	D-3	KU 前期 後葉～末	1-3	口縁部	10YR4/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	やや粗。長石径0.3mm以下、石 英径0.1mm以下を含む。	縄紋LR。付着炭化物を年代測定(層付層分析参照)。40-49-52と 同一個体と思われる。	
52	51	D-4	KU 前期 後葉～末	1-3	口縁部	7.5YR6/2褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下を含む。	波状口縁。縄紋LR。内面はやや丁寧なヨコナデ。	
52	52	D-3	KU 前期 後葉～末	1-3	口縁部	10YR4/2灰褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、チヤーム径0.2mm以下 を含む。	縄紋LR。49～50と同一個体と思われる。	
52	53	D-3	KU 前期 後葉～末	1-3	胴部	10YR6/6明黄褐色 10YR7/4にぶい黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、赤褐色粒径0.1mm以下 を含む。	縄紋LR～ヨコナデにより調整状の端みを含む。内面調整。	
52	54	D-4	KGP 前期 後葉～末	1-3	胴部	7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR3/4にぶい褐色	密、長石径0.2mm以下、石英径 0.1mm以下、赤褐色粒径0.1mm以下 を含む。	波状LRを斜方向に調整調整。内面は丁寧なヨコナデ。	
52	55	E-3	SSO 前期 後葉～末	1-3	胴部	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、赤褐色粒径0.1mm以下 を含む。	波状LRを斜方向に調整調整。内面は縦方向の丁寧なナデ。	
52	55	J-7	AN 前期 後葉～末	1-3	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	密、長石径0.1mm以下、石英径 0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下 を含む。	0度の染の縁部による顔面破か。内面は縦方向の丁寧なナデ。	
52	57	N-3	KGP DP	1-3	口縁部	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR7/6明黄褐色	密、長石径0.3mm以下、石英径 0.1mm以下を含む。	縦方向のナデ～口唇下に調整調整(端みを含む)を平行させて 縁破～その下に調整調整(端みを含む)にして縁破～その下に 調整LRを縦方向に調整調整(端みを含む)調整調整。口唇部及び 内面はヨコナデ(口唇部は丁寧に作り込まれている)。	

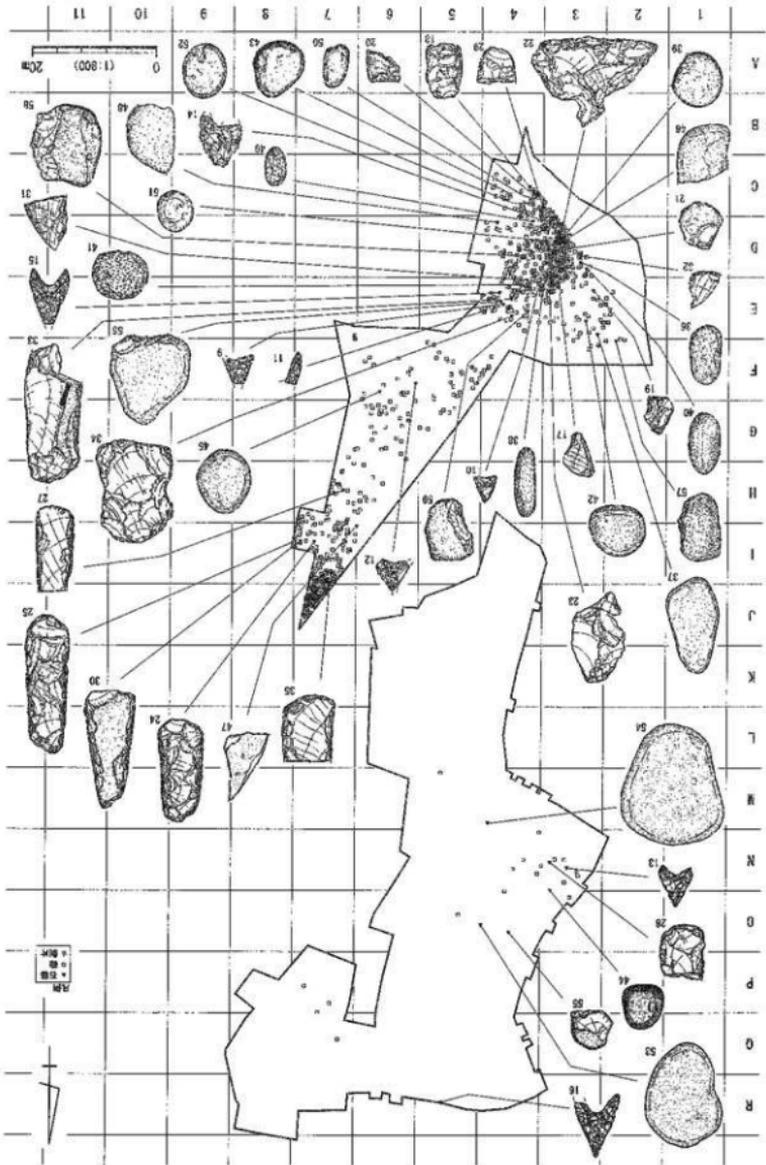
表6 土器観察表③

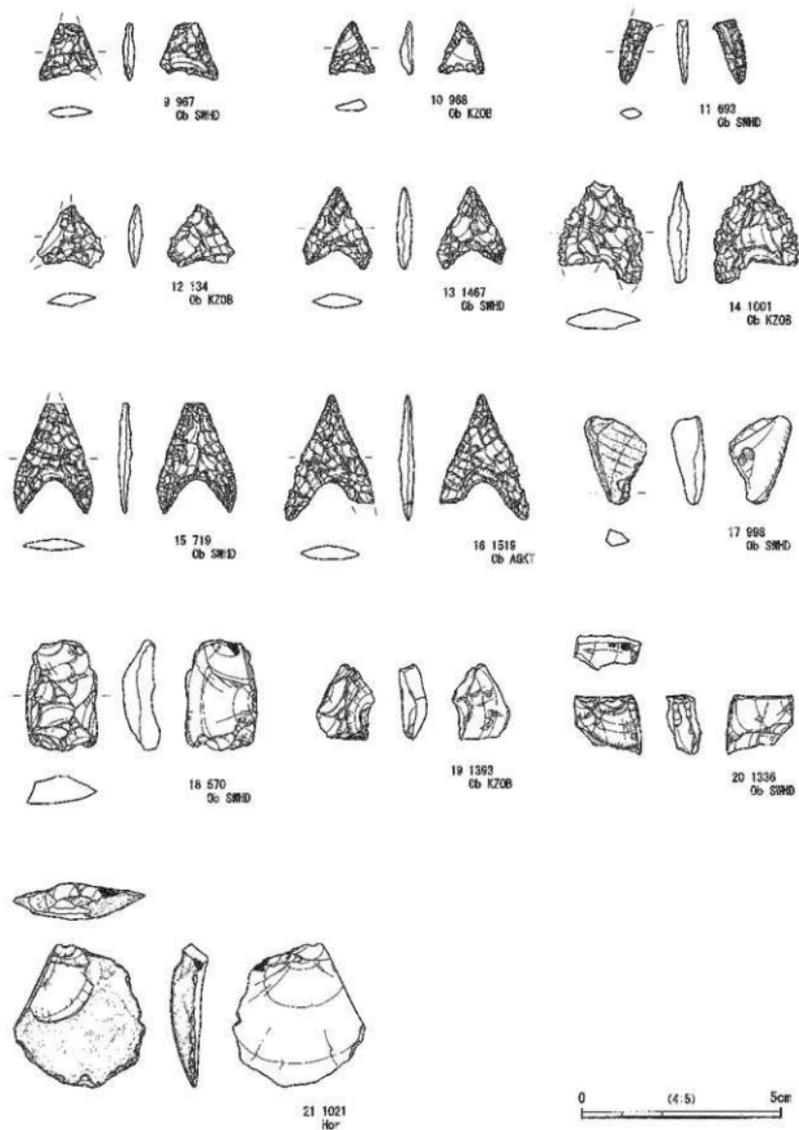
器名 番号	形状	部位	時期・型式	分類	保存部位	外面色調 内面色調	粘土・混砂材	文様・調整等
53	38	D-4	KGP 前期?	I-4	底部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、黒石径0.8mm以下、石英径0.2mm以下、微小な黒色粒を含む。	外面に張り出した筋状の部、縁部は丁寧に磨かれる。特に底部に顕著である。
54	59	E-4	KU 中期・管製式	3-I	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3褐色	密、黒石径0.2mm以下、石英径0.2mm以下、黒色粒を含む。	胴部に水平方向の筋帯を巡らして縦筋状の筋帯を並置に貼り付ける。半管竹管内面による条線を並置に溝状に半管竹管部による押し引きによる上下方向に凹み筋状を完成させる。内面は丁寧なコナテを施し、一部欠きを有する。60-81と同一体。94は同一一体か。
54	60	E-4	KU 中期・管製式	3-II	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3褐色	密、黒石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、黒色粒を含む。	筋帯を並置に貼り付ける。半管竹管内面による条線を並置に溝状に半管竹管部による押し引きによる上下方向に凹み筋状を完成させる。内面は丁寧なコナテを施し、一部欠きを有する。60-81と同一体。94は同一一体か。
54	61	E-4	AK 中期・管製式	3-I	胴部	10YR5/3にぶい黄褐色 10YR4/1褐色	密、黒石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、全量帯状0.1mm以下を含む。	半管竹管内面による条線を並置に溝状に施す。59-60と同一体か。94は同一一体か。
54	62	E-4 I-7	KGP 中期・管製式	3-II 胴部	口縁部(縦筋帯も半管竹管)	4YR5/6明赤褐色 7.5YR5/6明赤褐色	やや緻密、黒石径0.5mm以下、石英径0.5mm以下、黒色粒径0.4mm以下を含む。	胴筋より下部に半管竹管内面による条線を並置に溝状に貼り付ける。口縁部は縦筋帯による押し引きによる上下方向に凹み筋状を完成させる。内面は丁寧なコナテを施し、一部欠きを有する。60-81と同一体か。
54	63	Q-7	KU 中期・管製式	3-II	胴部	5YR5/6明赤褐色 5YR5/1黒褐色	密、黒石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	半管竹管内面による条線を並置に溝状に、二本筋状の筋帯を並置に貼り付ける。内面は丁寧なコナテを施す。
54	64	E-4	AN 中期・管製式	3-I	胴部	7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、黒石径1mm以下、石英径2mm以下を含む。	半管竹管内面による条線を並置に溝状に施す。59-61と同一体か。
54	65	G-6	AK 中期・管製式	3-II	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	やや緻密、黒石径1mm以下、石英径0.5mm以下、黒色粒径0.4mm以下を含む。	筋帯を張り付け、ナテにより彫削し、凹溝により条線を並置に溝状に完成させる。内面は丁寧なコナテを施す。筋帯の上部の可能性がある。
54	66	J-7	器名不明 管製式?	3-I	胴部	7.5YR5/6褐色 5YR5/4褐色	密、黒石径0.1mm以下、石英径0.1mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	縦筋帯による水平方向及び三角形の凹溝を並置に溝状に施す。外側の筋帯部分は僅かに丁寧なコナテを施す。内面は丁寧なコナテを施す。
54	67	I-7	AK 器名不明 管製式?	3-I	胴部	10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	密、黒石径0.5mm以下、石英径0.5mm以下を含む。	文様により縦筋帯と思われるモチーフが施される。
54	68	I-7 E-3 D-3	SSC -AN 後期・ 加曽利印式	口縁部(縦筋帯も半管竹管)	口縁部(縦筋帯も半管竹管)	7.5YR5/4褐色 7.5YR5/4褐色	やや緻密、黒石径1mm以下、石英径1mm以下を含む。	物状土器。胴部全体を縦方向にナテで凹み状に出た部分に水平方向にナテ面によるもので下部は斜方向のナテ竹管の質によるヘラツケか、内面を管製式で磨き上げられた。縦筋帯は丁寧なコナテを施す。内面は丁寧なコナテを施す。筋帯の上部の可能性がある。
54	69	N-3	SSC KGP 後期・ 加曽利印式	3-II	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、黒石径0.3mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	縦筋帯の上部、縁部より一筋帯で管製式で磨かれた。水平方向の文様で口縁部に縦筋帯を並置に溝状に施す。内面は丁寧なコナテを施す。筋帯の上部の可能性がある。
54	70	N-3	SSC 後期・ 加曽利印式	3-II	口縁部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、黒石径0.3mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	縦筋帯の上部、縁部より一筋帯で管製式で磨かれた。水平方向の文様で口縁部に縦筋帯を並置に溝状に施す。内面は丁寧なコナテを施す。筋帯の上部の可能性がある。
54	71	K-2	KGP 後期・ 加曽利印式	3-II	口縁部	7.5YR4/1褐色 10YR5/2黄褐色	密、黒石径0.3mm以下、石英径2mm以下を含む。	水平方向の文様で口縁部に縦筋帯を並置に溝状に施す。内面は丁寧なコナテを施す。筋帯の上部の可能性がある。
54	72	D-3	KGP 後期・ 加曽利印式?	3-II	胴部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	密、黒石径0.2mm以下、石英径0.2mm以下を含む。	胴筋より下部に半管竹管内面による条線を並置に溝状に貼り付ける。内面は丁寧なコナテを施す。
54	73	D-3	KU 後期?	3-II	底部	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/2褐色	密、黒石径0.1mm以下、石英径0.2mm以下、黒色粒径0.1mm以下を含む。	胴筋より下部に半管竹管内面による条線を並置に溝状に貼り付ける。内面は丁寧なコナテを施す。

第4節 石器

本遺跡で出土した縄文時代の石器総数は51点で、他に剥片が23点出土した。石器は石鏃、石錐、楔形石器、両極石器、石核、搔器、石匙、削器、打製石斧、磨石類、台石、礫器がある。出土層位はSSC層からZN層までである。遺構覆土中からも1点だけ出土している(表7)。石器の多くは、グリッドの南北軸C~E、東西軸の2~4の北東方向に緩く傾斜する平坦部面に集中するほか、H-7、I-7グリッドに打製石斧が集中して出土している(第56図)。これらの分布はほぼ土器の分布と共通して

第55图 縄文時代石器分布图





第 56 圖 繩文時代石器実測圖 (1)

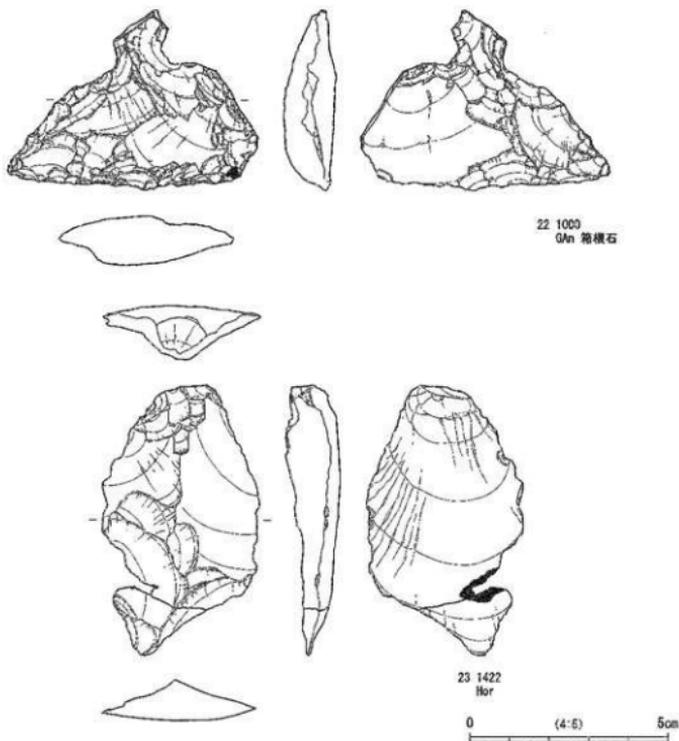
いる。

石鏃 (第56図9～16)

石鏃は8点出土した。いずれも無茎鏃で、黒曜石製である。基部がわずかに抉れるもの(9、10、12、13)と、大きく抉れ脚部が燕尾状を呈するもの(11、15、16)がある。また、浅く抉れるものうち、側縁が鋸歯状に加工されたもの(14)がみられる。9は、薄い剥片を利用した石鏃で、先端部と右の脚部を欠損している。10は、裏面に主要剥離面を残し、側縁を比較的急角度で周縁調整している。11は、脚部の片側で側縁がわずかに鋸歯状を呈する。12は、表面の左側縁に無調整な大きな剥離面をそのまま残す関係でやや不整形な感じを残すものである。先端と左の脚部先端を欠損する。13は、表裏面とも押圧による剥離である。脚部の先端がV字形に整形されているのが特徴的である。15は、脚部の外側縁がやや丸みを帯びる。16は、やはり押圧剥離による調整で、剥離方向は表裏とも基部側の挟り部分に向いている。剥離の新旧関係から、基部の挟りは面の調整が終わった後で行われていることが判る。

石鏃 (第56図17)

17は、黒曜石製の鏃である。断面三角形の剥片の端部を利用したもので、右側縁に鏃部を作り出すための調整が見られる。



第57図 縄文時代石器実測図(2)

楔形石器・両極石器 (第56図18、19)

18は、黒曜石製で左側縁に風化面を残す。この面を打面として作出された横長剥片に両極加撃を施し、楔形状を呈するものを楔形石器とする。19は両極打法によるものだが、はっきりとした楔形状でないところから両極石器とした。黒曜石の横長剥片を利用した石器で、表面の左右に方向の異なる剥離がみられる。

石核 (第56図20)

20は、黒曜石製で、90°の打面転移を繰り返して小型の剥片を取り出した石核の残核である。打点部の潰れの状況から間接打撃による剥片剥離を行ったと思われる。

搔器 (第56図21)

21は、ホルンフェルス製で、略円形の剥片の下縁に調整を加えたもので、右側縁から末端に微細剥離が観察されるものである。打面を残す。

石匙 (第57図22)

22は、ガラス質黒色安山岩(箱根石)の横長剥片を素材としたもので、握みを打面側に打撃により作出している。刃部は急傾斜の剥離で調整されている。

削器 (第57図23)

23は、ホルンフェルス製の打面を残す縦長剥片で、右側縁部にわずかに微細な剥離が認められるが風化が著しく詳細は不明である。

打製石斧 (第58図24～29、第59図30～33、第60図34、35)

打製石斧は、12点が出土した。形態的には短冊型のものが10点、分銅型のものが2点である。

短冊型のは刃部の形状が円弧状を呈するもの(24、26、27、28、29、35)、直線的なもの(30)、円弧状だが、先端がやや尖っているもの(25、33)に分けられる。素材はいずれも大型の剥片で、このうち素材の形状が判るものは、横長の剥片から製作されたもの(24、25、27、30、34、35)と、縦長の剥片から製作され片面に礫面を残すもの(25、28、30)、両面に礫面を残すもの(26、33)があり、礫面の摩滅の状況から石材が川原石であったことが推測できる。石材は、24、26、27、31、32、33が輝石安山岩、25、29が緑色片岩、30が緑色凝灰岩、28がホルンフェルスである。31は折り取られているため全体像は不明である。33には両側縁に敲打痕が見られる。35は、輝石安山岩製で上半分を欠損している。

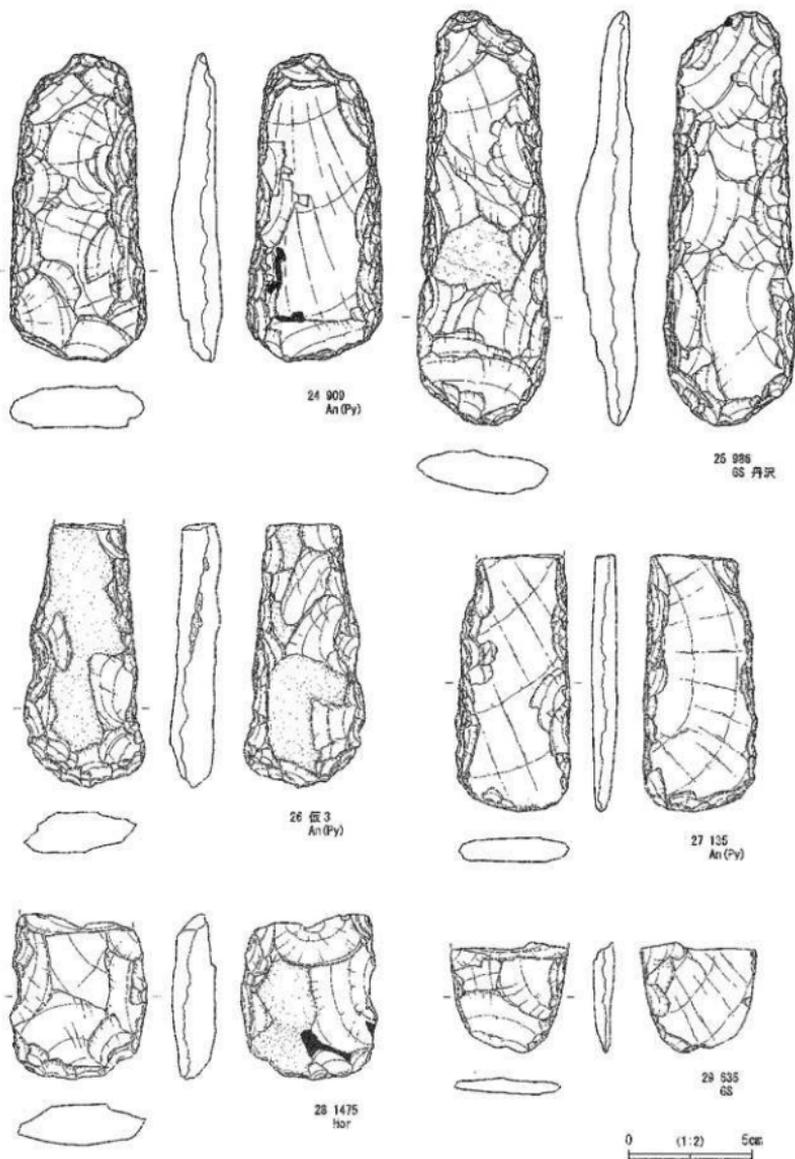
分銅型のものには小型で薄い器肉の32と、大型の34がある。32は、刃部の形状が直線的である。上半部を欠損している。34は、輝石安山岩製で、下端部は直線的な刃部となっている。

磨石類 (第60図36～38、第61図39～45、第62図46～52)

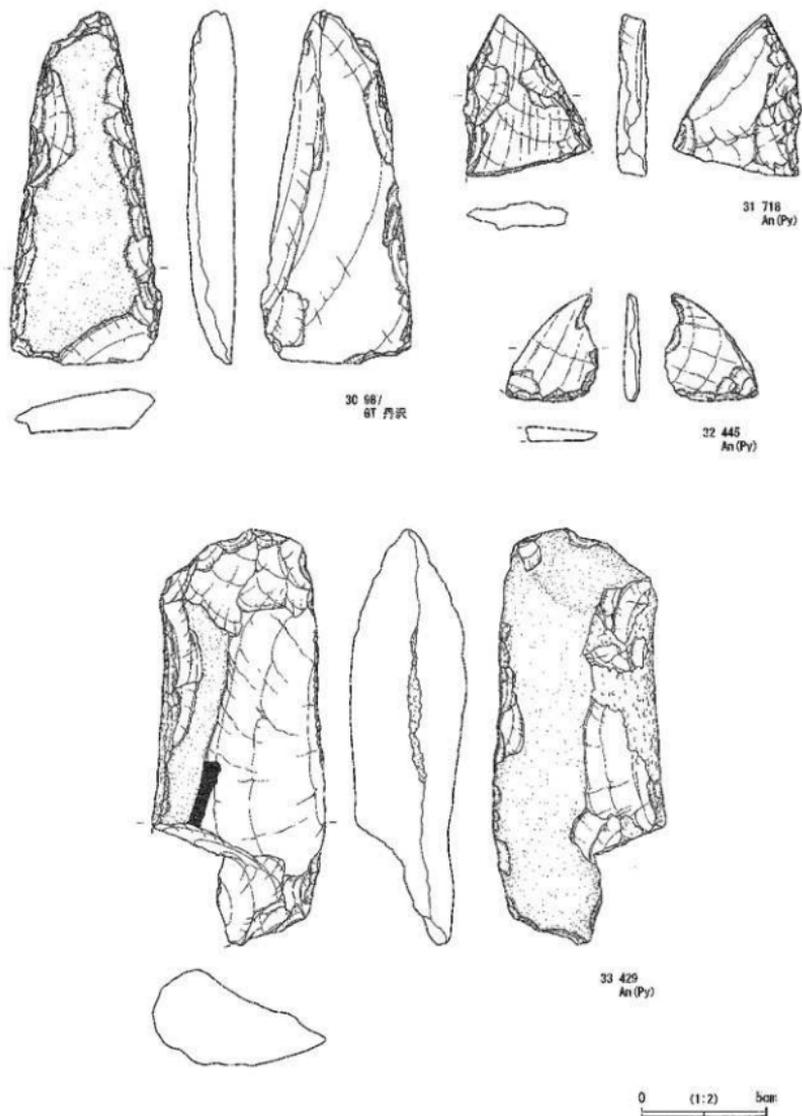
円礫もしくは扁平礫に磨面、敲打痕がみられるものを磨石類として一括した。36は、多孔質玄武岩の槽口礫の1面に磨面を持つものである。37～45は、平坦部に磨面をもつものである。このうち、39、40は、コグ痕を持つもの、41は、被熱により全体が脆くなっている。37は、断面が三角形を呈する礫で、形状的には特殊磨石に類似するが、特殊磨石のメルクマールである側縁の磨面が認められない。石材は、37、38、40、41、43、44は輝石安山岩、39は、石英閃緑岩、42、45が玄武岩である。46～48は、やや大型の扁平礫でいずれも欠損している。台石の可能性もあるが磨石類に分類しておく。石材はいずれも輝石安山岩である。42・49～52は、側縁部に敲打痕を持つもので、このうち50～52については、磨面も併せ持つものである。石材は、49、50が多孔質玄武岩、51が多孔質安山岩、52が輝石安山岩である。

台石 (第62図53、第63図54)

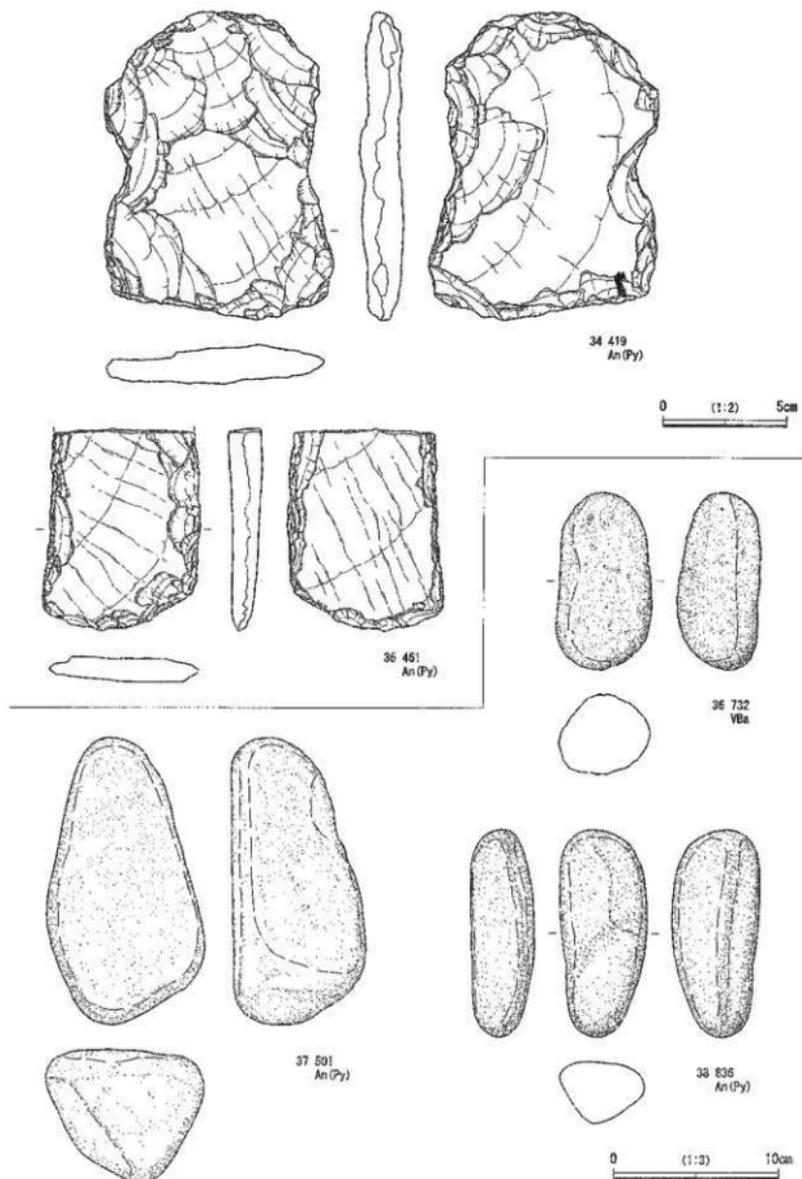
やや大型の礫で平坦面もしくは凹みを持ち、その面を作業面としているものをそれとした。53は、



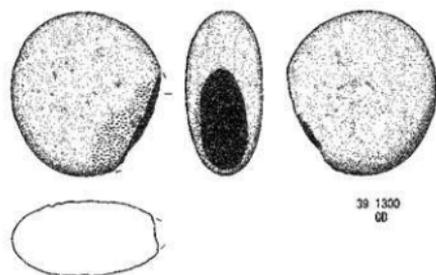
第58图 縄文時代石器実測图(3)



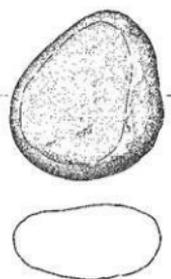
第 59 図 縄文時代石器実測図 (4)



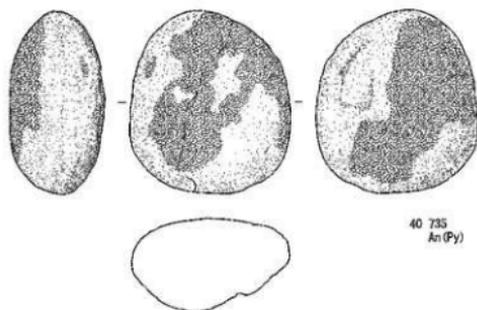
第 60 图 縄文時代石器奥洲選 (5)



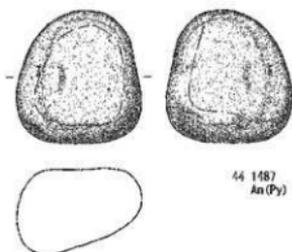
39 1300
GD



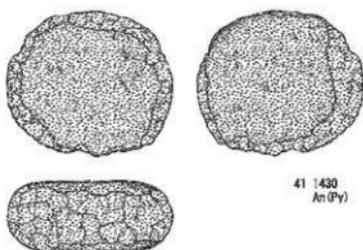
43 462
An(Py)



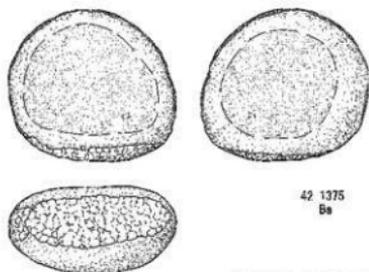
40 735
An(Py)



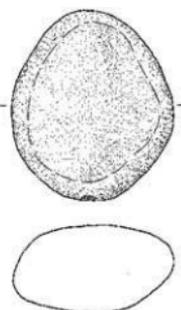
44 1487
An(Py)



41 1430
An(Py)



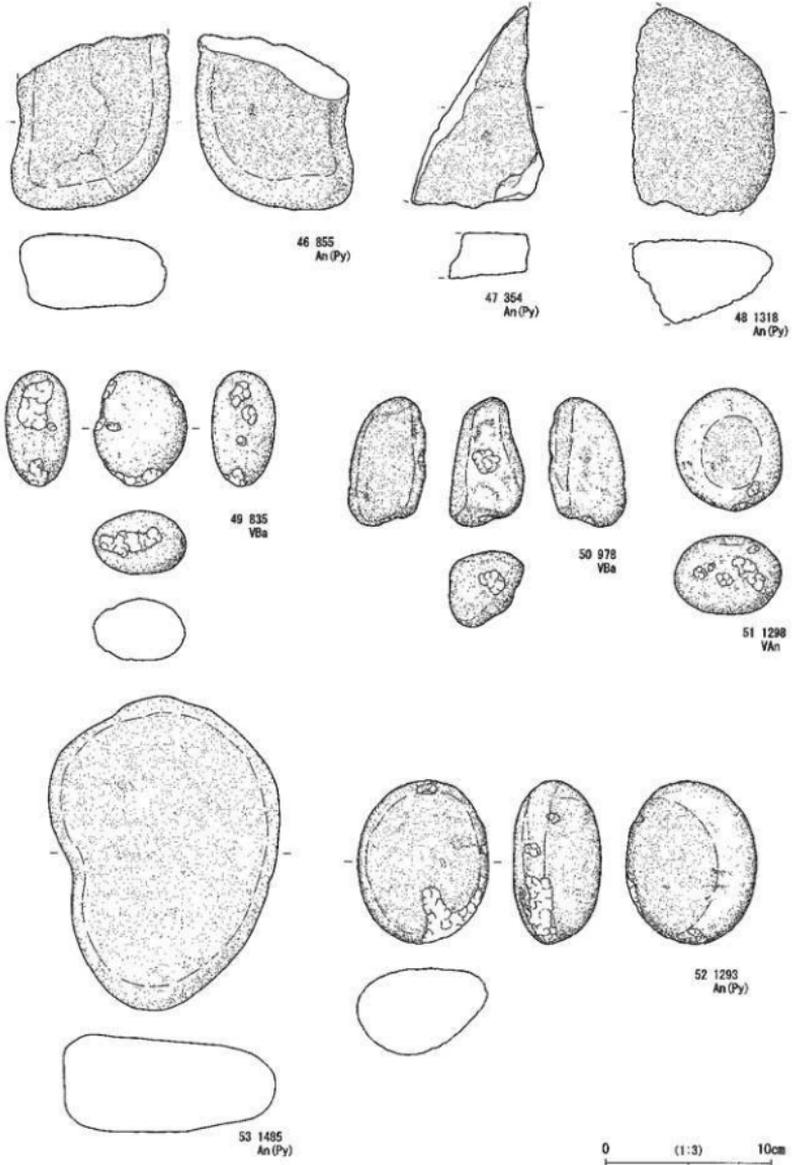
42 1375
Ba



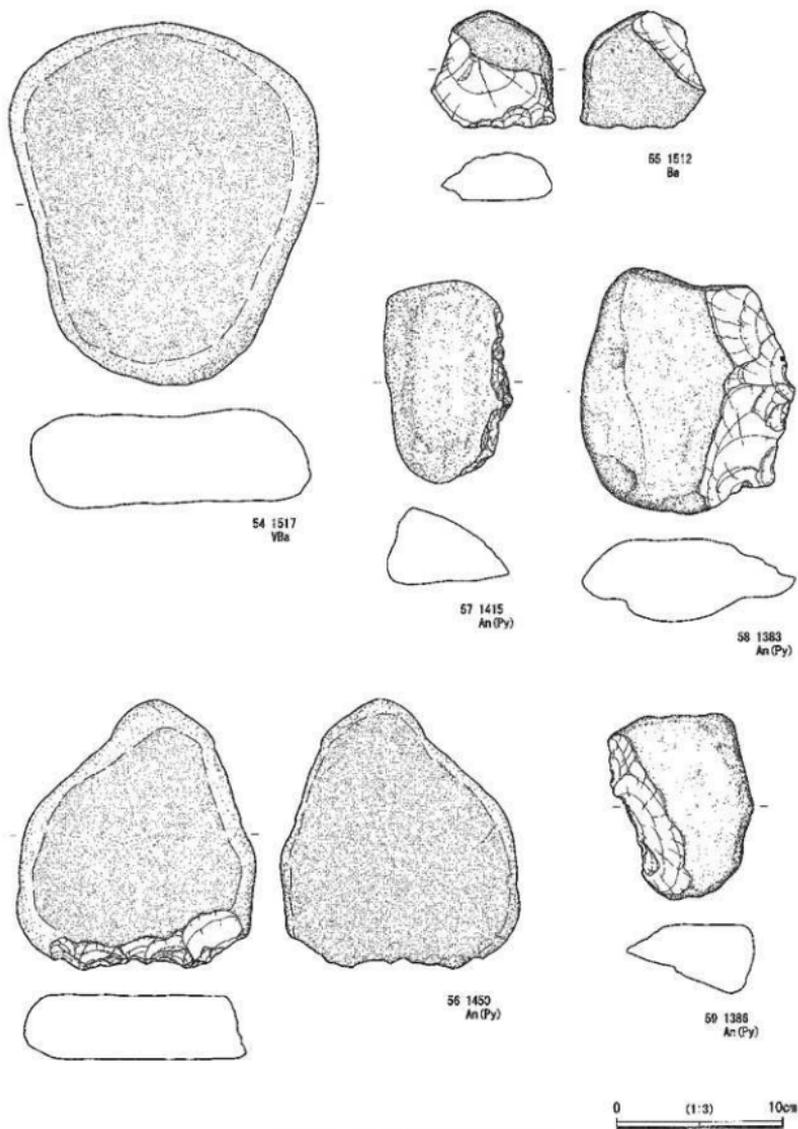
45 209
Ba

0 (1:3) 10cm

第 61 圖 縄文時代石器突刺圖 (6)



第 62 圖 縄文時代石器実測圖 (7)



第 63 図 縄文時代石器実測図 (8)

輝石安山岩製の扁平な礫の一面に磨り面をもつもので、台石と思われる。54は、同じく扁平な礫の一面に磨り面をもつもので、磨り面はやや内側に凹んでいる。石材は、多孔質玄武岩である。

礫器 (第63図 55～59)

やや扁平な礫岩の縁辺部に連続した剥離による刃部を持つものを礫器とした。55～59は、いずれも扁平な礫の側縁に剥離があるもので、剥離には急傾斜のもの(56、57)と、やや緩傾斜のもの(55、58、59)がある。56は、表裏に磨り面を持つ。磨石を転用したものかと思われる。石材は、55が玄武岩、56～59は輝石安山岩である。

表7 石器計測表

図録番号	遺物番号	器種	部位	グリッド・透視	石材	用途地	質量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)
56-9	997	石鏃	KJ	E-4	Ob	SND	0.43	1.50	1.50	0.30	-89935.560	35576.418	278.607
56-10	998	石鏃	KJ	D-3	Ob	K206	0.51	0.90	0.65	0.32	-89944.709	35569.238	278.334
56-11	999	石鏃	AN	E-4	Ob	SND	0.23	1.60	0.60	0.20	-89934.547	35579.381	278.448
56-12	134	石鏃	FK	F-6	Ob	K205	0.60	1.65	1.70	0.40	-89922.619	35590.515	271.402
56-13	1467	石鏃	SBG	H-3	Ob	SND	0.85	2.13	1.70	0.40	-88843.682	35565.719	251.226
56-14	1001	石鏃	KJ	D-3	Ob	K200	2.03	2.70	2.10	0.51	-89948.949	35568.939	278.974
56-15	719	石鏃	AN	E-4	Ob	SND	1.09	2.80	2.00	0.31	-88837.420	35577.029	278.973
56-16	1518	石鏃	AN-ZN	R-5	Ob	AKT	1.37	2.20	2.20	0.40	-89805.433	35585.798	241.831
56-17	998	石鏃	KJ	D-3	Ob	SND	1.84	2.30	1.60	0.90	-89944.398	35568.158	278.217
56-18	570	楔形石鏃	KJ	D-4	Ob	SND	4.27	2.85	1.80	0.95	-89954.661	35572.225	277.842
56-19	1393	両面石鏃	FK	E-3	Ob	K208	1.23	1.92	1.50	0.65	-89937.745	35561.915	278.783
56-20	1336	石鏃	FK	E-4	Ob	SND	2.25	1.52	1.85	0.9	-89953.380	35571.739	277.821
56-21	1021	鏃頭	KJ	D-3	Nor		9.75	3.75	3.30	0.75	-89944.524	35566.320	278.153
57-22	1000	石鏃	KJ	D-3	Ob	SN	27.39	4.60	6.20	0.80	-89945.320	35567.483	278.190
57-23	1422	附節	FB	D-3	Nor		28.82	6.90	3.95	1.35	-89944.450	35569.090	276.817
58-24	906	打製石片	AN	1-7	An(Py)		157.89	12.55	5.50	1.50	-89855.838	35494.747	258.992
58-25	986	打製石片	AN	1-7	GS	丹沢	236.81	16.90	5.30	2.55	-89896.831	35600.817	267.368
58-26	983	打製石片	擦肌		An(Py)		112.5	10.70	4.80	1.75			
58-27	135	打製石片	AN	H-7	An(Py)		78.57	16.00	4.00	1.60	-89905.244	35602.106	261.829
58-28	1475	打製石片	KOP	H-3	Nor		82.6	6.70	5.60	1.75	-89844.577	35568.474	251.713
58-29	835	打製石片	KOP	O-4	GS		19.58	4.50	4.70	0.90	-89951.261	35570.096	278.826
58-30	987	打製石片	AN	1-7	GT	丹沢	168.70	14.40	6.10	1.90	-89896.493	35608.665	257.399
59-31	718	打製石片	AN	E-4	An(Py)		43.8	6.50	5.15	1.20	-89899.197	35572.585	278.685
59-32	448	打製石片	褐色土層	D-3	An(Py)		10.41	4.45	3.00	0.70	-89943.446	35564.022	278.130
59-33	429	打製石片	褐色土層	E-4	An(Py)		523.77	16.95	7.00	4.85	-89896.429	35575.111	278.029
60-34	419	打製石片	褐色土層	E-4	An(Py)		252.88	12.50	9.20	1.70	-89903.592	35576.057	278.909
60-35	461	打製石片	FB	1-7	An(Py)		99.13	8.20	6.20	1.30	-89880.035	35604.180	257.455
60-36	732	磨石	AN	D-3	YBa		369.42	10.90	5.90	4.90	-89942.380	35583.914	278.885
60-37	501	磨石	KOP	E-3	An(Py)		1810	17.70	9.60	8.25	-89920.941	35591.234	280.212
60-38	836	磨石	AN	E-3	An(Py)		330	12.80	5.30	3.90	-89928.470	35593.953	278.765
61-38	1500	磨石	KJ	D-3	GS		600	10.10	9.10	4.65	-89946.680	35586.669	278.200
61-40	725	磨石	AN	D-3	An(Py)		710	11.25	9.80	5.80	-89941.451	35593.044	278.804
61-41	1430	磨石	FB	E-4	An(Py)		600	16.10	9.00	4.40	-89939.706	35592.548	278.476
61-42	1275	磨石	FK	E-3	Ba		740	10.30	9.30	5.35	-89922.762	35583.062	278.130
61-43	482	磨石	KOP	O-4	An(Py)		590	10.45	9.30	4.70	-89953.521	35575.224	278.687
61-44	1487	磨石	S50	H-3	An(Py)		403.7	8.75	7.70	5.20	-89840.611	35586.556	240.831
61-45	209	磨石	AN	F-6	Ba		770	11.70	9.85	5.40	-89921.296	35596.305	268.219
62-46	865	磨石	AN	D-3	An(Py)		630	10.55	9.80	4.65	-89945.789	35586.804	278.816
62-47	354	磨石	AN	1-5	An(Py)		310	12.85	8.10	2.85	-89899.332	35599.913	261.162
62-48	1318	磨石	褐色土層	D-4	An(Py)		680	12.85	5.70	5.20	-89942.872	35577.481	278.543
62-49	836	磨石	AN	D-4	YBa		170	7.10	5.85	3.90	-89949.013	35571.686	278.451
62-50	978	磨石	3層	1号黄土遺構	YBa		190	9.00	4.35	4.35	-89952.785	35571.330	277.951
62-51	1286	磨石	KJ	D-3	YBa		280	7.55	6.55	4.80	-89945.737	35586.102	278.224
62-52	1283	磨石	KJ	O-4	An(Py)		570	10.10	8.00	5.00	-89951.831	35572.417	278.009
62-53	1485	台石	KOP	O-4	An(Py)		2198.5	18.35	14.00	6.10	-89934.345	35619.596	280.182
63-54	1517	台石	KOP	H-4	YBa		3481.5	22.35	18.85	5.70	-88830.875	35578.564	254.371
63-56	1512	磨石	1層	10号土坑	Ba		186	7.80	7.20	3.30	-89853.169	35575.081	247.888
63-56	1450	磨石	FB	E-4	An(Py)		1540	16.60	14.75	14.00	-89939.036	35576.943	278.291
63-57	1415	磨石	FK	F-2	An(Py)		600	12.60	7.80	4.75	-89929.538	35585.245	278.540
63-58	1303	磨石	FK	D-4	An(Py)		1320	15.35	13.16	6.00	-89943.493	35572.002	278.131
63-59	1388	磨石	FB	E-4	An(Py)		510	11.40	8.80	4.20	-89934.378	35572.424	278.613

第V章 中世以降

第1節 中世以降の概要

本章では、中・近世および近現代に属すると思われる遺構をまとめて記述する。中世～近世に属すると思われる遺構は、本調査Ⅰ期で土坑1基（1号土坑）、確認調査Ⅱ期では土坑1基（8号土坑）、ピット1基（P1）をそれぞれ検出した。検出面は、1号土坑が新期スコリア層面、8号土坑がYLM層面、1号ピットが新期スコリア層面で検出している。また、建設年は不明だが昭和30年代まで木材切り出し用に使用していた道路遺構（第65図）を1条調査した。

第2節 遺構（第64図）

1号土坑（第67図）

確認調査Ⅰ期のテストピット（TP6）の新期スコリア層面で検出した。本遺跡の主体部が位置する尾根の東側谷部の、急斜面に立地する。いわゆる中世～近世の円形土坑と思われる。規模は平面が長軸1.27m、短軸1.26m、底面は長軸1.02m、短軸0.98m、深さは0.4mである。壁の立ち上がりは、西南側は垂直に近いが、それ以外は緩やかである。底面は平坦である。覆土は単層だが人為的な埋戻し上の可能性が高い。出土遺物はない。

8号土坑（第67図）

確認調査Ⅱ期のテストピット（TP11）のYLM層面で検出した。遺構は本道跡の主体部が位置する尾根上の平坦部に立地する。平面形は隅丸長方形で規模は長軸1.41m、短軸0.77mである。壁はややオーバーハングして立ち上がる。底面にはやや凹みがある。覆土は黒色土が主体で、これにYLU層土、YLM層土が混じる。覆土内から10cm大の自然礫が4点出土している。覆土の状況から近世以降の遺構と判断した。

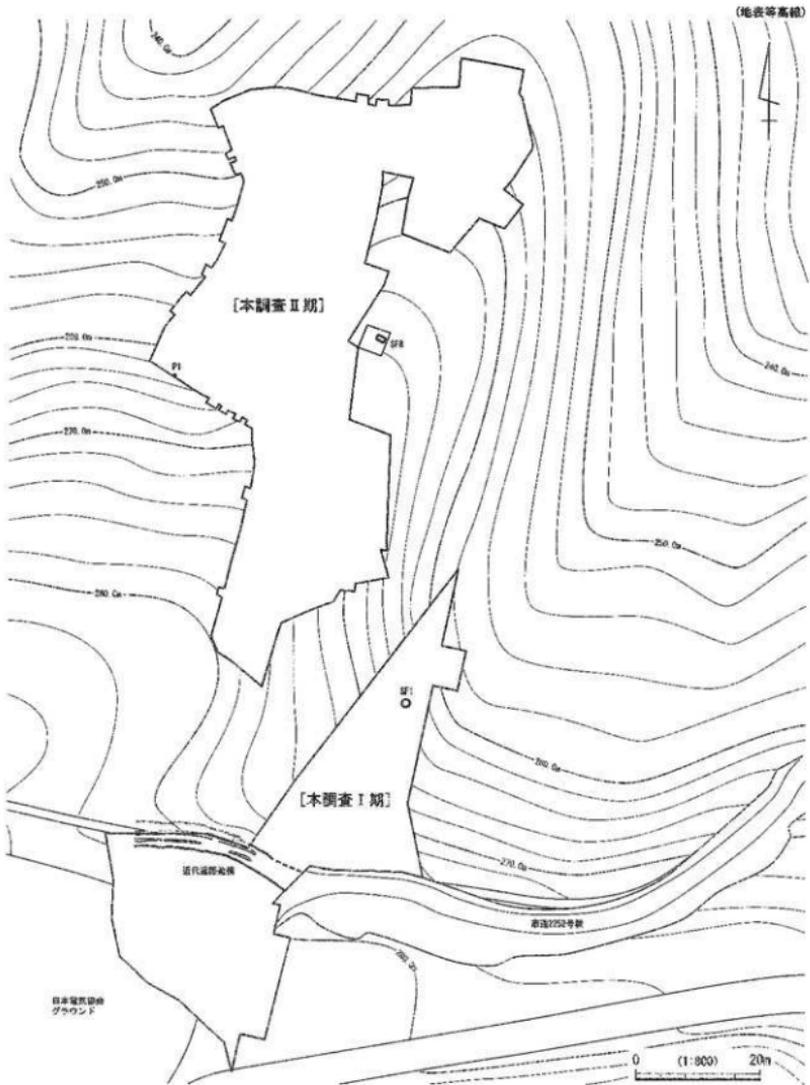
1号ピット（第67図）

確認調査Ⅱ期のテストピット（TP13）の南西隅部の新期スコリア層面で検出した。平面形は楕円形で長軸0.36m、短軸0.33m、深さ0.41mを測る。覆土は黒色土に新期スコリアがブロック状に混じる。覆土の状況から近世以降の遺構と判断した。

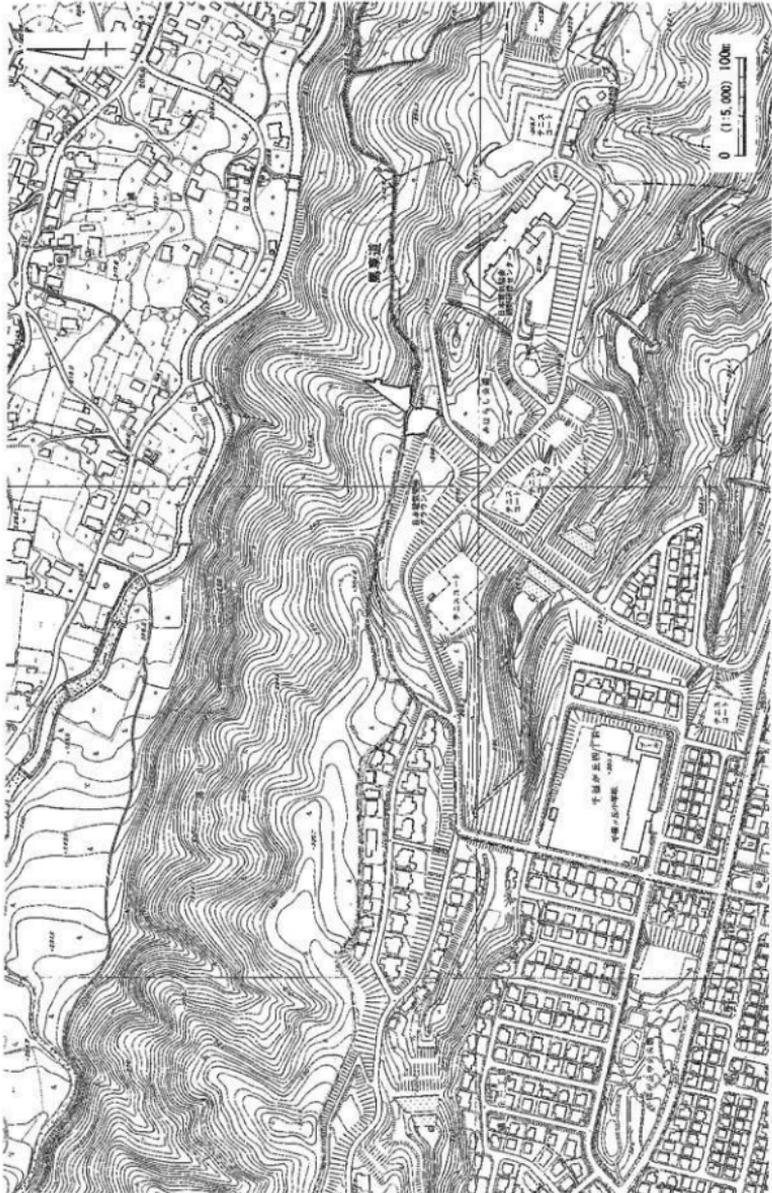
道路遺構（第65・66図）

本調査Ⅰ期調査区を横断する形で敷設された市道2252号線の下から道路遺構が検出された。尾根を逆台形状に掘削して道路を構築している。この道路跡は現況で切り通し状に確認でき、調査区の外へと伸びている（第65・66図）。路面には馬車の轍と考えられる浅い溝が側溝状に残されている。路面は北側に傾斜しており、多数の蹄鉄跡が残されている。法面の頂部から路面までの深さは約2.5mで道幅は法の上面で4m、下面で1.7m、轍の幅は0.9m（内輪）前後である。道路の東側は北側の道路法面が一部失われており、点線で表記した（第65図）。また、第65図の中ほどに長軸3.4m、短軸1.2m、深さ1.1mの長方形の土坑がある。覆土の状況から現代のものとして判断したが性格は不明である。道路は調査区内に27mに亘って検出した。この道路は、裾野市葛山地区中村の集落から大久保川に平行して敷設されたもので、葛山や千福周辺では同様な道路が散見され、本道路を含めて地図上（第66図）に破線で示さ

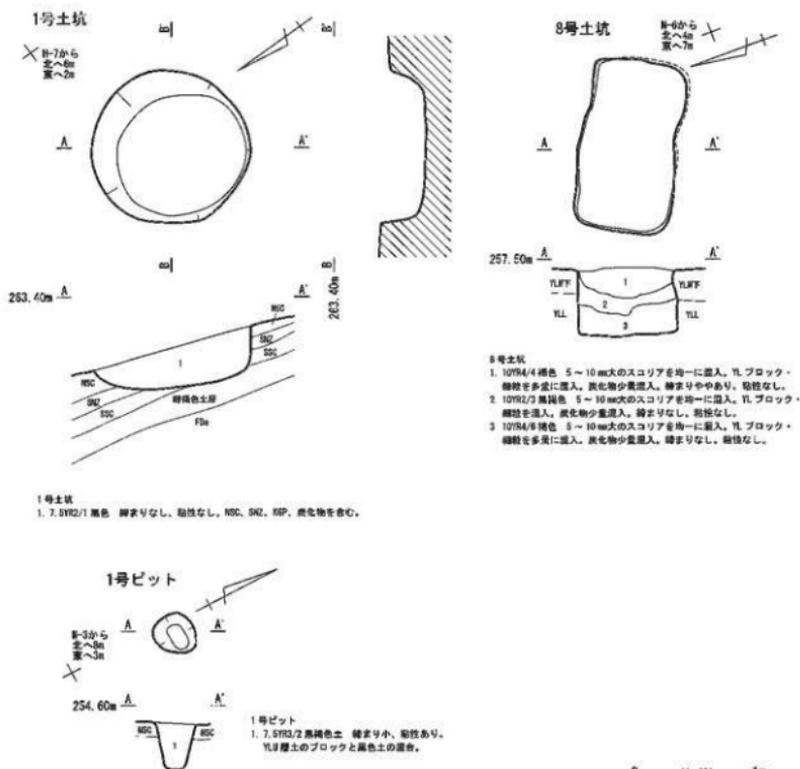
れている。馬車による木材運搬用道路として昭和30年頃まで使用していたとの地元の方からの聞き取りがある。



第64図 中世以降の遺構配置図



第66圖 道路圖



第 67 図 中世以降 土坑・ピット実測図

表 8-1 遺構計測表 (土坑)

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形状	主軸方位	新旧関係	±		下		備 考
							最大長 (m)	最大幅 (m)	最大長 (m)	最大幅 (m)	
67	1号	H-7	NSC	円形	北北東	なし	1.27	1.26	1.02	0.98	0.40
67	8号	H-6	YL	概丸長方形	西北西	なし	1.41	0.77	1.4	0.72	0.55

表 8-2 遺構計測表 (近代道路)

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	構築時期	平面形状	主軸方位	新旧関係	最大長 (m)	最大幅 (m)	最大深 (m)	備 考
65	1号	E-4, S, F2-4	表土	近代	溝状	東西一南北	なし	27	4	2.5	系の断面跡多数あり。

表 8-3 遺構計測表 (ピット)

図面番号	遺構番号	グリッド	検出層位	平面形状	主軸方位	新旧関係	最大長 (m)	最大幅 (m)	最大深 (m)
67	1号	B-3	NSC	不規則円形	なし	なし	0.36	0.33	0.41

第VI章 調査の成果

第1節 旧石器時代

本遺跡出土の石器点数はわずか8点であり、これをもって遺跡の性格ならびに石器組成などの特徴を積極的に述べるにはやや難がある。第III章において、本遺跡出土の石器が高尾編年の4期後半の所産であるとすでに述べたところであるが、それを踏まえながら若干補足しておきたい。

石器組成はこの期の特徴であるナイフ形石器と石槍からなると思われる。旧石器分布図（第10図）をみると、2の石槍が北側斜面に隠れて出土している以外は全て近位置にあり、小規模な石器ブロックを形成していると云って良い。このブロックに属する石槍（1.3）は大きな剥離度を残し、側縁をやや急角度で調整する。石材を異にしている（1の石材は天城柏峠群の黒曜石、3はガラス質黒色安山岩）が、形状は良く類似している。この類例としては、前嶋秀張（1995）により第4期c段階末の様相を示す石器として分類された、山中城三ノ丸第1地点第II文化層出土の石槍がある。これに対し2（YLM層出土）の石槍は、両端を折断しているため、やや正確さに欠けるが、中央がやや幅広く両端が鋭角に窄まる形と思われる。前掲前嶋論文で第4期b段階に比定された山中城三ノ丸第1地点第III文化層の石槍に類似するものと思われる。石材は黒曜石で箱根畑宿群と推定されている。

次にナイフ形石器であるが、5の基部調整が入る小型ナイフと、6の基部側を欠損して全体像は不明ながら二側縁加工が施されたナイフが、同一ブロック内で検出されている。双方の石器は、検出層位が異なるが発掘深度は僅かなレベル差でしかなく、同時期としても良いものと判断される。5の黒曜石産地は、諏訪屋ヶ台群、6の黒曜石産地は、1の石槍と同じ天城柏峠群と推定されている。

他の石器としては、使用痕のある剥片（U・F）の類があるだけで、台石や敲石類は見られない。他に剥片が3点出土している。石器については他から持ち込まれたものと考えられる。

第2節 縄文時代

1. 遺構

土坑

土坑については、陥穴と考えられる土坑群の存在が特徴的である。関東・東北地方に比べ少ないながら愛鷹・箱根山麓でも陥穴と思われる土坑が多く検出されている。主なものをあげると駿東郡長泉町では西願寺遺跡（平林他 1978）、野台遺跡（平川他 1986）、向田A遺跡（富樫他 2007）、柏窪A遺跡（三好他 2009）、柏窪B遺跡（望月他 2003）、桜畑上遺跡（伊藤他 2009）、梅ノ木沢遺跡（笹原千賀子他 2008）、裾野市では棚返遺跡（壬生他 2008）、佛ヶ尾遺跡（野田他 2007）、塚松遺跡（齋科他 2008）。三島市では観音洞B遺跡（池谷初恵他 1994）、天台B遺跡（池谷初恵他 1998）、下原遺跡（小野千賀子他 1995）、八田原遺跡（笹原他 1997）。沼津市では広合遺跡（高尾他 1987）（池谷信之他 1990）、元野遺跡（柴田他 2008）、楢出遺跡（羽二生他 1996・1997）、佐野片平山G遺跡（小野真一他 2002）、清水柳北遺跡（関野他 1989・1990）などがあげられる。このうち陥穴が多く検出された遺跡は、棚返遺跡（107基）、塚松遺跡（74基）、梅ノ木沢遺跡（63基）、楢出遺跡（47基）、向田A遺跡（報告書の記載から判断し陥穴と思われるもの24基）、佐野片山G遺跡（15基）、桜畑上遺跡（報

告書の記載から陥穴と判断できる土坑 10 基)である。これらの遺跡での土坑の立地は、大部分が南斜面もしくは尾根上の平坦部の端部に位置するものが多い。土坑の配置について、列を成すと報告されているものに柏屋 A 遺跡がある。竪穴住居跡、焼土、集石などの遺構群が位置する平坦面からやや西に離れた台地縁辺部と、集落から 120 m ほど西に離れた地点の南に傾斜する沢から尾根上に登る斜面で検出されている。土坑の平面形はいずれも隅丸長方形で規模もほぼ同じであることから同一時期の遺構の可能性が高い。

塚松遺跡では、Y 層上面の褐色土で検出され、覆土が F B 層土を主体とする土坑 (I 群) と、K U 層下部もしくは F B 層上面で検出され、覆土が K U 層土を主体とするものや、A N 層以上の新期スコリア等を含む土坑 (II 群) に分類している。I 群土坑は南北方向の斜面で、等高線に平行する土坑配置 2 列、直交する配置を 1 列、II 群土坑では、等高線に対し斜交する土坑の配列を 3 列報告している。

梅ノ木沢遺跡では土坑の大部分が遺跡の平坦部と、さらに上位に位置する台地上に続く斜面部に位置している。陥穴の時期は特定されていないが、報告書では「逆茂木状のピットを底面に持つものは長楕円形から方形の底部を持ち、台地の張り出し部縁辺に並ぶように分布し、ピットを持たない土坑は大きさ平面形状にバラつきがあり、異なる機能を持つものが混在している」と記述している。

この両遺跡を含めた多くの遺跡間で土坑配置には類似性が覗える。土坑配置について大森司統 (2007) は、秋田県で集成を行った磯村 享 (1990) の説を紹介している。それによると「鹿やイノシシは平坦部が丘に移行する斜面の下端や台地の縁辺を通ることが多いためテラス部分に畏を仕掛けた」とする。さらに、千葉徳爾 (1975) の「追い立てられた鹿は、廃絶した集落のような開地を逃げ道として利用する」という説を示している。また、自身も狩猟活動の見学体験から、動物の歩行跡が藪や灌木を避ける傾向にあり、開地や人間利用跡を歩行する例を述べている。土坑の配置については、狩猟対象動物の種類、追い込み氣が待ち受けの畏氣なのかにより異なることを、多くの研究者が指摘している。しかし、いずれも仮説の段階にとどまっているのが現状である。

本遺跡の土坑の配置と周辺の地形については第 68 図に示した。地形図から現在、日本電気協会グラウンドとなっているところが、尾根上の平坦部であった。また、この部分に縄文時代の集落があった可能性が考えられよう。本調査 I 期調査区で出土した土器・石器の集中がこの平坦部の東端に当たることからその可能性が高いといえる。本調査 II 期調査区の土坑の配置はかなりランダムであるが、尾根中央部の上から西側斜面にかけて集中しており、低地部に流れる大久保川につながる谷筋方向を意識して設置された可能性が高い。「ヌタ場」を必要とするイノシシが急斜面をまっすぐ登らず、斜面を折り返ししながら尾根から沢へ行き来する性質があることが指摘されている。本遺跡の土坑の分布から、「水場」「ヌタ場」へ向かうルート上に設置された畏である陥穴という想定もできる。

土坑の構築時期については、近隣地区のほとんどの遺跡で、時期を特定できていないのが現状である。この地域で構築年代を想定している僅かな例として、以下の事例がある。植出遺跡では、土坑 T P 19 の覆土下層に鬼界アカホヤ火山灰が含まれることから、構築時期を早期末以前としている。梅ノ木沢遺跡では、II 群として分類された土坑覆土に F B 層土を含むことから、縄文早期以降と報告している。さらに柘野市榎返遺跡では、II 群 A 類土坑がカワゴ平パミスを含む暗褐色土層を掘り込む形で構築され、砂沢スコリアを含む層に被覆されていたとの報告例がある。広域火山灰の降灰年代を参考にして、その構築時期の幅を推定している。

本遺跡については、第 IV 章第 2 節で記述したように、遺構の掘り込み面が、K G P 層下及び K G P 中位からのものと、A N ~ Z N 層 (分層可能であった本調査 I 期検出のものでは、K U 層及び F B 層から掘り込まれている例もある。) からのものがある。土坑内からの遺物出土はなく、また覆土についても明確に指標となるものはない。しかし大多数の遺構は覆土の状況から A N ~ Z N 層中から掘り込まれた



第 68 図 陥穴と周辺の地形図

ものと考えられる。

焼土遺構

土坑群と同一遺跡で検出される例が、元野遺跡、向田A遺跡、桜畑上遺跡、棚返遺跡などにみられる。焼土遺構F P 1は、桜畑上遺跡や棚返遺跡のものと同様に、土坑群から離れて検出されるという点においても近似性がある。向田A遺跡では、「落し穴は谷、焼土土坑は丘陵上に集中しており、地形による活動域の区別がみられる。」としており、本遺跡でも遺物の集中域がこのF P 1の検出位置と重なることから、なんらかの生活関連遺構と考えておきたい。西側斜面部で土坑群に重なって検出されたF P 2については、AN～ZN層中で検出されたもので、やや大型の掘り込みを伴う点でF P 1とは異なっており、その位置も土坑群内にあるところから、本遺跡のF P 1や桜畑上遺跡や棚返遺跡、向田A遺跡の例とは性格が異なるのではないかと思われる。なお、類型としては、八田原遺跡において大型で不整円形の窪み内に焼土が伴う例が報告されている。

2. 遺物

土器

分類や編年の位置づけについては、第IV章第2節において詳述したので、ここではあらためて触れない。以下第IV章で言及しなかった若干の点についてのみ触れる。

土器の分布状況を、縄文前期（第49図）と縄文中、後期（第50図）に分けて示した。これによると土器の分布範囲は前期と中、後期ではまとまる位置に微妙なずれが見て取れる。前期の土器はD-3、4グリッド、中、後期の土器はやや北にずれてE-3、4、D-3、4グリッドでまとまっている。

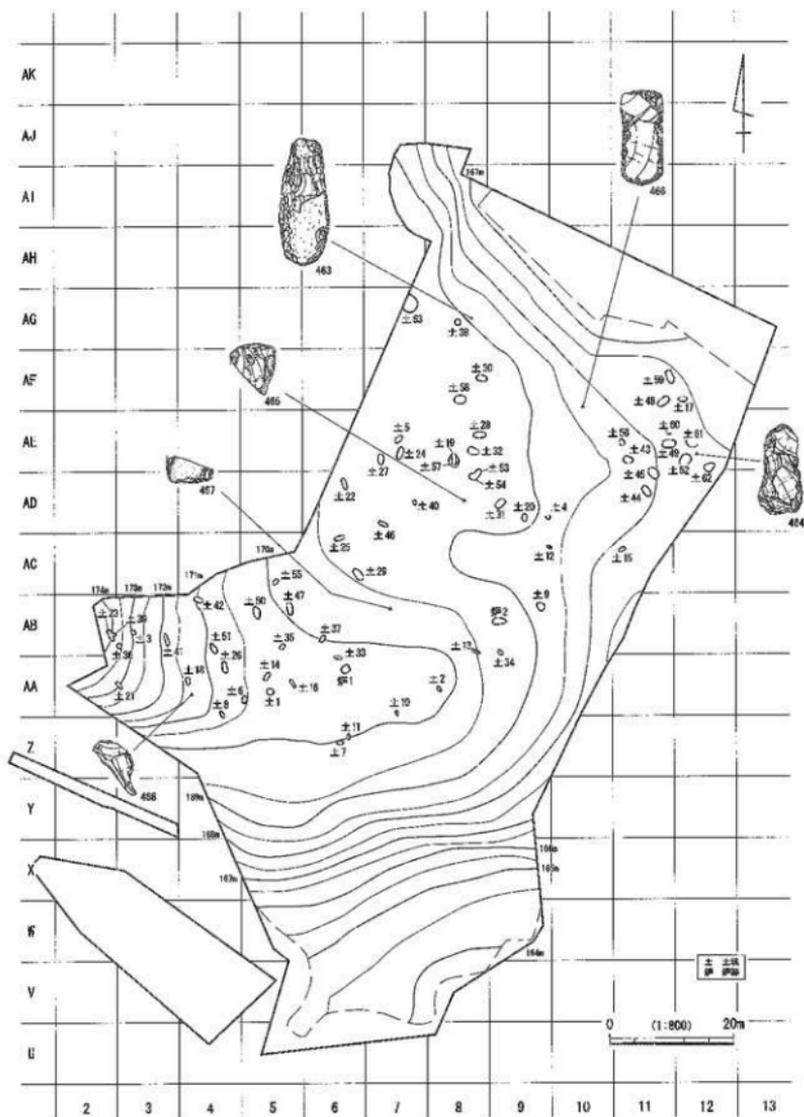
次に、炭化物が付着していたため、AMS法による年代測定を行なった土器について述べたい。対象試料は4点で、図化したのはI群3類に分類した第53図50の土器のみである（試料番号12）。試料番号8、9は無紋だが、整形や胎土の特徴から後期の土器と思われる。11は底部に近い胴部片で、無紋だが胎土の特徴はI群土器に類似する。試料No.8、9の¹⁴C年代は3890 ± 40yr BPで後期初頭、11は、5100 ± 40yr BP、12は5020 ± 40yr BPで前期後半の年代と報告された。これらの数値は、他遺跡で行なわれた当該時期のAMS法による測定データと近似している（附編参照）。

石器

機能別分類の構成比率は、狩猟具（石鏃）15.6%、加工・生産具（石錐、搔器、削器、石匙、両極石器、楔形石器、磨石・台石類、礮器）58.8%、上木具（打製石斧）23.5%、その他1.9%となる。

ここでは遺跡と石器の関係を少しみておきたい。第55図で石器の分布を示した。これによると狩猟具、加工・生産具の類は本調査I期調査区の南西隅部に集中しており、土器の分布域とも重なっている。ただし、この部分で検出した遺構は焼土遺構が1基、土坑2基だけなので、この部分が生活領域の中心部とは考えにくい。一方、この地点から北東方向に60mほど離れた急斜面の地点に、径15mの範囲で打製石斧が6点集中して出土しているのが注目される。この打製石斧が土掘り具としての機能を持つとすると、陥穴群との関連性を想定することが可能である。

同じ掘野市で104基の陥穴群が検出された棚返遺跡では、遺構配置図に打製石斧の分布（第69図）を示している。これによると、陥穴群内に打製石斧が分布しており、出土打製石斧31点中24点が図示されている。図示されたもののうち7点が接合関係を持つもので、土坑分布域で破損遺棄されたものと考えられる。また、63基の陥穴群が検出された長泉町梅ノ木沢遺跡では、打製石斧の数こそ少ないが、同じように土坑が配置されている部分に打製石斧の出土がみられる（第70図）。性急に結論を出す必要はないが、陥穴の土掘り具は今後の検討課題のひとつといえよう。



第70図 梅ノ木沢遺跡の打製石斧分布図 ((征原他 2008) の第92図を改編)

第3節 中世以降

本遺跡で検出した中世以降の遺構は、道路跡を除けば、土坑2基とピット1基のみである。出土遺物もないことからその時代が特定できるものではなく、覆土や形状からその所属時期を推定したものである。所属時期を近代とし、「馬車路」と地元で呼称されている木材運搬道路跡は、馬車の轍や馬の蹄鉄跡が残され、この地域の林業における運搬形態を知りうる近代産業遺構として評価され記録されるべきものである。ちなみに1915(大正4)年版製の2万5千分の1裾野図幅(大日本帝國陸地測量部)では、この馬車道は記載されていない。そこから、この地図作成以降の建設であったことも想定できる。

引用・参考文献

- 青嶋邦夫 2002 『縄文時代の陥し穴について～猿蓑山麓・若根山麓の遺跡から～』『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第9号(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 池谷信之 2009 『編環石考古学』新泉社
- 池谷信之他 1990 『広合遺跡(b・c・d区)・広合南遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会調査報告書 第49集
- 池谷初恵他 1994 『五輪・観音洞・元山中・猿洞遺跡Ⅰ、Ⅱ』三島市教育委員会
- 池谷初恵他 1998 『中村分遺跡 天台B遺跡 台崎C遺跡』三島市教育委員会
- 職村 亨他 1990 『東北橋本自動車道発掘調査報告書VI 石神遺跡』秋田県埋蔵文化財報告書 191集
- 伊藤和彦他 2009 『桜畑上遺跡』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所報告 第208集
- 井上輝夫・勝又 淳 1998 『宮沢内畑遺跡 調査報告』裾野市教育委員会
- 今村容爾 1973 『霧ヶ丘遺跡の土壌群に関する考察Ⅰ』『霧ヶ丘 霧ヶ丘遺跡調査団』
- 大森司 統 2007 『北日本の陥し穴』『縄文時代の考古学5 なりわい 食料生産の技術』同成社
- 小田静雄 2003 『日本の旧石器文化』同成社
- 小野真一他 2002 『佐野片山遺跡群』三島市教育委員会他
- 小野千賀子他 1995 『下原遺跡Ⅰ』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第64集
- 織笠 昭 2005 『石器文化の研究』新泉社
- 金持純司 2002 『多摩ニュータウン遺跡群における早期後半の遺構と遺物』『研究論集Ⅸ』東京都埋蔵文化財センター
- 菊池 実 1986 『十二原Ⅱ遺跡検出の陥し穴群について』『三夜沢遺跡・十二原Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団他
- 小菅将夫 2004 『両面加工尖頭器の製作技術』『石器作りの実験考古学』学生社
- 笹原千賀子他 1997 『八田原遺跡』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第87集
- 笹原千賀子他 2008 『梅ノ木沢遺跡Ⅰ』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第194集
- 佐藤宏之 1999 『遺跡研究 陥し穴』『縄文時代』10 第3分冊 縄文時代文化研究会
- 佐藤宏之 2000 『北方狩猟民の民族考古学』北海道出版企画センター
- 柴田亮平他 2008 『元野遺跡』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所報告 第189集
- 白石浩之 1989 『旧石器時代の石輪』東京大学出版会
- 裾野市史編さん専門委員会 2000 『裾野市史』第8巻 通史編Ⅰ 裾野市
- 裾野市史編さん専門委員会 2001 『裾野市史』第9巻 通史編Ⅱ 裾野市
- 朝野哲夫他 1989 『清水柳北遺跡発掘調査報告書 その1』発掘調査報告書第47集 沼津市
- 朝野哲夫他 1990 『清水柳北遺跡発掘調査報告書 その2』発掘調査報告書第48集 沼津市
- 大工原 稔 2004 『打製石斧の製作技術について』『石器作りの実験考古学』学生社
- 高尾好之 2006 『東海地方の地域編年』『旧石器時代の地域編年の研究』同成社
- 高尾好之他 1987 『広合遺跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書 第41集
- 千葉徳爾 1975 『狩野伝承』法政大学出版局

- 宮極孝志他 2007 『向田A遺跡』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所報告 第178集
- 中村信博 2007 「関東地方の陥し穴墓」『縄文時代の考古学5 なりわい 食料生産の技術』同成社
- 野出正人他 2007 『佛ヶ尾遺跡』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第176集
- 羽二生保他 1996 『北神馬上手遺跡Ⅰ』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第74集
- 羽二生保他 1997 『北神馬土手遺跡Ⅱ』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第89集
- 平川昭夫他 1986 『中尾・イラウネ・野台』長泉町教育委員会他
- 平林得信他 1978 『西願寺遺跡(A地区)・長久保城址(二の丸)』静岡県長泉町他
- 前嶋秀根 1995 「第4期・5期の石器群」『静岡県考古学会シンポジウムⅩ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集』静岡県考古学会編
- 御堂島 正 2005 『石器使用痕の研究』同成社
- 壬生亮輔他 2008 『橋返遺跡・今里遺跡』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第191集
- 三好元樹他 2009 『大岡元長権線関連遺跡Ⅲ』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第205集
- 望月由佳子他 2003 『大岡元長権線関連遺跡Ⅰ』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第138集
- 吉田政行 2004 『両極剥離技術と楔形石器』『石器作りの実験考古学』学生社
- 渡瀬 治他 1989 『富沢原・千福馬場浜・大畑・桃園入ノ洞』裾野市教育委員会他
- 葛科泰裕他 2008 『裾野市富沢・桃園の遺跡群』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所報告 第193集

附編 自然科学分析

第二東名千福南山Ⅲ西遺跡出土黒曜石産地推定結果

沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦

1. 分析法 エネルギー分散蛍光X線分析 (EDX)
2. 分析装置 セイコーインスツルメンツ桌上型蛍光X線分析計 SEA-2110i.
3. 産地推定法

(1) 得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表す。

指標 $Sum=Rb+Sr+Y+Zr$ とする。

Rb 分率 = Rb/Sum Sr 分率 = Sr/Sum Zr 分率 = Zr/Sum $Mn \times 100/Fe \log (Fe/K)$

- (2) 産地のシートに挙げた黒曜石産地から原石を採集し、測定する。
- (3) 測定結果から上記の指標を算出する。
- (4) 以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。
- (5) 出土遺物について下記の二つの方法で産地推定を行う。

① 判別図法

用いる指標：横軸：Rb 分率、縦軸：Mn/Fe 横軸：Sr 分率、縦軸： $\log (Fe/K)$

推定方法：遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。指標を図にプロットする。

重なった判別群を推定結果とする。

② 判別分析 (推定結果表参照)

用いる指標：算出された指標全て

推定方法：判別図法では遺跡出土試料と重なっている判別群を推定結果とする。

この判別群は試料と判別図上で2次元に最も距離に近い。

判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。

試料と最も距離 (マハラノビス距離) が近い判別群を推定結果とする。

この距離から、各判別群に属する確率を計算する。

4. 出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表

判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究年度 研究番号	分析番号	遺物番号	推定産地
2009-06638	SPW-1	1423	天城峠峠群
2009-06639	SPW-2	1359	沼津湯島群
2009-06640	SPW-3	1435	沼津湯島群
2009-06641	SPW-4	1424	天城峠峠群
2009-06642	SPW-5	1439	沼津湯島群
2009-06643	SPW-6	1372	沼津湯島群
2009-06644	SPW-7	967	沼津湯島群
2009-06645	SPW-8	968	沼津湯島群
2009-06646	SPW-9	932	沼津湯島群
2009-06647	SPW-10	134	沼津湯島群
2009-06648	SPW-11	1487	沼津湯島群
2009-06649	SPW-12	1001	沼津湯島群
2009-06650	SPW-13	1119	沼津湯島群
2009-06651	SPW-14	1519	天城峠峠群
2009-06652	SPW-15	948	沼津湯島群
2009-06653	SPW-16	570	沼津湯島群
2009-06654	SPW-17	1392	沼津湯島群
2009-06656	SPW-18	1336	沼津湯島群

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

判別群 判別群	判別分析					
	第1候補産地	第2候補産地	第3候補産地	第4候補産地		
AGKT	AGKT	1.54	1	IKNT	123.45	0
HBLI	HBLI	6.64	1	IKNT	54.04	0
SNBD	SNBD	8.52	1	SS1Y	94.23	0
AGKT	AGKT	6.5	1	IKNT	146.61	0
NO1Y	NO1Y	4.9	0.9699	IKNT	21.76	0.0001
SNBD	SNBD	7.9	1	SS1Y	66.76	0
SNBD	SNBD	4.2	1	SS1Y	76.04	0
KZOB	KZOB	2.54	1	KZOB	53.67	0
SNBD	SNBD	9.73	1	SS1Y	76.06	0
KZOB	KZOB	4.19	1	KZOB	49.43	0
SNBD	SNBD	9.57	1	NO1Y	108.21	0
KZOB	KZOB	5.19	1	KZOB	42.63	0
SNBD	SNBD	5.64	1	NO1Y	34.67	0
AGKT	AGKT	2.36	1	IKNT	123.71	0
SNBD	SNBD	3.07	1	SS1Y	96.76	0
SNBD	SNBD	6.4	1	SS1Y	80.38	0
KZOB	KZOB	1.61	1	KZOB	56.06	0
SNBD	SNBD	4.63	1	SS1Y	120.97	0

(※中用語)

判別図判別群：判別図法によって推定された産地

判別分析：第1候補産地…判別分析により推定された産地の第1候補 第2候補産地…判別分析により推定された産地の第2候補 判別群：候補産地記号

距離：試料から候補産地までのマハラノビス距離。値が小さいほど候補産地と類似性が高い。

確率：試料が候補産地に属する確率。1に近いほど類似性が高い。

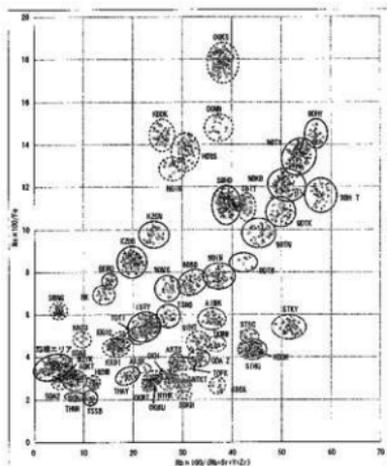


図1 中部・関東の産地・近北産地・近畿の産地・北関東の産地・近畿中央産地

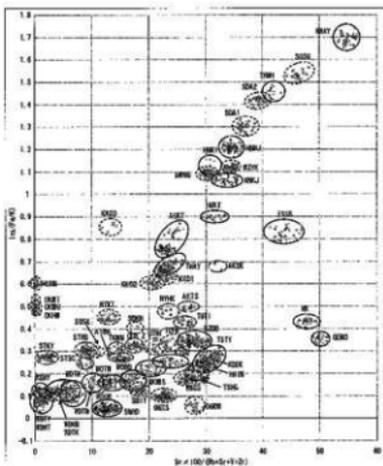


図2 中部・関東の産地・近北産地・近畿の産地・北関東の産地・近畿中央産地

千禧山頂西 (No. 148-2 地点) 出土黒曜石産地組成

エリア	別産地	記号	試料数	%	エリア	別産地	記号	試料数	%
和歌山 (和)	ブドウ沢	BUZD	0	0	北上川	折橋1群	KOZ1	0	0
	泉ヶ沢	IKMS	0	0		折橋2群	KOZ2	0	0
	高松沢	BUHM	0	0		折橋3群	KOZ3	0	0
	新居 (新)	高登ライト	MYVY	1	5.56	宮崎	清ノ倉	KZVK	0
小浜沢		MYKG	0	0	秋保1群	SOA1	0	0	
土津橋北		MYTH	0	0	秋保2群	SOA2	0	0	
土津橋南		MYTN	0	0	魚沼	横井	YOHJ	0	0
土津橋西		MYTW	0	0	塩沼	塩沼橋跡	SSZE	0	0
古峠		MYGT	0	0	小池	折橋内	KOZK	0	0
磐前	豊ヶ倉	SWPD	9	50	車ノ上野	URHT	0	0	
	赤山	TSYU	0	0	高岡	二上山	TOFK	0	0
	渡子山	TSYU	0	0	伏見	風光寺	SOVK	0	0
磐科	渡子山	TSYU	0	0	伏見	金井ニッ板	SOVK	0	0
	渡子山	TSYU	0	0	久美	OKUM	0	0	
天城	地峠1	AKGT	3	16.67	船越	峠地区	OKAT	0	0
	地峠	AKGL	1	5.56	真田	OMAD	0	0	
碓氷	黒金屋	IKMJ	0	0	白滝	8号沢	STHG	0	0
	黒岩橋	IKMT	0	0	黒滝の沢	STYU	0	0	
	穿ノ鼻	IKMY	0	0	赤石山頂	STSC	0	0	
	穿ノ鼻	IKMY	0	0	赤井川	AKIK	0	0	
神津島	忍池島	KZOS	4	22.22	金塚	AKTK	0	0	
	忍池崎	KZSK	0	0	殿戸	ADAD	0	0	
高取山	甘湯沢	THAY	0	0	十勝	TOHM	0	0	
	寺湯沢	THSM	0	0	名寄	MYNA	0	0	
新津	七巻	NTXJ	0	0	旭川	AKIS	0	0	
	七巻沢	NTMZ	0	0	新巻	AKSK	0	0	
新巻田	新山	NSYU	0	0	不明産地1	IK	0	0	
	八森山	NSHM	0	0	下島石	GEHO	0	0	
木道	出来島	KDOK	0	0	合計		18	100	
	倉ヶ崎	KDOK	0	0	不可など		0		
氷道	富士	KDSS	0	0	合計		18		
	月山	KDSS	0	0					
羽黒	今野川	MYIN	0	0					
	今野川	MYIN	0	0					

データの個数 / 別産地	AKGT	THMJ	KZOS	SWPD	MYVY	合計
黒曜石	1					2
黒曜石片			1			2
石核			1			1
石核			1			1
石核	1		3	4		8
向頭壁	1	1				2
燧石			1			1
燧石			1			1
燧石	3	1	4	9	1	18

データの個数 / 別産地	AKGT	THMJ	KZOS	SWPD	MYVY	合計
黒曜石				2		2
黒曜石片	1					1
燧石	2		1	1		3
燧石			1	1		3
燧石			2	3		5
燧石			1	1		1
燧石			2	1		3
燧石	3	1	4	9	1	18

5. 産地原石判別群一覧表 (SEIKO SEA-2110L 蛍光 X線分析装置による)

都道府県	地図 No.	エリア	判別群	原判別群	産地名	産石産地 (分析産)
北海道	1	白糠	八号沢群	SHG		赤石山山頂 (45)、八号沢露頭 (31)、八号沢 (79)、 原嶺の沢 (6)、楳加林道 (4)
	2	上士幌	三股群	STY		十三ノ沢 (16)
	3	紋別	安住群	OM2		安住 (25)、湧水ノ沢 (9)
	4	旭川	高砂台群	AKTS		高砂台 (6)、酒樽台 (5)、巻台 (5)
	5	古川	右川群	NYK		右川 (10)
	6	第十管内	須田群	STSD		須田 (8)
	7	舟形	南川群	ANK		南川 (25)、土木川 (15)
	8	空知	雲里群	TUT1		空里 (18)
	9	不逞	出来島群	KDK		出来島海岸 (34)
	10	渡辺	八雲山群	KRM		八雲山公園 (30)、六角沢 (39)、岡崎沢 (40)
秋田	11	男根	壹ヶ崎群	OKS		壹ヶ崎温泉 (37)、日本海岸 (28)
			高木群	OKM		日本海岸 (18)
山形	12	男根	月山群	HRS		月山荘前 (30)、榎野町型代沢 (16)、榎野町中沢 (18)
	13	新庄	今野川群	IKIN		今野川 (9)、大沢川 (5)
新潟	14	新潟	金山群	IKY		金山 (29)
	15	高田	岩山群	OSY		砂山牧場 (40)
栃木	16	高田 (00)	高山群	THAY	TOH1	甘海沢 (50)、櫻沢 (20)
			七ヶ沢群	THNH	TOH2	七ヶ沢 (9)、自恋の家 (9)
			高山群	NEIY	NOI1	
			小沢群	NEKB	NOI2	
			土庫橋北群	NEIK	NOI3	鹿山 (53)、小橋沢 (54)、栗屋敷 (36)
			土庫橋南群	NEIN	NOI4	尖峰ライト (37)、古峰 (59)、土庫橋北 (63)
			土庫橋南群	NEIN	NOI5	土庫橋南 (29)、土庫橋南 (88)、丁字峠 (18)
			沢野ライト群	NEHY		
			宮崎群	NEHT		
			ブドウ沢群	NEGO	OM1	ブドウ沢 (36)、ブドウ沢北岸 (18)、袈ヶ沢上 (33)、 袈ヶ沢下 (34)、高松沢 (49)
長野	17	諏訪	袈ヶ沢群	NEGS	OM2	
			高松沢群	NEGM	OM3	
山梨	18	御代	鹿ヶ崎群	SHND	KRM	鹿ヶ崎第1鉱区 (36)、鹿ヶ崎第2鉱区 (36)、 鹿ヶ台 A (35)、鹿ヶ台 B (11)、水月堂園 (30)、 水月公園 (17)、鹿ヶ崎のりこし (36)
			冷山群	TSY	ITS	冷山 (33)、真草峰 (36)、後草峰 (33)、熱ノ湯 (29)、 美し池 (4)、ハッ谷 7 (17)、ハッ谷 9 (18)、旗子池 (34)
神奈川	19	相模	旗子山群	TSHG		旗子池 (26)
			磯村山群	TSSH		磯村山 (31)、巻甲池 (8)
	20	相模	旗ノ湯群	SHAT	SHY	旗ノ湯 (34)
静岡	21	相模	旗ヶ谷群	SHVJ	SHJ	旗ヶ谷 (71)
			早川群	SHHL	SHHL	早川群 (9)
	22	天城	御志留群	SHLJ	SHJ	御志留 (30)
東京	23	神奈川	上多摩群	SHMT	KRM	上多摩 (18)
			柏崎群	AGKT	KSH	柏崎 (30)
高松	24	幡豆	豊島橋群	K700	K021	豊島橋 (100)、豊島 (43)、沢尻沢 (9)
			砂嶋群	K701	K022	砂嶋 (40)、豊島 (5)
その他			久良野群	OKUJ		久良野ライト中 (30)、久良野園遊地 (18)
			筑波群	OKUJ		筑波温泉 (30)、加茂 (19)、厚沢 (38)
			輝群	OKHT		輝地底 (16)
			麻群	OKM		中々麻 16、59 (送別試料)、原石産地は未発見

佐々木繁喜氏提供試料 (まだ地図には入れていない)

都道府県	エリア	判別群	記号	原石産地 (分析産)
新潟	小治	折原内群	KDK	小治市折原内 (8)
		北上新橋 1 群	KK01	水沢市新橋 (36)、花巻白粉田ノ沢 (36)、巻石小赤沢 (22)
		北上新橋 2 群	KK02	水沢市新橋 (23)、花巻白粉田ノ沢 (8)、巻石小赤沢 (2)
富嶺	輪倉	北上新橋 3 群	KK03	水沢市新橋 (5)
		富嶺	NZYK	宮崎町富ノ倉 (54)
		色黒	SM90	色黒町樹原 (48)
福岡	福岡	秋保 1 群	SOA1	桂台市秋保土庫 (17)
		秋保 2 群	SOA2	桂台市秋保土庫 (35)
		福岡群	SSGC	福岡市福岡温泉 (22)



千福南山Ⅲ西遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1. 測定対象試料

千福南山Ⅲ西遺跡は、静岡県裾野市葛山宇西ノ森 148 番地他（北緯 35° 12′ 05″、東経 138° 53′ 16″）に所在する。愛鷹山東麓の丘陵北端部でかなり急傾斜な部分に立地し、丘陵北側は大久保川が東流する谷部に接する。測定対象試料は、1号炭化物集中出土炭化物（分析番号No.1:IAAA-91346、分析番号No.2:IAAA-91347、分析番号No.14:IAAA-91355、分析番号No.15:IAAA-91358）、2号焼土遺構出土炭化物（分析番号No.3:IAAA-91348）、カワゴ平バミス層（KGP）出土炭化物（分析番号No.4:IAAA-91349）、仙石スコリア層（SSC）出土炭化物（分析番号No.5:IAAA-91350）、暗褐色土層（AN）～漸移層（ZN）相当層出土炭化物（分析番号No.6:IAAA-91351）、漸移層（ZN）出土炭化物（分析番号No.7:IAAA-91352）、富士黒土層（FB）出土土器付着炭化物（分析番号No.8:IAAA-91353、分析番号No.9:IAAA-91354）、漸移層（ZN）出土土器付着炭化物（分析番号No.11:IAAA-91356）、栗色土層（KU）出土土器付着炭化物（分析番号No.12:IAAA-91357）、合計 13 点である。

2. 測定の意義

炭化物集中や焼土跡の年代測定により、遺構の性格と斜面地での土地利用のあり方を明らかにする。また、火山灰層の噴出年代、遺物包含層の堆積年代、炭化物が付着した土器の年代を検討する。

3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA: Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で 2 時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4. 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 95DH-2）を使用する。測定では、米国立標準局（NIST）から提供されたシユウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。
- (2) ^{14}C 年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。 ^{14}C 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差(±1 σ)は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、標準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰)で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に(AMS)と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1 σ =68.2%)あるいは2標準偏差(2 σ =95.4%)で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal104 データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv4.1 較正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001; Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

6. 測定結果

1号炭化物集中出土炭化物の ^{14}C 年代は、分析番号No.1が $4510 \pm 40\text{yrBP}$ 、分析番号No.2が $4540 \pm 40\text{yrBP}$ 、分析番号No.14が $4520 \pm 40\text{yrBP}$ 、分析番号No.15が $4510 \pm 30\text{yrBP}$ である。誤差(1 σ)の範囲内で重なり合っており、ほぼ同年代を示している。縄文時代中期前葉頃に相当する。2号焼土遺構出土炭化物(分析番号No.3)は $3990 \pm 40\text{yrBP}$ で、縄文時代中期末頃の年代である。

カワゴ平バミス層(KGP)出土炭化物(分析番号No.4)が $3910 \pm 40\text{yrBP}$ 、仙石スコリア層(SSC)出土炭化物(分析番号No.5)が $1620 \pm 40\text{yrBP}$ 、暗褐色土層(AN)～漸移層(ZN)相当層出土炭化物(分析番号No.6)が $4060 \pm 40\text{yrBP}$ 、漸移層(ZN)出土炭化物(分析番号No.7)が $3860 \pm 40\text{yrBP}$ である。No.5は古墳時代、その他は縄文時代中期末から後期初頭頃の年代を示している。

富士黒土層(FB)出土土器付着炭化物(分析番号No.8、No.9)の ^{14}C 年代は $3890 \pm 40\text{yrBP}$ で縄文時代後期初頭頃である。漸移層(ZN)出土土器付着炭化物の(分析番号No.11)の ^{14}C 年代が $5100 \pm 40\text{yrBP}$ 、栗色土層(KU)出土土器付着炭化物(分析番号No.12)の ^{14}C 年代が $5020 \pm 40\text{yrBP}$ で、縄文時代前期後半の年代に相当する。

層位と出土炭化物、出土土器付着炭化物の年代が類別と必ずしも一致しない試料が認められるが、試料の年代は縄文時代前期後半、中期前葉、中期末から後期初頭、古墳時代(補註)といういくつかの時期にまとまっており、ランダムな現れ方ではない。急傾斜地における不安定な堆積層に、限られた年代の試料が包含された可能性を考慮する必要がある。

炭素含有率は炭化物が60%以上、土器付着炭化物はこれらよりも低い値であるが、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-91346	分析番号 No.1	1号炭化物集中 覆土? (AN(暗褐色土層)~ZN(漸移層)相当層)	炭化物	AaA	-27.63 ± 0.46	4,510 ± 40	57.05 ± 0.28
IAAA-91347	分析番号 No.2	1号炭化物集中 覆土? (AN(暗褐色土層)~ZN(漸移層)相当層)	炭化物	AAA	-25.83 ± 0.39	4,540 ± 40	56.85 ± 0.27
IAAA-91348	分析番号 No.3	2号焼土遺構 覆土2層より下の炭化物ブロック	炭化物	AaA	-25.13 ± 0.51	3,990 ± 40	60.83 ± 0.29
IAAA-91349	分析番号 No.4	遺構外 カワゴ平ノバミス層 (KGP)	炭化物	AaA	-24.84 ± 0.72	3,910 ± 40	61.44 ± 0.29
IAAA-91350	分析番号 No.5	遺構外 仙石スコリア層 (SSC)	炭化物	AAA	-23.16 ± 0.22	1,620 ± 40	81.69 ± 0.35
IAAA-91351	分析番号 No.6	遺構外 暗褐色土層 (AN)~漸移層 (ZN)相当層	炭化物	AaA	-25.19 ± 0.48	4,060 ± 40	60.35 ± 0.29
IAAA-91352	分析番号 No.7	遺構外 漸移層 (ZN)	炭化物	AAA	-23.83 ± 0.65	3,860 ± 40	61.82 ± 0.27
IAAA-91353	分析番号 No.8	遺構外 富士黒土層 (FB)	土器付着炭化物	AaA	-24.31 ± 0.84	3,890 ± 40	61.61 ± 0.30
IAAA-91354	分析番号 No.9	遺構外 富士黒土層 (FB)	土器付着炭化物	AaA	-24.14 ± 0.68	3,890 ± 40	61.65 ± 0.29
IAAA-91355	分析番号 No.14	1号炭化物集中 覆土? (AN(暗褐色土層)~ZN(漸移層)相当層)	炭化物	AAA	-23.92 ± 0.63	4,520 ± 40	56.94 ± 0.25
IAAA-91356	分析番号 No.11	遺構外 漸移層 (ZN)	土器付着炭化物	AaA	-22.32 ± 0.59	5,100 ± 40	53.03 ± 0.26
IAAA-91357	分析番号 No.12	遺構外 栗色土層 (KU)	土器付着炭化物	AaA	-26.81 ± 0.82	5,020 ± 40	53.53 ± 0.26
IAAA-91358	分析番号 No.15	1号炭化物集中 覆土? (AN(暗褐色土層)~ZN(漸移層)相当層)	炭化物	AAA	-27.92 ± 0.51	4,510 ± 30	57.06 ± 0.24

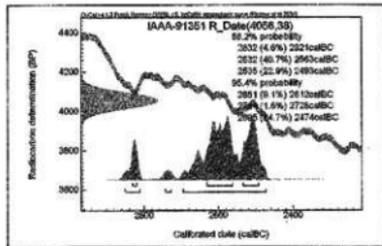
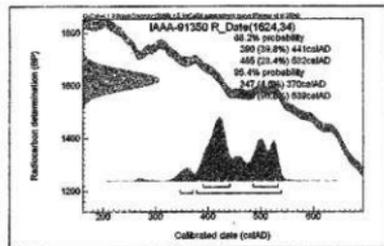
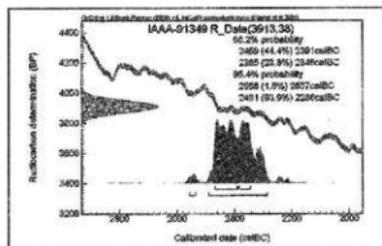
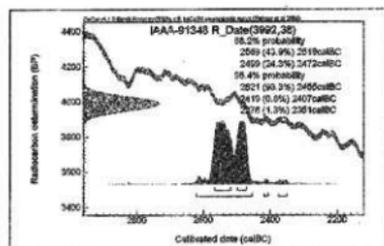
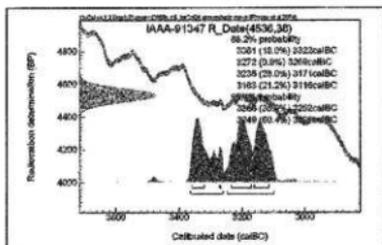
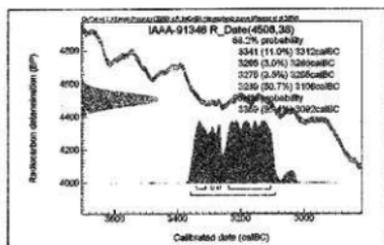
[#3187]

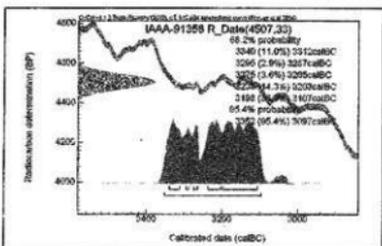
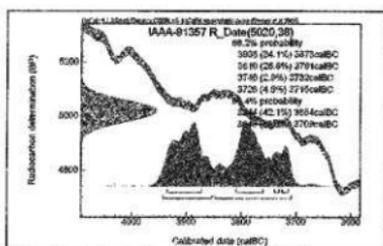
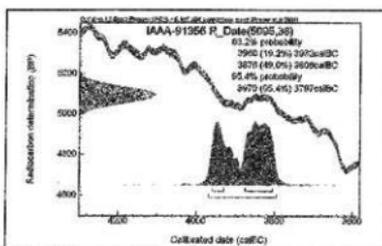
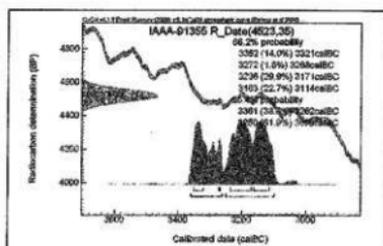
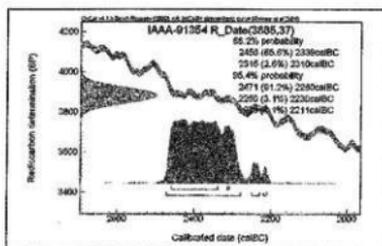
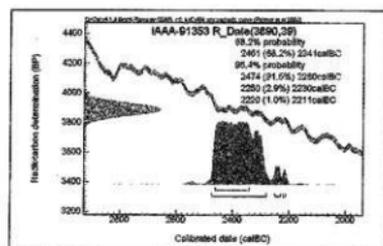
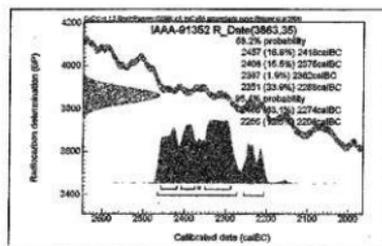
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-91346	4,550 ± 40	56.74 ± 0.27	4,508 ± 38	3341BC - 3312BC (11.0%) 3295BC - 3286BC (3.0%) 3275BC - 3265BC (3.5%) 3239BC - 3106BC (50.7%)	3359BC - 3092BC (95.4%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年校正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-91347	4,550 \pm 40	56.75 \pm 0.27	4,536 \pm 38	3361BC - 3322BC (18.0%) 3272BC - 3269BC (0.9%) 3235BC - 3171BC (28.0%) 3163BC - 3116BC (21.2%)	3366BC - 3262BC (35.0%) 3249BC - 3099BC (60.4%)
IAAA-91348	3,990 \pm 40	60.82 \pm 0.28	3,992 \pm 38	2568BC - 2519BC (43.9%) 2499BC - 2472BC (24.3%)	2621BC - 2455BC (93.3%) 2419BC - 2407BC (0.8%) 2376BC - 2351BC (1.3%)
IAAA-91349	3,910 \pm 40	61.46 \pm 0.28	3,913 \pm 38	2469BC - 2391BC (44.4%) 2385BC - 2346BC (23.8%)	2558BC - 2537BC (1.5%) 2491BC - 2286BC (93.9%)
IAAA-91350	1,590 \pm 40	82.00 \pm 0.35	1,624 \pm 34	390AD - 441AD (39.8%) 485AD - 532AD (28.4%)	347AD - 370AD (4.6%) 378AD - 539AD (90.8%)
IAAA-91351	4,060 \pm 40	60.33 \pm 0.28	4,056 \pm 38	2832BC - 2821BC (4.6%) 2632BC - 2563BC (40.7%) 2535BC - 2493BC (22.9%)	2851BC - 2812BC (9.1%) 2744BC - 2728BC (1.6%) 2695BC - 2474BC (84.7%)
IAAA-91352	3,840 \pm 30	61.97 \pm 0.26	3,863 \pm 35	2457BC - 2418BC (16.8%) 2408BC - 2375BC (15.5%) 2367BC - 2362BC (1.9%) 2351BC - 2288BC (33.9%)	2465BC - 2274BC (83.1%) 2256BC - 2208BC (12.3%)
IAAA-91353	3,880 \pm 40	61.70 \pm 0.28	3,890 \pm 39	2461BC - 2341BC (68.2%)	2474BC - 2280BC (91.5%) 2250BC - 2230BC (2.9%) 2220BC - 2211BC (1.0%)
IAAA-91354	3,870 \pm 40	61.76 \pm 0.28	3,885 \pm 37	2458BC - 2339BC (65.6%) 2315BC - 2310BC (2.6%)	2471BC - 2280BC (91.2%) 2250BC - 2230BC (3.1%) 2220BC - 2211BC (1.1%)
IAAA-91355	4,510 \pm 30	57.07 \pm 0.24	4,523 \pm 35	3352BC - 3321BC (14.0%) 3272BC - 3268BC (1.6%) 3236BC - 3171BC (29.9%) 3163BC - 3114BC (22.7%)	3361BC - 3262BC (33.5%) 3250BC - 3099BC (61.9%)
IAAA-91356	5,050 \pm 40	53.32 \pm 0.25	5,095 \pm 38	3960BC - 3932BC (19.2%) 3876BC - 3806BC (49.0%)	3970BC - 3797BC (95.4%)
IAAA-91357	5,050 \pm 40	53.33 \pm 0.24	5,020 \pm 38	3936BC - 3873BC (34.1%) 3810BC - 3761BC (26.8%) 3740BC - 3732BC (2.9%) 3726BC - 3715BC (4.5%)	3944BC - 3854BC (42.1%) 3848BC - 3709BC (53.3%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-91358	4,560 \pm 30	56.72 \pm 0.23	4,507 \pm 33	3340BC - 3312BC (11.0%) 3295BC - 3287BC (2.9%) 3275BC - 3265BC (3.6%) 3239BC - 3203BC (14.3%) 3198BC - 3107BC (36.3%)	3352BC - 3097BC (95.4%)

[参考値]





[参考] 暦年較正年代グラフ

参考文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-399
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-25cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

(補注)

分析番号No.5の資料は、仙石スコリア層から採取したもので、 $1,620 \pm 40\text{yr BP}$ の測定値が得られており、古墳時代の年代を示している。仙石スコリアの降下年代は、町田 洋氏の研究によれば(町田 1980)縄文時代晩期の噴出物と考えられており、 $2,500 \sim 2,800 \text{ BP}$ と推定されている。縄文晩期とする説は、カワゴ平バミスの降下年代(縄文後期末～晩期初頭)と、御殿場市関尾塚遺跡(小野他 1979)・宮ノ台遺跡(静文研 2001)の事例(仙石スコリア層より上層に堆積する砂沢スコリア層の直上の泥流層より縄文晩期末の浮線網状紋をもつ土器が出土している)等より明らかである。従って、今回の測定値で得られた古墳時代の年代が、仙石スコリアの降下年代であるとは到底考えられない。

今回の試料は、現地で層位を確認しながら、ドットで記録をとり取り上げた炭化物である。出土状態についての詳細な記録は残されていない。ただし、現地の調査所見によれば、この試料が出土した箇所付近では層の乱れや誤認などの可能性は極めて少ない。プライマリーな仙石スコリア層から採取したと認識している。従って、今回の測定値が得られた理由は、上層より木の根等が入りこみ、それが炭化したなどの理由しか考えられない。なお、他の試料の樹種がほとんどケヤキなのに対して、この試料のみヒノキであることも、他の試料に比べて異質であることを示唆する。(木崎道昭)

(補注の引用・参考文献)

- 小野貞一他 1979 『関尾塚遺跡』 御殿場市文化財調査報告第2集 御殿場市教育委員会
- (財)静岡県縄文文化財調査研究所 2001 『静岡県縄文文化財研究所 年報 17』
- 町田 洋 1980 「富士テフラと古代灌漑」『考古学ジャーナル』 178号
- 町田 洋・新井房夫 1992 『新編火山灰アトラス』 東京大学出版会

千福南山Ⅲ西遺跡出土炭化材の樹種 ※

(株) 加速器分析研究所

はじめに

千福南山Ⅲ西遺跡は、愛鷹山東麓の丘陵北端部急傾斜地（久保川右岸谷斜面）に位置する。発掘調査により、炭化物集中や焼土遺構等から炭化材が出土している。また、カワゴ平バミス層や仙石スコリア層からも炭化材が出土している。

今回の分析調査では、これらの炭化材の樹種を明らかにするための樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、1号炭化物集中、2号焼土遺構、カワゴ平バミス層、仙石スコリア層、暗褐色土層～漸移層相当層、漸移層から出土した炭化材7点（分析番号1～7）である。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の断面を制作し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、針葉樹1分類群（ヒノキ科）と広葉樹2分類群（アサダ近似種・ケヤキ）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

表1. 樹種同定結果

分析番号	遺構・層位	層位	遺物名	遺物No.	樹種
1	1号炭化物集中	暗褐色土層～漸移層相当層	炭化物		ケヤキ
2	1号炭化物集中	暗褐色土層～漸移層相当層	炭化物		ケヤキ
3	2号焼土遺構	暗褐色土層～漸移層相当層	炭化物		ケヤキ
4	—	カワゴ平バミス層	炭化物	1492	ケヤキ
5	—	仙石スコリア層	炭化物	1473	ヒノキ科
6	—	暗褐色土層～漸移層	炭化物	1508	アサダ近似種
7	—	漸移層	炭化物	1504	ケヤキ

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は、いずれも裏で輪郭のみであるが、輪郭の形状等からスギ型あるいはヒノキ型と考えられる。放射組織は単列、1-10細胞高。

・アサダ近似種 (cf. *Ostrya japonica* Sarg.) カバノキ科アサダ属

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-4個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単裂孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織はいずれも潰れており、幅や高さは不明である。

組織の特徴からアサダの可能性が高いが、放射組織が潰れて観察できないため、近似種とした。

・ケヤキ (*Zeikova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔部は1列、孔間外で急激に管径を減じたのち、塊状に復合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は一部が潰れているが、異性で、1-6細胞幅程度、1-50細胞高程度となる。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

4. 考察

遺構から出土した炭化材は、1号炭化物集中の2点と2号焼土遺構の1点がある。炭化していること、分析番号3が焼土遺構から出土していることから、燃料材などとして利用され、火を受けたことが推定される。これらの遺構はいずれも暗褐色土層～漸移層相当層から出土しており、樹種は全て落葉広葉樹のケヤキであった。ケヤキは川沿い・谷沿いの肥沃な土地に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。ケヤキは現在の愛鷹山麓で普通にみられる樹木であることから、当時の本遺跡周辺にも生育し、その木材を燃料材等に利用したことが推定される。

遺構外から出土した炭化材は、暗褐色土層～漸移層相当層、漸移層、カワゴ平バミス層、仙石スコリア層から出土した4点がある。漸移層はケヤキであり、暗褐色土層～漸移層相当層の遺構出土炭化材と樹種が同一であることから、遺構で使用された炭化材が周囲にも飛散して堆積物中に取り込まれた可能性がある。一方、暗褐色土層～漸移層相当層から出土した炭化材は、アサダ近似種であった。アサダは沢沿い等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。この結果から、ケヤキと共にアサダも利用されていた可能性がある。

暗褐色土層の上部に堆積するカワゴ平バミス層から出土した炭化材は、ケヤキであった。出土状況が不明であるが、樹種が遺構出土炭化材と同一であることから、暗褐色土層～覆土層のケヤキがカワゴ平バミス層中にも混入している可能性がある。

カワゴ平バミス層の上部に堆積する仙石スコリア層から出土した炭化材は、ヒノキ科であった。ヒノキ科には、ヒノキ、サワラ、アスナロ等の有用材が含まれ、木理が通直で割裂性・耐水性が高く、加工が容易な木材が多い。本地域では、鹿鹿塚遺跡から出土した2640±100BPの年代値が得られた木片がヒノキ属に同定されており(パリーノ・サーヴェイ株式会社, 1990)、当該期にヒノキ属が分布していた可能性がある。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- パリーノ・サーヴェイ株式会社, 1990, 鹿鹿塚遺跡の自然科学的分析結果. 「鹿鹿塚遺跡発掘調査報告書Ⅱ 遺構編 一 狩野川西部流域地下水事業処理場建設に伴う地産文化財発掘調査報告書」, 沼津市文化財調査報告書第51集, 沼津市教育委員会, 153-170.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 TANAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz

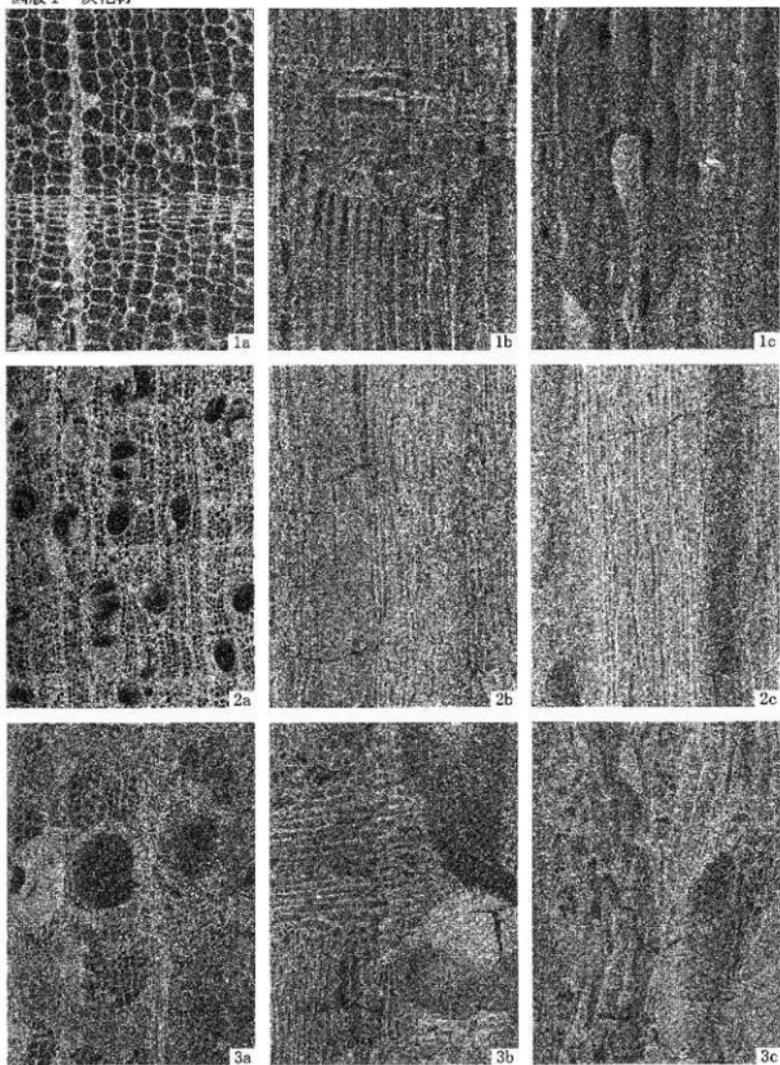
I. and Gasson P. E. (2004) [AWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .

島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.

Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) [AWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

(※) 本分析は、当社協力会社・バリノ・サーヴェイ株式会社にて実施した。

図版1 炭化材



1. ヒノキ科(分析番号5)
 2. アサダ近似種(分析番号6)
 3. ケヤキ(分析番号7)
- a: 木口, b: 径目, c: 板目

200 μ m: 2-3a
200 μ m: 1a, 2-3b, c
100 μ m: 1b, c

写真図版



本調査Ⅱ期 縄文時代遺構検出状況（合成写真）

図版 2



本調査Ⅰ期 縄文時代完掘状況



本調査Ⅱ期 調査区近景（南から）



本調査Ⅰ期土層断面（Eライン北壁）



本調査Ⅰ期土層断面（土層帯01）



本調査Ⅱ期土層断面（a-bライン）



TP9土層断面（東から）



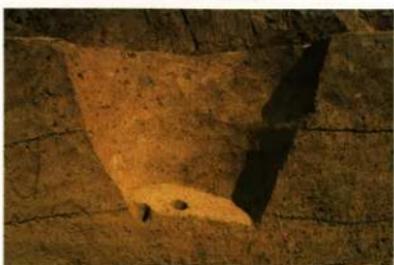
5号土坑土層断面



82号土坑土層断面



86号土坑完掘状況



87号土坑完掘状況

図版 4



本調査Ⅰ期KGP層遺物出土状況（南から）



本調査Ⅰ期KU層遺物出土状況（東から）



本調査Ⅱ期加曾利B式土器出土状況



本調査Ⅱ期打製石斧出土状況



1号配石遺構検出状況（旧石器時代）



2号土坑完掘状況



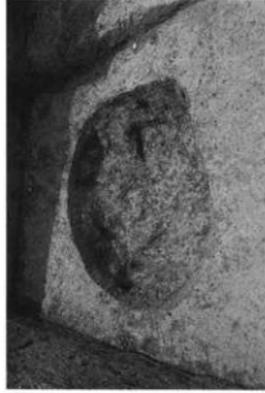
3号土坑完掘状況



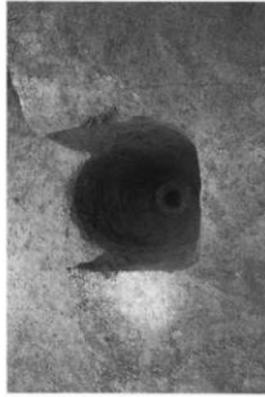
4号土坑完掘状況



6号土坑完掘状况



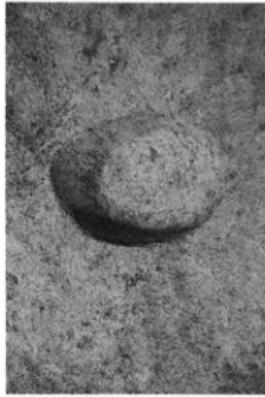
7号土坑完掘状况



9号土坑完掘状况



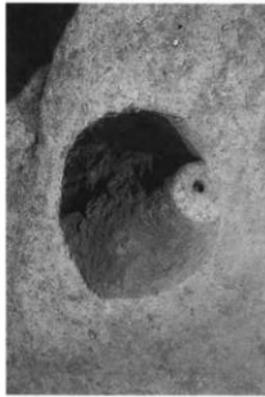
10号土坑完掘状况



11号土坑完掘状况



12号土坑土层断面



12号土坑完掘状况

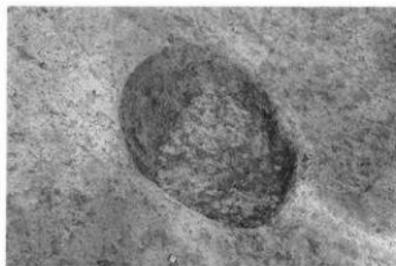


13号土坑完掘状况

图版 6



14号土坑完掘状况



15号土坑完掘状况



16号土坑完掘状况



17·18号土坑完掘状况



19号土坑完掘状况



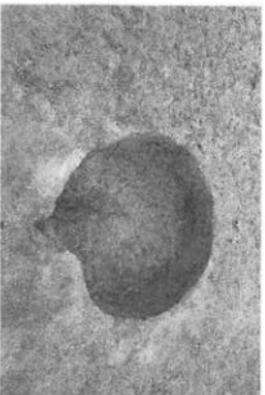
20号土坑完掘状况



21号土坑完掘状况



22号土坑完掘状况



23号土坑完掘状况



24号土坑完掘状况



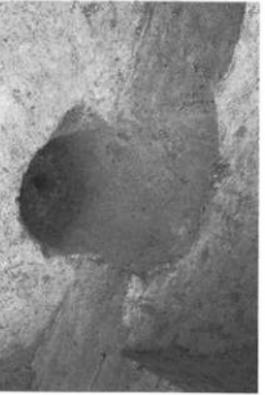
25号土坑完掘状况



26号土坑完掘状况



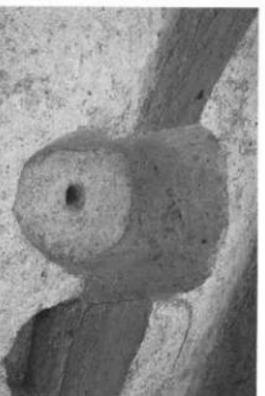
27号土坑完掘状况



28号土坑完掘状况



29号土坑完掘状况

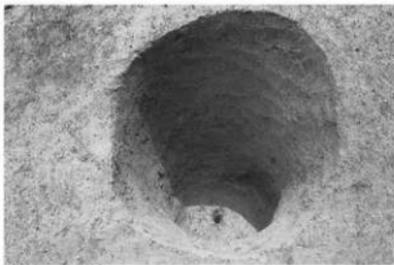


30号土坑完掘状况

图版 8



31 号土坑完掘状况



32 号土坑完掘状况



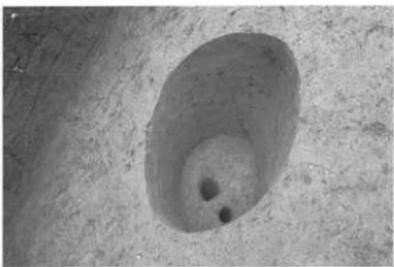
33 号土坑完掘状况



34 号土坑完掘状况



35 号土坑完掘状况



36 号土坑完掘状况



37 号土坑完掘状况



38 号土坑完掘状况



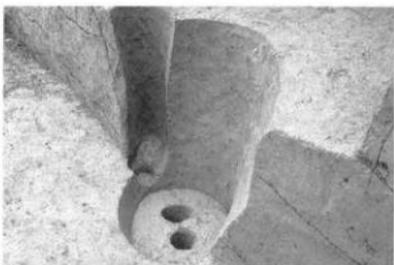
39号土坑完掘状况



40号土坑完掘状况



41号土坑完掘状况



42号土坑完掘状况



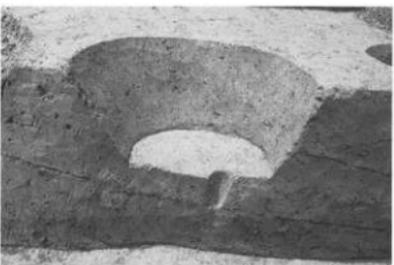
43号土坑完掘状况



44号土坑完掘状况



45号土坑完掘状况



46号土坑完掘状况



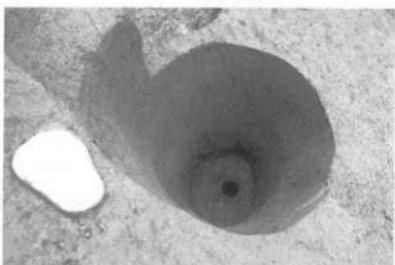
47号土坑完掘状况



48号土坑完掘状况



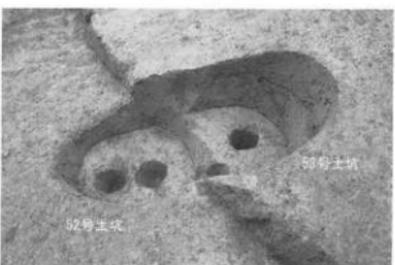
49号土坑完掘状况



50号土坑完掘状况



51号土坑完掘状况



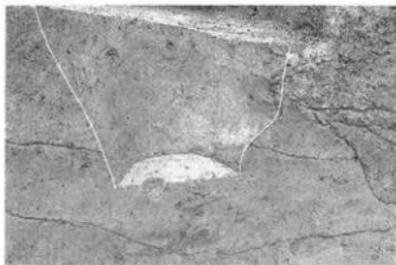
52·53号土坑完掘状况



54号土坑完掘状况



55号土坑完掘状况



56号土坑完掘状况



57号土坑完掘状况



58号土坑完掘状况



59号土坑完掘状况



60号土坑完掘状况



61号土坑完掘状况



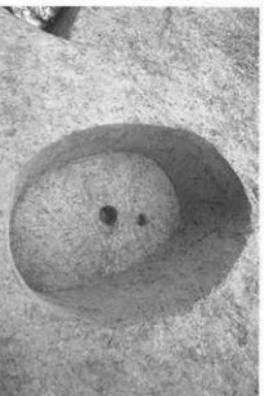
62号土坑完掘状况



63号土坑完掘状况



64号土坑完掘状况



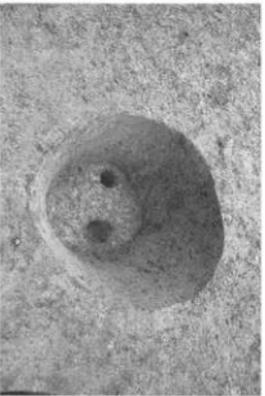
65号土坑完掘状况



66号土坑完掘状况



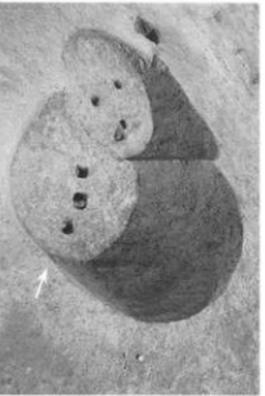
67号土坑完掘状况



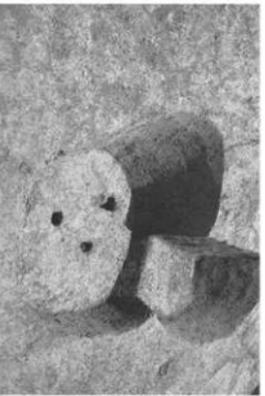
68号土坑完掘状况



69号土坑完掘状况



70号土坑完掘状况



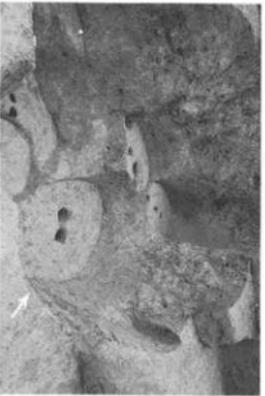
71号土坑完掘状况



72号土坑完掘状况



73号土坑完掘状况



74号土坑完掘状况



75号土坑完掘状况



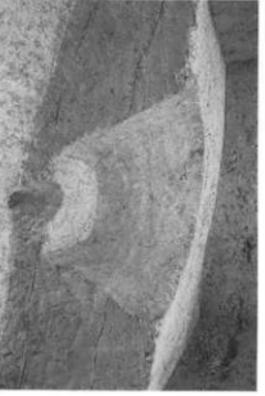
76号土坑完掘状况



77号土坑完掘状况



78号土坑完掘状况



79号土坑完掘状况



80 号土坑完掘状况



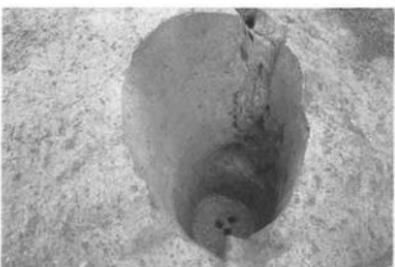
81 号土坑完掘状况



82 号土坑完掘状况



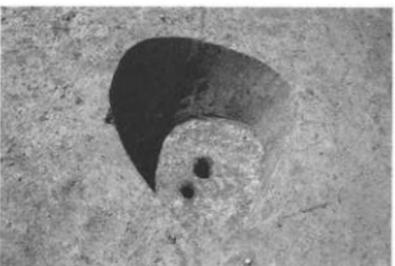
83 号土坑完掘状况



84 号土坑完掘状况



85 号土坑完掘状况



88 号土坑完掘状况



89 号土坑完掘状况



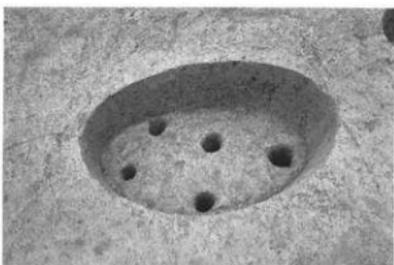
90号土坑完掘状况



91号土坑完掘状况



92号土坑完掘状况



93号土坑完掘状况



94号土坑完掘状况



95号土坑完掘状况



96号土坑完掘状况



97号土坑完掘状况

图版 16



98 号土坑完掘状况



99 号土坑完掘状况



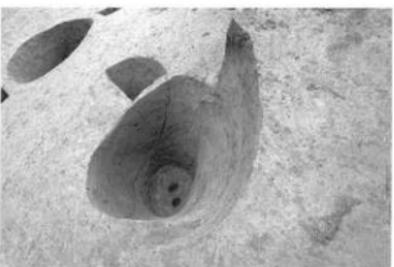
100 号土坑完掘状况



101 号土坑完掘状况



102 号土坑完掘状况



103 号土坑完掘状况



104 号土坑完掘状况 (右侧)



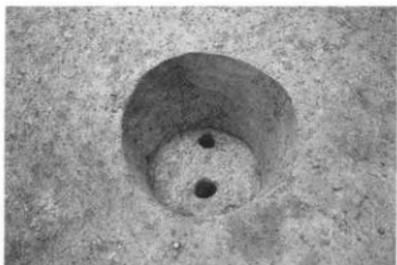
105 号土坑完掘状况



106 号土坑完掘状况



107 号土坑完掘状况



108 号土坑完掘状况



109 号土坑完掘状况



110 号土坑完掘状况



111 号土坑完掘状况



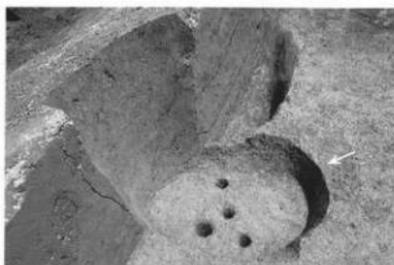
112 号土坑完掘状况



113 号土坑完掘状况



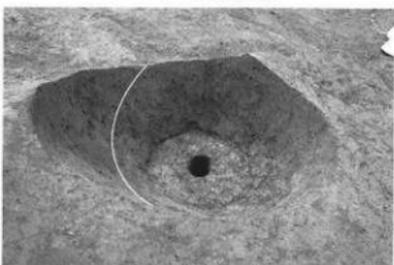
114号土坑完掘状况



115号土坑完掘状况



116号土坑完掘状况



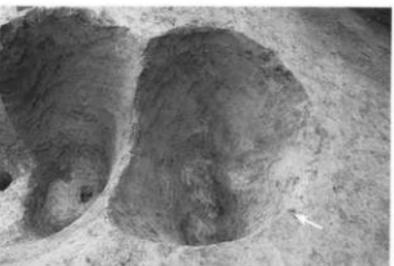
117号土坑完掘状况



118号土坑完掘状况



119号土坑完掘状况



120号土坑完掘状况



121号土坑完掘状况



122 号土坑完掘状况



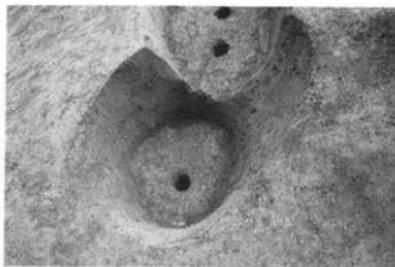
123 号土坑完掘状况



124 号土坑完掘状况



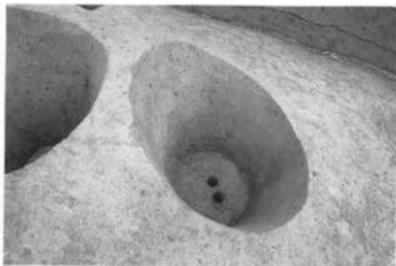
125 号土坑完掘状况



126 号土坑完掘状况



127 号土坑完掘状况



128 号土坑完掘状况



129 号土坑完掘状况



130 号土坑完掘状况



131 号土坑完掘状况



132 号土坑完掘状况



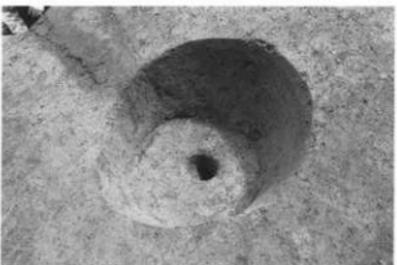
133 号土坑完掘状况



134 号土坑完掘状况



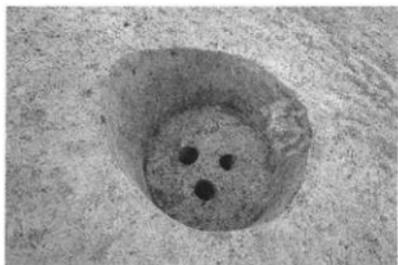
135 号土坑完掘状况



136 号土坑完掘状况



137 号土坑完掘状况



138号土坑完掘状况



139号土坑完掘状况



140号土坑完掘状况



141号土坑完掘状况



142号土坑完掘状况



143号土坑完掘状况



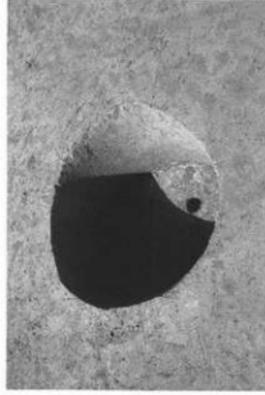
144号土坑完掘状况



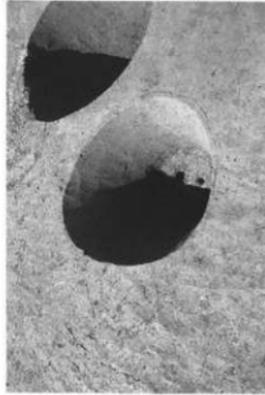
145号土坑完掘状况



146号土坑完掘状况



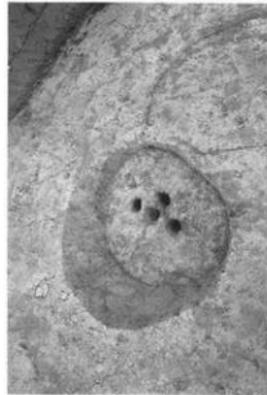
147号土坑完掘状况



148号土坑完掘状况



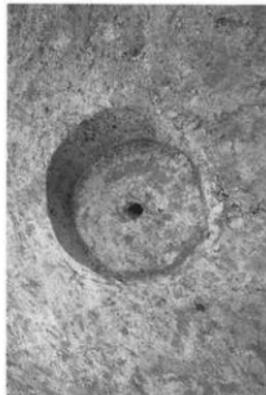
149号土坑完掘状况



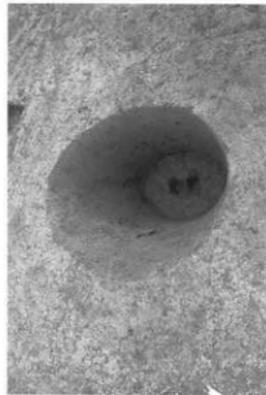
150号土坑完掘状况



151号土坑完掘状况



152号土坑完掘状况



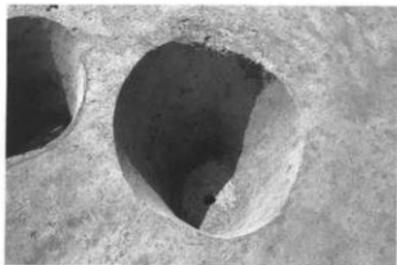
153号土坑完掘状况



154号土坑完掘状况



155号土坑完掘状况



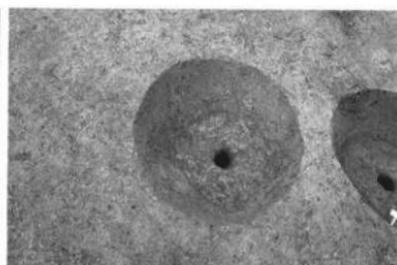
156号土坑完掘状况



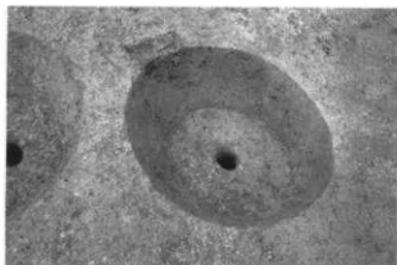
157号土坑完掘状况



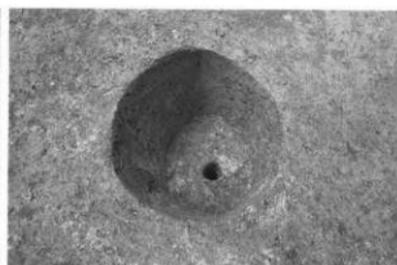
158号土坑完掘状况



159号土坑完掘状况



160号土坑完掘状况



161号土坑完掘状况



162 号土坑完掘状况



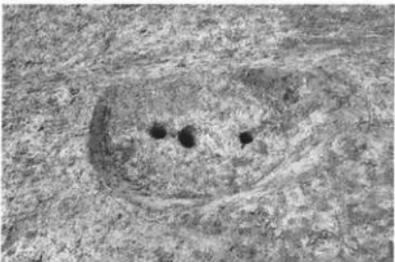
163 号土坑完掘状况



164 号土坑完掘状况



165 号土坑完掘状况



166 号土坑完掘状况



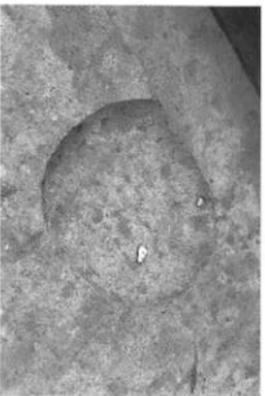
167 号土坑完掘状况



168 号土坑完掘状况



169 号土坑完掘状况



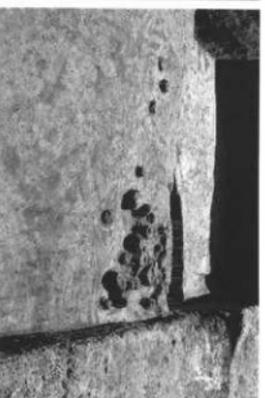
1号焼土遺構完掘状況



2号焼土遺構焼土除去状況



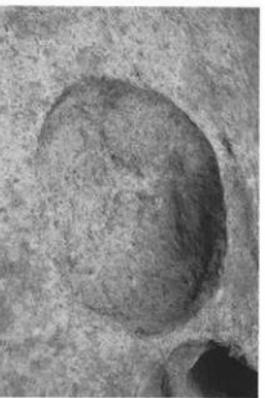
2号焼土遺構完掘状況



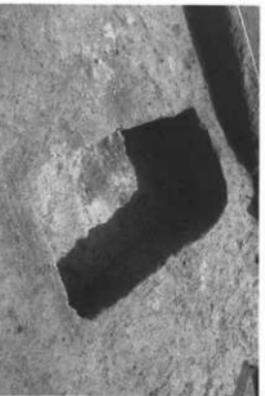
1号炭化物集中(北から)



1号炭化物集中(西から)



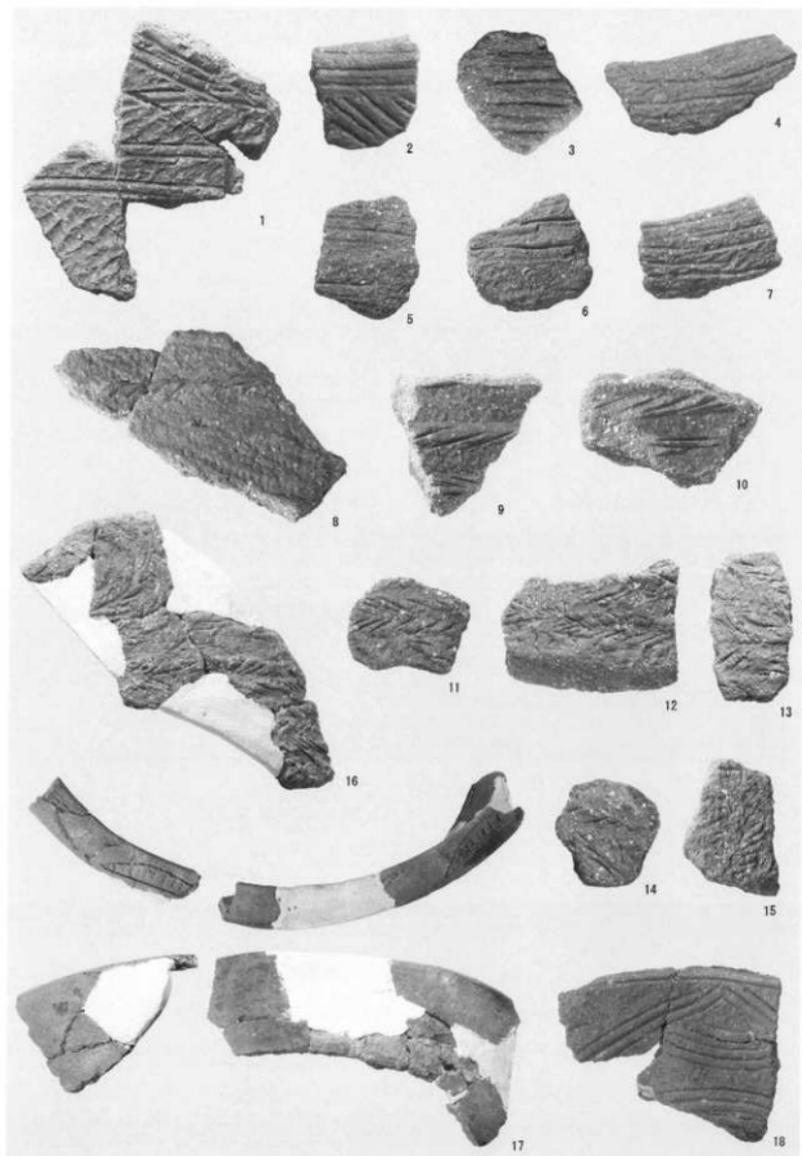
1号土坑完掘状況



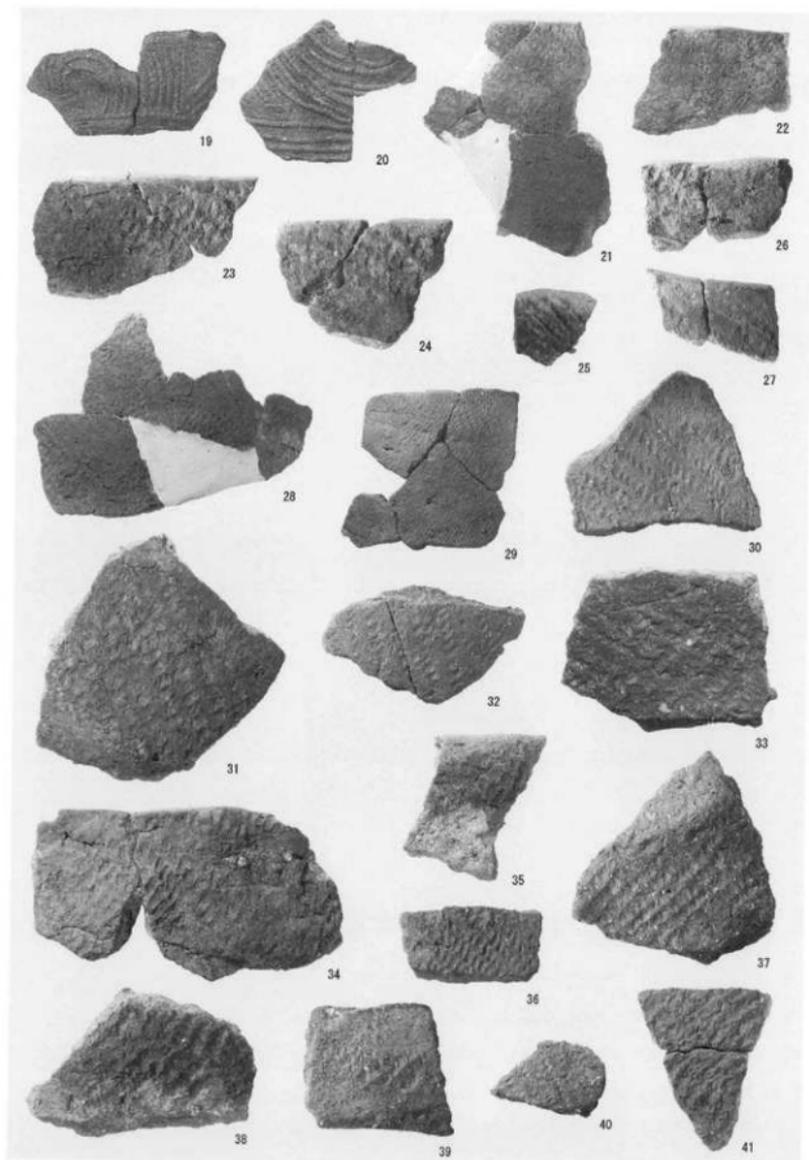
8号土坑完掘状況



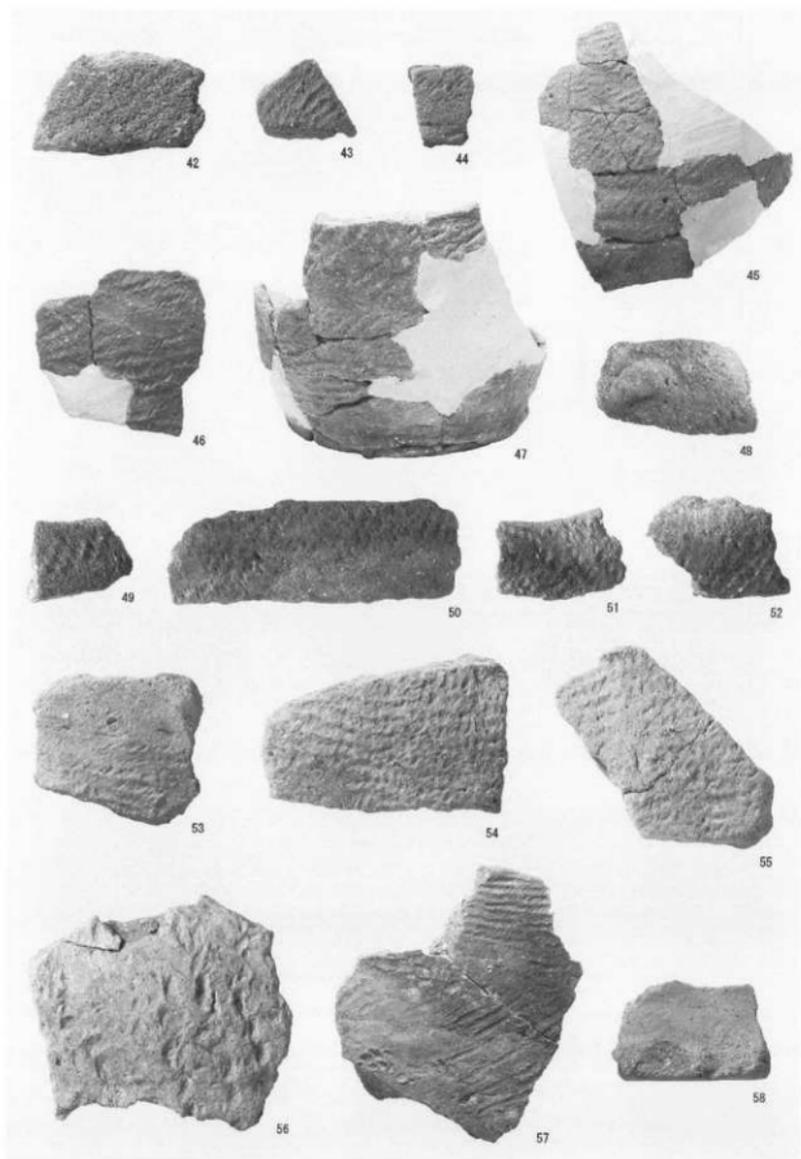
道路遺構完掘状況(西から)



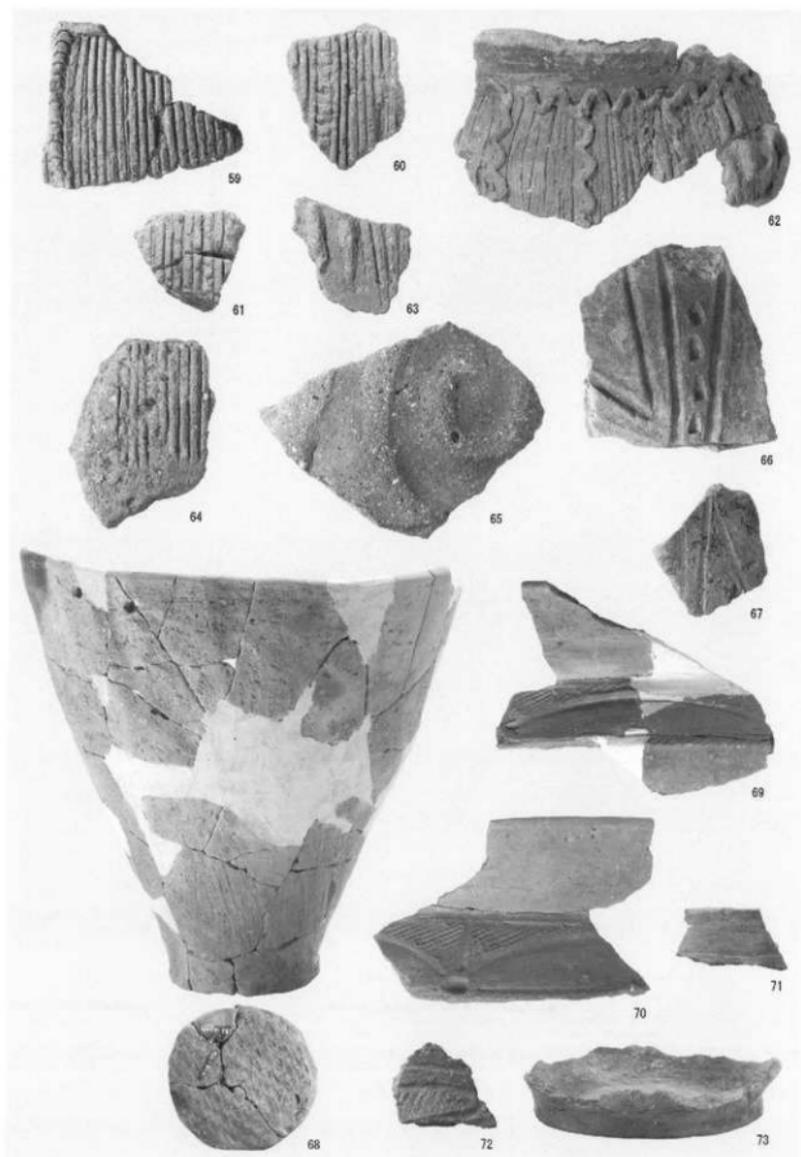
縄文土器 (1)



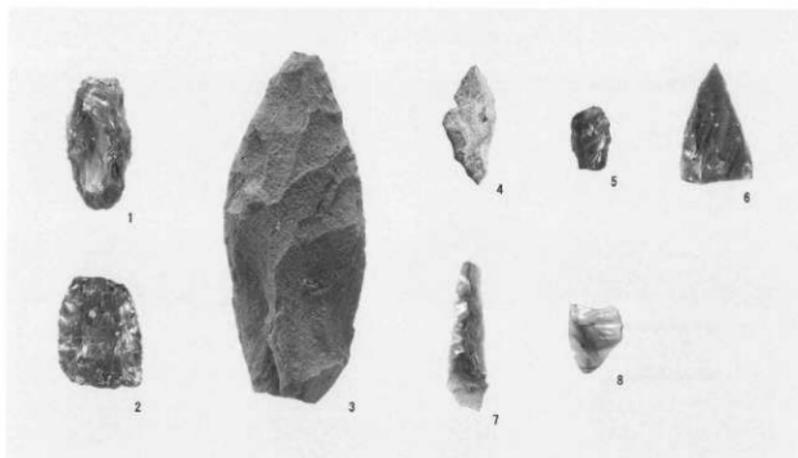
縄文土器 (2)



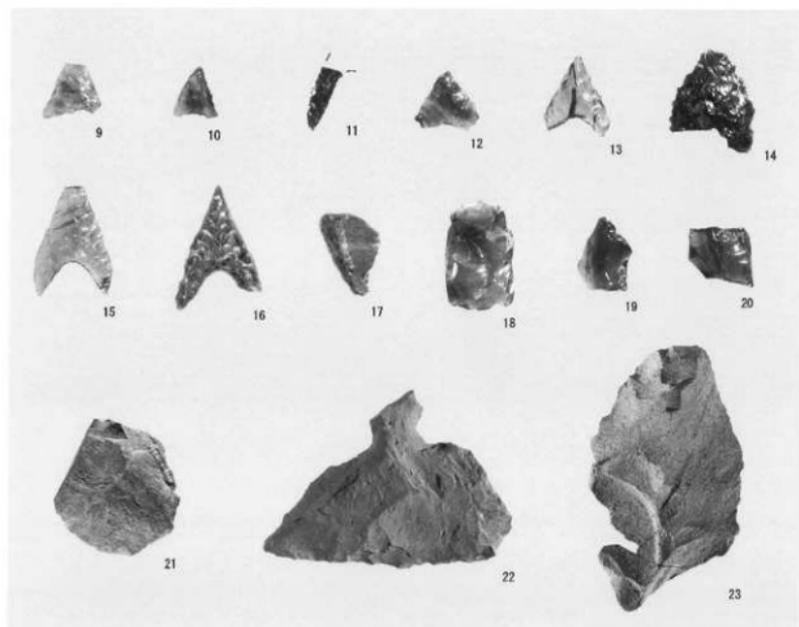
縄文土器 (3)



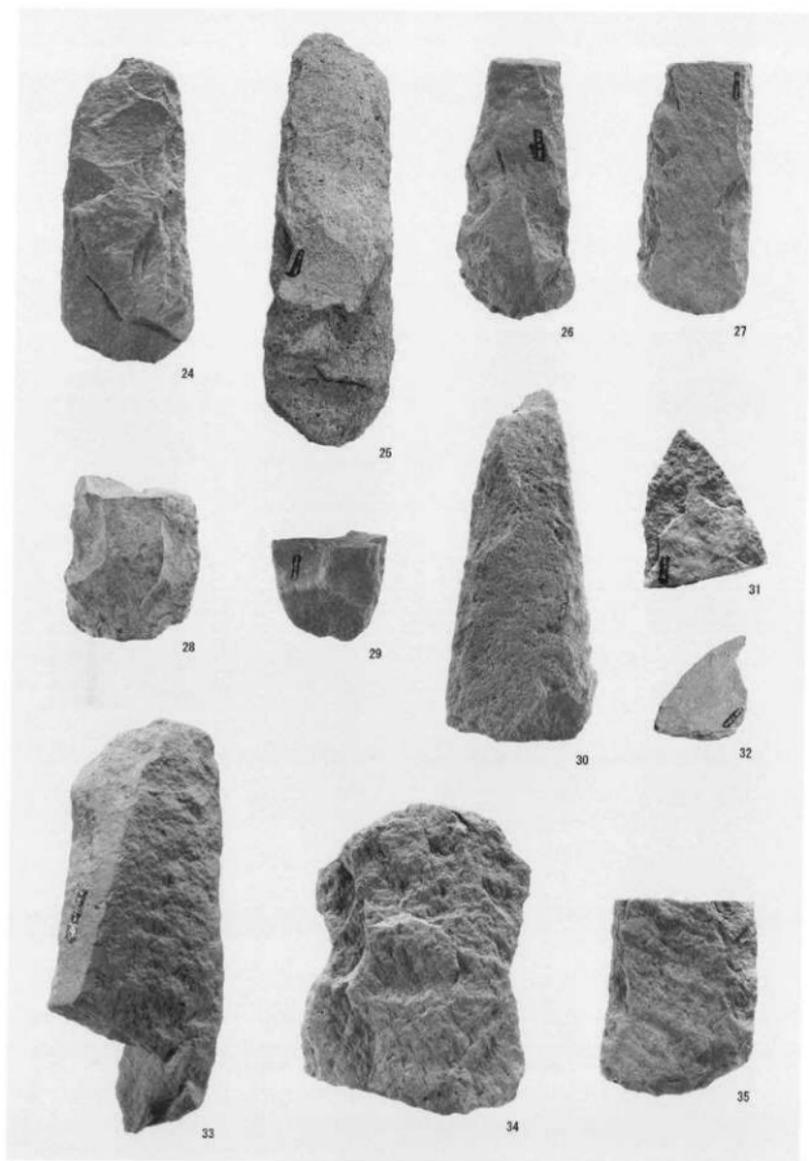
縄文土器 (4)



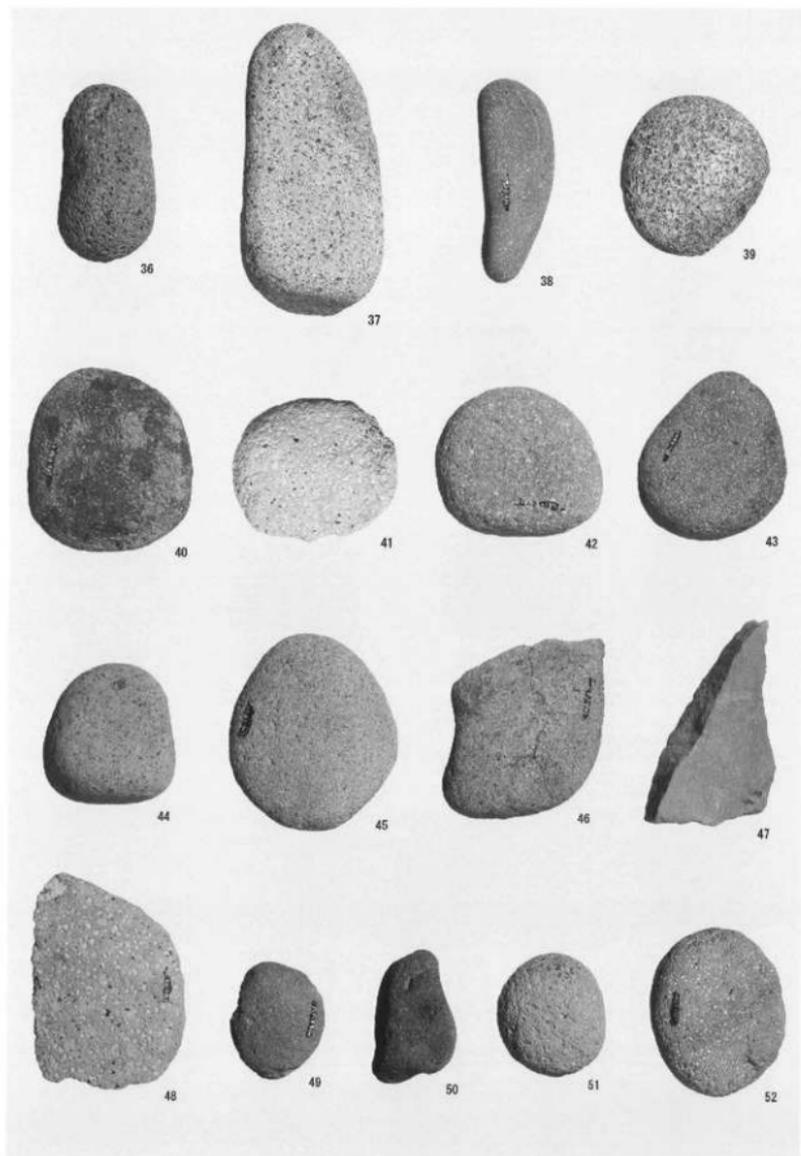
旧石器時代の石器



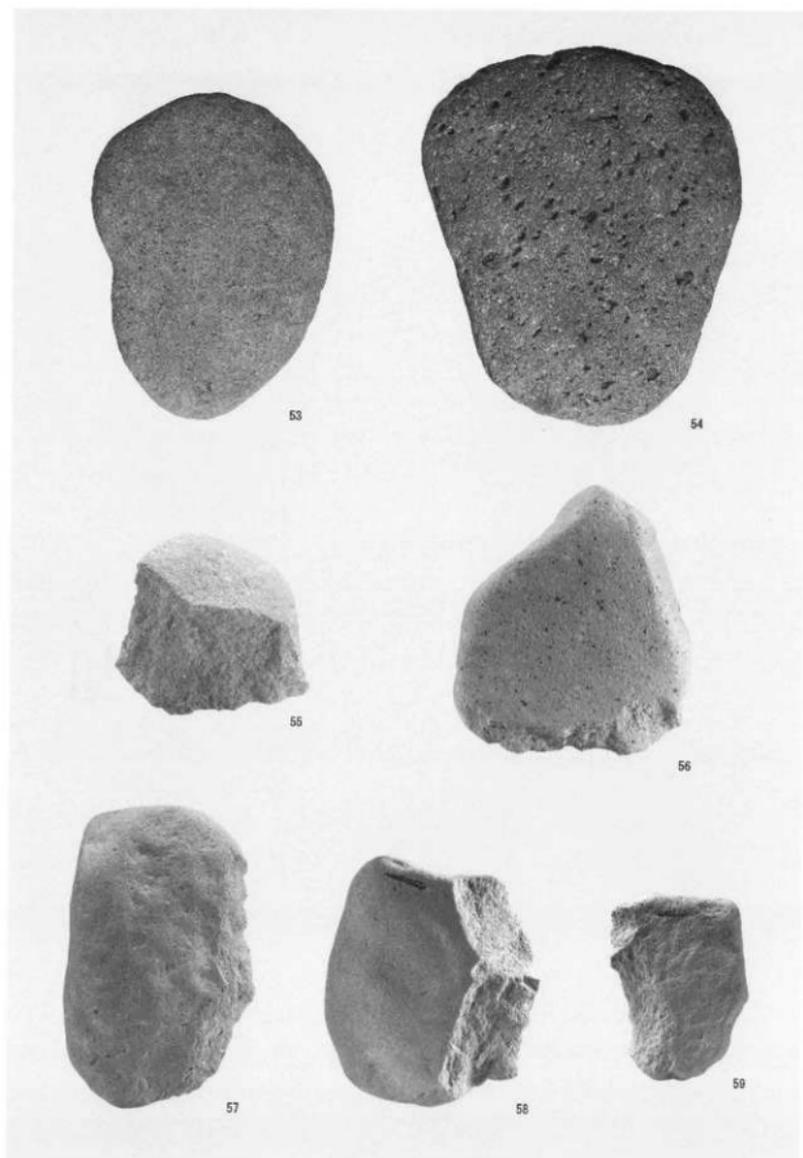
縄文時代の石器 (1)



縄文時代の石器（2）



縄文時代の石器 (3)



縄文時代の石器（4）

報告書抄録

ふりがな	せんぶくみなみやま3にしいせき							
書名	千福南山山西遺跡							
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告							
シリーズ番号	第226集							
編著者名	木崎道昭/大島秀俊/望月明彦(黒曜石産地分析)/徳加速器分析研究所(年代測定・樹種判定)							
編集機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所							
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20 TEL 054-262-4261(代表) FAX 054-262-4266							
発行年月日	2011年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	連絡番号					
せんぶくみなみやま3 千福南山山西遺跡	静岡県 裾野市 葛山 字西ノ窪 148地	22220		35°12'24"	138°53'16"	確認調査Ⅰ期 20060410～ 20060525 本調査Ⅰ期 20060627～ 20070112 確認調査Ⅱ期 20090223～ 20090328 確認調査Ⅲ期 20090406～ 20090421 本調査Ⅱ期 20090406～ 20090911	4,177㎡	記録保存調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
せんぶくみなみやま3 千福南山山西遺跡	散布地	旧石器 YLU YLM	配石遺構1	石槍3、ナイフ形石器3、 使用痕のある剥片2		小規模なブロック状の遺物分布。石器製作の痕跡乏しい。		
	散布地 その他 (狩猟場)	縄文 前～ 後期	土坑167 焼土遺構2 炭化物集中1 ビット1	縄文土器417(破片数)、 石鏝8、石錐1、 楔形石器1、兩儀石器1、 石核1、掻器1、石匙1、 削器1、打製石斧12、 磨石類17、台石2、礫器5		県内最多の陥穴状土坑の検出。複雑に重複する陥穴あり。踏碓b式期の集落の周辺部か。加曾利B式の算盤玉形土器出土。		
	墓?	中世～ 近世	土坑2 ビット1			土坑は円形と長方形。近代以降のものが含まれるか。		
	交通	近代～ 現代	道路遺構1			戦後まで使用されていた材木運搬用道路。馬車の車輪や馬の蹄の跡を検出。		
要約	旧石器時代ではブロック状に少量の遺物が出土。休場層からの出土で、高尾層年の4期後半に比定される。石器製作の痕跡は乏しい。縄文時代では167基の土坑が検出されている。ごく少数を除いてほとんどが陥穴状の土坑であり、陥穴状土坑としては静岡県最多の検出数である。重複する土坑もかなり見られ、多数が強く重複する例もある。少量だが、縄文前期～後期の土器が出土しており、県東部では類例の少ない加曾利B式土器も存在する。踏碓b式土器がやや多く出土した。また、中世以降の土坑等の他に、戦後まで使用された材木運搬用の馬車道が検出された。							

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第226集

千福南山Ⅲ西遺跡

第二東名No148-2 地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
裾野市-6

平成23年1月31日

編集・発行 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002 静岡市駿河区谷田23-20
TEL 054-262-4261(代)

印刷所 みどり美術印刷株式会社
〒410-0058 沼津市沼北町2丁目16番19号
TEL 055-921-1839(代)

